

黒谷川郡頭遺跡Ⅲ・Ⅳ

昭和61.62年度発掘調査概報

1989

徳島県教育委員会



調査区全景(西より)

序

黒谷川中小河川改修事業に関連した黒谷川郡頭遺跡の発掘調査は、これまでに4次にわたる調査を終了しました。本報告書は第Ⅲ・Ⅳ次調査について調査成果をまとめたものです。

黒谷川郡頭遺跡は弥生時代後期後半から古墳時代初頭の徳島県を代表する集落遺跡です。この遺跡の性格・規模については、調査を重ねるたびに明かになりつつあり、朱の精製を通じて他地域と交流をもった集落であることが確認されるようになりました。

第Ⅱ次調査で判明した朱の精製のあり方については、今回の調査報告により、より具体的になったものと思います。また出土した土器に関しても本県の弥生時代から古墳時代への移り変わりを知る上で貴重な資料となるものと考えております。

本書が学術資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する理解を深めて頂く一助となりますことを願ってやみません。

調査にあたり御指導・御理解を頂きました関係各位ならびに関係機関の方々に厚くお礼を申し上げますとともに、今後の調査に付きましても御助力頂きますようお願い申し上げます。

平成元年3月

徳島県教育委員会

教育長 松本 富夫

例 言

- 1 本書は黒谷川中小河川改修事業に伴う発掘調査概要報告書である。
- 2 発掘調査は徳島県土木部河川課の委託を受けて教育委員会文化課が実施した。
- 3 調査は第Ⅲ次調査を昭和61年6月2日～10月13日、第Ⅳ次調査を昭和62年7月1日～11月30日の間実施した。
- 4 収録した資料のうち遺構は全員で分担実測したが、遺構の製図、遺物の実測製図、写真撮影は主に菅原が行い、大西、高岡、早瀬、扶川、白木が一部行った。
- 6 土色の判定に際しては、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帳」1967に依った。
- 7 今回の調査に下記の方々より御教示を受けた。

岡内三眞，浦上雅史，勝部明生，下條信行，滝山雄一，藤好史郎，山本三郎，松下 勝，佐伯二郎

- 8 調査は以下の組織で行った。

調 査 主 体 徳島県教育委員会文化課

課 長 柘田 務（当時）

課 長 補 佐 清水 博（当時）

庶 務 係 長 富積忠男（昭和61年度）天野尊温

主 事 大八木芳子

文化課保護班長 中田 正（当時）

調 査 担 当 事務主任 菅原康夫

整 理 担 当 菅原康夫，主事 大西浩正（昭和63年7月に業務の都合により，菅原ら大西に担当交替）

文化調査員 早瀬隆人，河野剛次，（以下当時）小浜直弘，赤穂英樹，平野 剛，後藤田加奈，飯領田久江〈第Ⅲ次調査〉

藤本仁司（当時），白木宏治，藤井 貴（当時）〈第Ⅳ次調査〉

- 9 本書の作成にあたっては早瀬隆人，高岡 裕，扶川道代，白木宏治，片山敦子（文化財調査員）桜井厚子（作業員）の協力を得た。

- 10 本書は菅原，大西が執筆し，大西が編集した。観察表の作成は，主として早瀬，高岡，扶川が行った。



本文目次

I 調査の経過	1
II 遺構と遺物	6
<第Ⅲ次調査>	
住居跡SB301	6
住居跡SB302	10
土坑SK307	13
住居跡SB303	14
住居跡SB304	15
住居跡SB305・308・309・310	20
住居跡SB306	22
住居跡SB307	24
土坑SK308	26
土坑SK301	29
土坑SK302	29
土坑SK303	30
土坑SK304	31
土坑SK305	31
土坑SK306	33
土坑SK309	34
掘立柱建物跡SA103	34
溝 SD301	34
溝 SD302	34
石製品	39

〈第Ⅳ次調査〉

住居跡SB401	42
土坑SK401	42
土坑SK402	45
土坑SK403	46
掘立柱建物跡SA401	46
大溝SD401	47
溝SD402	49
包含層出土土器	51
弧帯文・記号文土器	53
土製品	55
Ⅲ ま と め	57

插图目次

fig. 1	調査区位置図	1
fig. 2	第Ⅰ～Ⅲ次調査区遺構配置図	2
fig. 3	第Ⅳ次調査区水没状況	3
fig. 4	第Ⅲ次調査区遺構配置図	(折り込み)7, 8
fig. 5	住居跡SB301実測図	9
fig. 6	住居跡SB302実測図	10
fig. 7	住居跡SB302出土土器実測図	12
fig. 8	土坑SK307実測図	13
fig. 9	住居跡SB303実測図	15
fig. 10	住居跡SB304実測図	16
fig. 11	住居跡SB304中心柱穴内遺物出土状況実測図	16
fig. 12	住居跡SB304床面遺物出土状況実測図	17
fig. 13	住居跡SB304土器出土状況実測図	17
fig. 14	住居跡SB304出土土器実測図	19
fig. 15	住居跡SB304出土土器実測図	21
fig. 16	住居跡SB305, 308, 309, 310実測図	23
fig. 17	住居跡SB305出土勾玉実測図	24
fig. 18	住居跡SB306実測図	24
fig. 19	住居跡SB306遺物出土状況実測図	25
fig. 20	住居跡SB307実測図	25
fig. 21	各住居跡出土土器実測図	26
fig. 22	土坑SK308実測図	27
fig. 23	土坑SK308出土土器実測図	28
fig. 24	土坑SK301実測図	29
fig. 25	土坑SK302実測図	30
fig. 26	土坑SK302出土土器実測図	30
fig. 27	土坑SK303実測図	31
fig. 28	各土坑出土土器実測図	32
fig. 29	土坑SK304実測図	33

fig. 30	土坑SK305実測図	33
fig. 31	土坑SK306実測図	33
fig. 32	土坑SK306出土土器実測図	33
fig. 33	土坑SK309実測図	34
fig. 34	建物跡SA103実測図	35
fig. 35	溝SD301実測図	36
fig. 36	溝SD302実測図	37
fig. 37	溝SD302出土土器実測図	38
fig. 38	石杵, 石臼実測図	40
fig. 39	石臼実測図	41
fig. 40	第Ⅳ次調査区遺構配置図	(折り込み)43, 44
fig. 41	住居跡SB401実測図	45
fig. 42	土坑SK401実測図	45
fig. 43	土坑SK402実測図	46
fig. 44	土坑SK403実測図	46
fig. 45	各遺構出土土器実測図	47
fig. 46	建物跡SA401実測図	48
fig. 47	溝SD401実測図	49
fig. 48	土坑SD401出土土器実測図	50
fig. 49	溝SD402実測図	51
fig. 50	遺物包含層出土土器実測図	52
fig. 51	第Ⅲ, Ⅳ次調査出土の弧帯文, 記号文	54
fig. 52	第Ⅲ次調査出土の弧帯文土器	55
fig. 53	第Ⅲ, Ⅳ次調査出土の土製品	56

表 目 次

tab. 1	出土土器観察表	61
--------	---------	----

図 版 目 次

- P L . 1 第Ⅰ～Ⅲ次調査区航空写真（モザイク）
- P L . 2 第Ⅲ次調査区航空写真
- P L . 3 住居跡SB301炭化材検出状況（上：南より・下：東より）
- P L . 4 住居跡SB301完掘状況（上：南より・下：東より）
- P L . 5 住居跡SB302全景（南より）
- P L . 6 住居跡SB302床面遺物出土状況（上）
- P L . 7 住居跡SB303完掘状況（上）
土坑SK305遺物出土状況（下）
- P L . 8 住居跡SB304全景（上：東より・下：西より）
- P L . 9 住居跡SB304遺物出土状況
- P L . 10 住居跡SB304遺物出土状況
- P L . 11 住居跡SB304遺物出土状況
- P L . 12 住居跡SB304中心柱穴内遺物出土状況（上：石臼検出段階・下：除去後）
- P L . 13 住居跡SB305, 308, 309, 310全景（上）
住居跡SB305内勾玉出土状況（下）
- P L . 14 住居跡SB306全景（上：南より）
住居跡SB306内石臼出土状況（下）
- P L . 15 住居跡SB306内遺物出土状況（上：北より・下南より）
- P L . 16 住居跡SB306内土坑全景（上：北より・下：南より）
- P L . 17 土坑SK302全景（上：西より・下：南より）
- P L . 18 土坑SK303全景（上）
土坑SK303遺物出土状況（下）
- P L . 19 土坑SK303遺物出土状況
- P L . 20 土坑SK304全景（上）
土坑SK308全景（下）
- P L . 21 溝SD301, 302検出状況（西より）
- P L . 22 溝SD301, 302完掘状況（西より）
- P L . 23 溝SD302遺物出土状況

- P L . 24 溝SD302遺物出土状況（上）
土坑SK306全景（下）
- P L . 25 第Ⅳ次調査区全景（上：南より・下：東より）
- P L . 26 住居跡SB401全景（南より）
- P L . 27 土坑SK401全景（南より）
- P L . 28 土坑SK402, 403全景
- P L . 29 土坑SK403全景（東より）
- P L . 30 建物跡SA401全景（西より）
- P L . 31 溝SD401全景（南より）
- P L . 32 溝SD402全景（西より）
- P L . 33 住居跡SB302出土土器
- P L . 34 住居跡SB304出土土器
- P L . 35 住居跡SB304出土土器
- P L . 36 各住居跡出土土器
- P L . 37 土坑SK308出土土器
- P L . 38 各土坑出土土器
- P L . 39 土坑SK306・溝SD302出土土器
- P L . 40 石杵
- P L . 41 石臼
- P L . 42 遺物包含層出土土器
- P L . 43 第Ⅲ次調査出土弧帯文関連文様
- P L . 44 第Ⅲ次調査出土弧帯文関連文様
- P L . 45 第Ⅳ次調査弧帯文関連文様
- P L . 46 第Ⅳ次調査出土舟形土製品
- P L . 47 第Ⅲ・Ⅳ次調査出土勾玉・土製品

I 調査の経過

遺跡の範囲確認を目的とした昭和60年度黒谷川暫定掘削地内での試掘調査の結果、本遺跡は黒谷川と唐ノ口谷川合流地点以西では現流路にえぐられており、地表下3.5mでは青灰色の湿地状の堆積を示していることが明らかになった。遺跡の東端は現旧吉野川に切断されているようであり、現状では東西500mの範囲に遺跡が拡がることになった。この結果を踏まえ、昭和61年度は遺跡の西縁部分にあたる工事中心杭No. 4 +50~No. 5 にかけての約800㎡の調査、昭和62年度はすでに暫定掘削が終了しているものの、河床面より下層に遺物包含層が遺存しているNo. 2 +50以東の遺物散布範囲中心部分に850㎡の調査を実施した (fig. 1)。

第I~III次調査で検出された遺構は拡張、あるいは建て替えられた住居跡を含め、住居跡20軒・掘立柱建物跡3棟・方形周溝墓1基・井戸1基のほか、溝・土坑が密集している (fig. 2)。遺構の配置状況からは円形、方形を問わず住居跡が小さなまとまりをみせ、それに帰属すると思われる掘立柱建物跡を伴うようである。遺跡の中心は調査地以北にあ

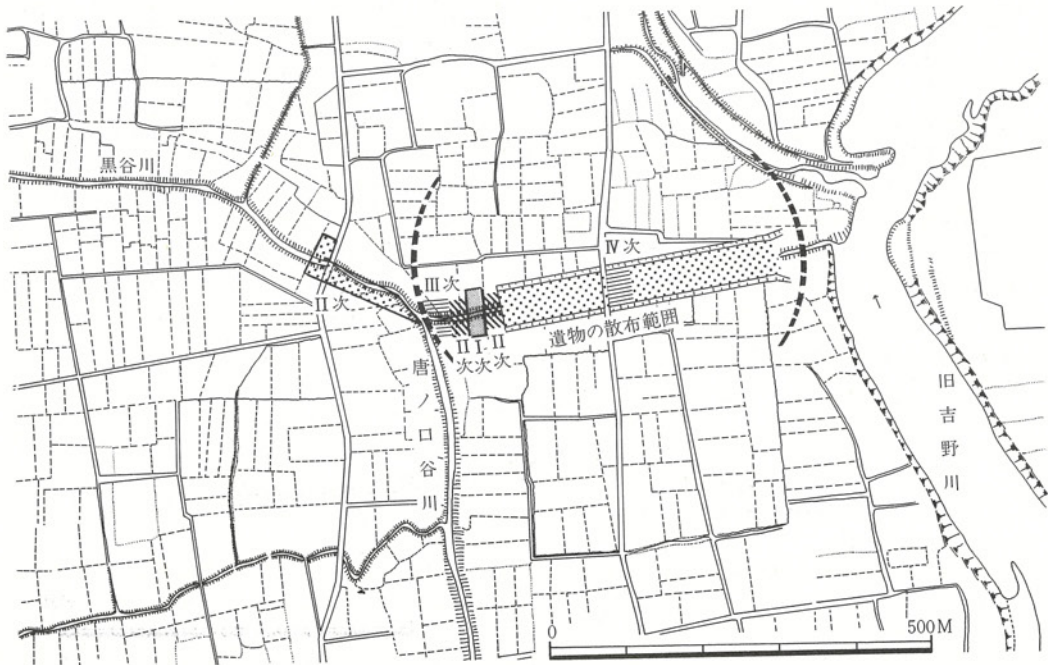


fig. 1 調査区位置図

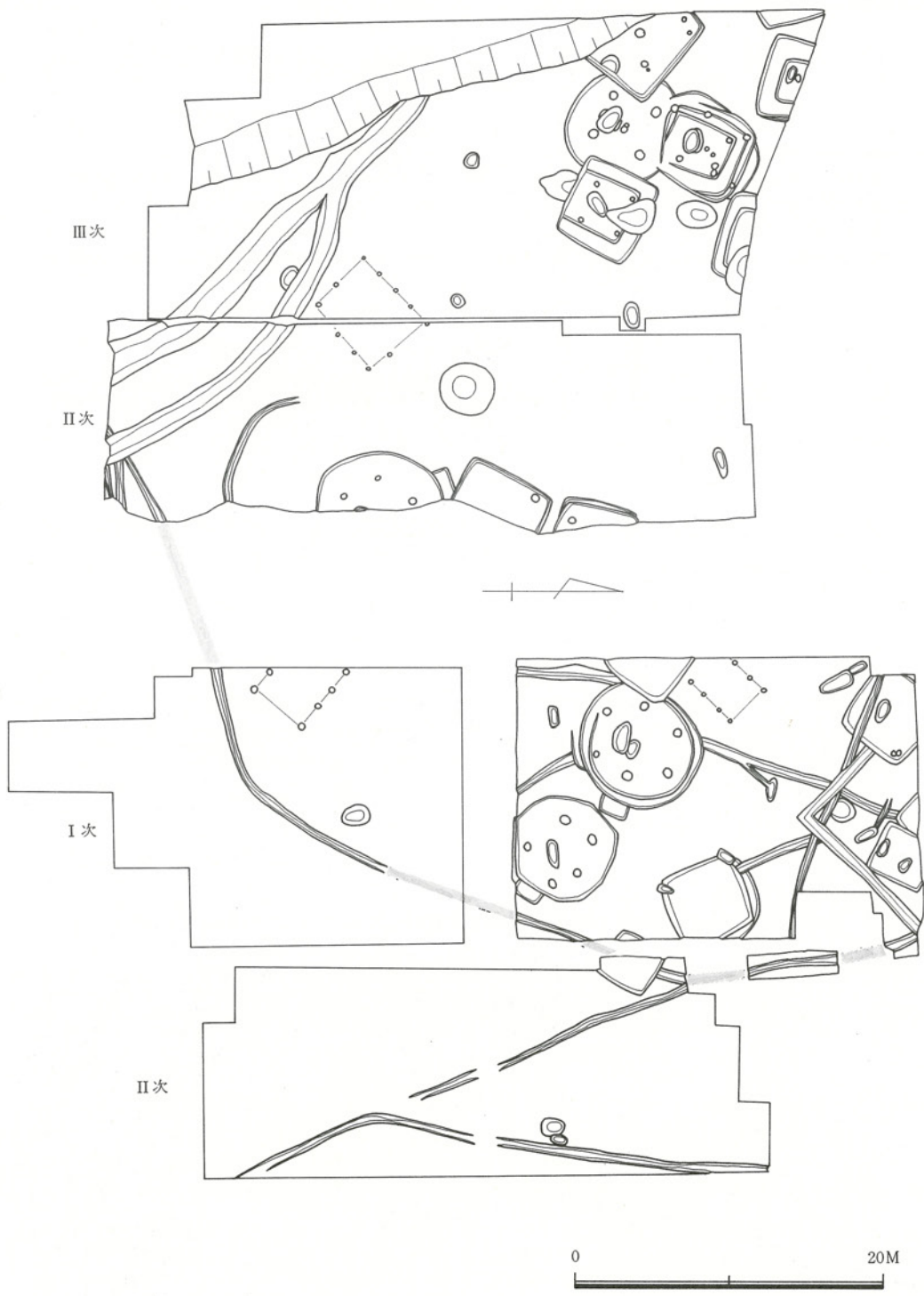


fig. 2 第I~III次調査区遺構配置図

ることが予想される。第Ⅳ次調査では遺構の形成度が低く、集落内での土地利用状況の把握が次年度以降の留意点となった。

第Ⅲ次調査は昭和61年6月1日から12月31日まで、第Ⅳ次調査は昭和62年8月1日から11月30日までの間を発掘および整理期間の一部にあてた。第Ⅳ次調査では調査終了直前に数年ぶりの台風に伴う

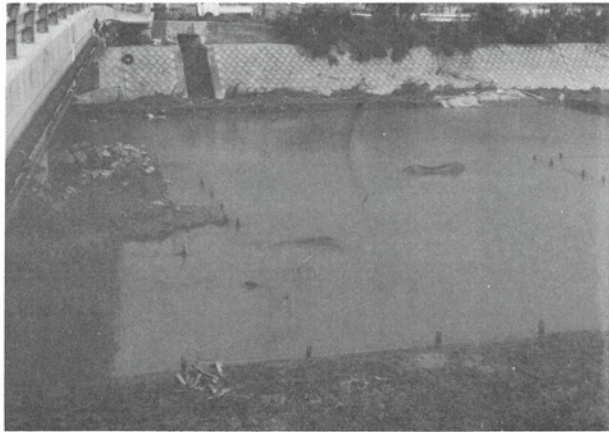


fig. 3 第Ⅳ次調査区水没状況

豪雨により、調査区内が激流に変わり、泥土による埋没という事態を招いたが、幸い遺構がまばらであったため、最小の被害にとどめることができた。河川敷での発掘調査の困難さを改めて実感した (fig. 3)。

以下調査の経過に触れる。

なお第Ⅲ次調査からは遺構分類の煩雑さを避けるため、第Ⅰ・Ⅱ次調査で用いた累計的な番号の呼称をやめ、調査年次の数字を用いる番号に変更した。第Ⅲ次調査で検出された遺構は300番台、Ⅳ次調査分は400番台で示した。

調査日誌抄

第Ⅲ次調査

- 1986. 6. 3 調査地区杭設定し、第Ⅲ次調査開始。
- 6.10 現場へ資材搬入。暫定掘削面の精査を始める。
- 6.13 グリッド設定。調査区西半で中世落込み検出。
- 6.26 E-16グリッドで住居跡S B 302の平面プラン確認。
- 7. 2 包含層までの荒掘り完了。中世の大溝から遺構の掘り下げ開始。
- 7. 4 中世大溝完掘。遺構面上面の精査を本格的に開始する。
- 7.10 土坑S K 304より弧帯文の線刻がある球状土製品が出土する。
- 7.11 溝S D 302, 土坑S K 309掘り下げ開始。
- 7.18 梅雨あける。住居跡S B 301が方形の火災住居跡であることを確認する。各住居跡切り合いがほぼ明らかとなる。

- 7.24 住居跡S B 305, 309間に新たに切り合いがあることが判明する。住居跡S B 305, 溝S D 302完掘。
- 7.28 住居跡S B 304床面を精査した結果, 柱穴・炉を確認し検出に努める。NHK取材。
- 8. 4 土坑S K 303, 304完掘。S K 303より小型丸底鉢出土。
- 8. 6 遺構完掘写真撮影。遣り方を設定し, 遺構実測開始。大溝からの湧水が著しく作業難行。
- 8.12 住居跡S B 301, 304平面図, 土層図作成。盆休みに入るため安全対策を行う。
- 8.26 住居跡S B 306床面より石臼出土。住居跡S B 305より蛇紋岩製の勾玉出土。溝SD 302の実測が完了する。
- 9. 4 毎日排水作業に時間を取られながら遺構実測を続ける。航空写真撮影に備えての調査区周辺の草刈を開始する。
- 9.13 前夜の雨で河川敷に設けたへりポート冠水する。
- 9.16 雨による水位の上昇に悩まされながらも, 懸命の排水作業の結果, 航空写真撮影を敢行する。
- 9.20 平板測量開始。
- 9.27 現地説明会実施する。見学者は100名程度。
- 9.30 各遺構で最終確認を行う。
- 10. 3 遺構実測図の最終チェックをする。資材の片づけをし, 野外での作業を終了する。板野西小学校5, 6年生徒見学。
- 10.13 資材搬出。発掘調査を一応終了する。
- 10.14 以後報告書作成を目指した整理作業に入る。

第IV次調査

- 1987. 8. 1 資材搬入。直ちに調査区内の下草刈を開始する。
- 8. 3 調査区設定と同時に表土除去開始。
- 8.12 表土除去を進める。調査区南東隅で遺構面確認。盆休みに入るため安全対策に努める。
- 8.18 黒谷川旧護岸に伴う石組を除去。午後より雷雨のため作業が中断する。
- 8.25 2H 8グリッドより舟形土製品破片が出土。

- 8.31 台風の影響で暴風雨となる。雨の合間をみて排水作業を行う。
- 9. 2 大溝S D401掘り下げ。湧水が著しく作業が難航する。
- 9. 4 土坑S K401石鏝、鉄鏝、砥石出土。
- 9. 7 遣り方設定。土坑S K402のプランを追求する。大溝S D401, 土坑S K401検出を続行する。
- 9. 8 調査区北端より溝S D402が、わずかに遺存する状態で確認される。
- 9.10 土坑S K401写真撮影。S K402, 403プラン確認と同時に掘り下げ開始。
- 9.17 全調査区で遺構面の精査を開始する。円形住居跡S B401検出。
- 9.18 掘立柱建物跡S A401確認、ただちに柱穴の掘り下げを行う。
- 9.25 調査区冠水のため、遺構の崩壊が各所で目立つ。円形住居跡S B401, 溝S D402掘り下げを開始するとともに、平面実測も開始する。
- 10. 7 航空撮影に備え、調査区周辺の草刈を開始。平面図作成に全力を集中する。
- 10.12 ヘリポート設営。NHK取材。
- 10.15 各土坑完掘写真を撮影する。
- 10.16 台風19号の接近のため暴風雨となる。河川増水し、調査区が激流となる。プレハブにも窓ガラス破損等の被害がでる。
- 10.19 台風のあとかたづけをする。流出したかと思われた調査区の被害が以外と少なく、排水・復旧に努める。
- 10.23 調査区の復旧がほぼ完了したため、延期していた航空撮影を10.26に決め準備にかかる。
- 10.26 雨天の中航空撮影敢行。
- 10.30 調査区全景写真、各遺構の取り残し写真撮影。資材撤去し、第Ⅳ次調査を一応完了する。

II 遺構と遺物〈第Ⅲ次調査〉

第Ⅲ次調査で検出された遺構は住居跡10, 土坑8, 掘立柱建物跡1, 溝2である。調査区の南西部分は現在では堆積が進み, 流路幅の狭まっている唐ノ口谷川の本来の岸部分である。遺構面の海拔は約1.1mである (fig. 4)。なお土器の分類については前年度までの報告の基準で踏襲している。

住居跡 S B 301 (fig. 5)

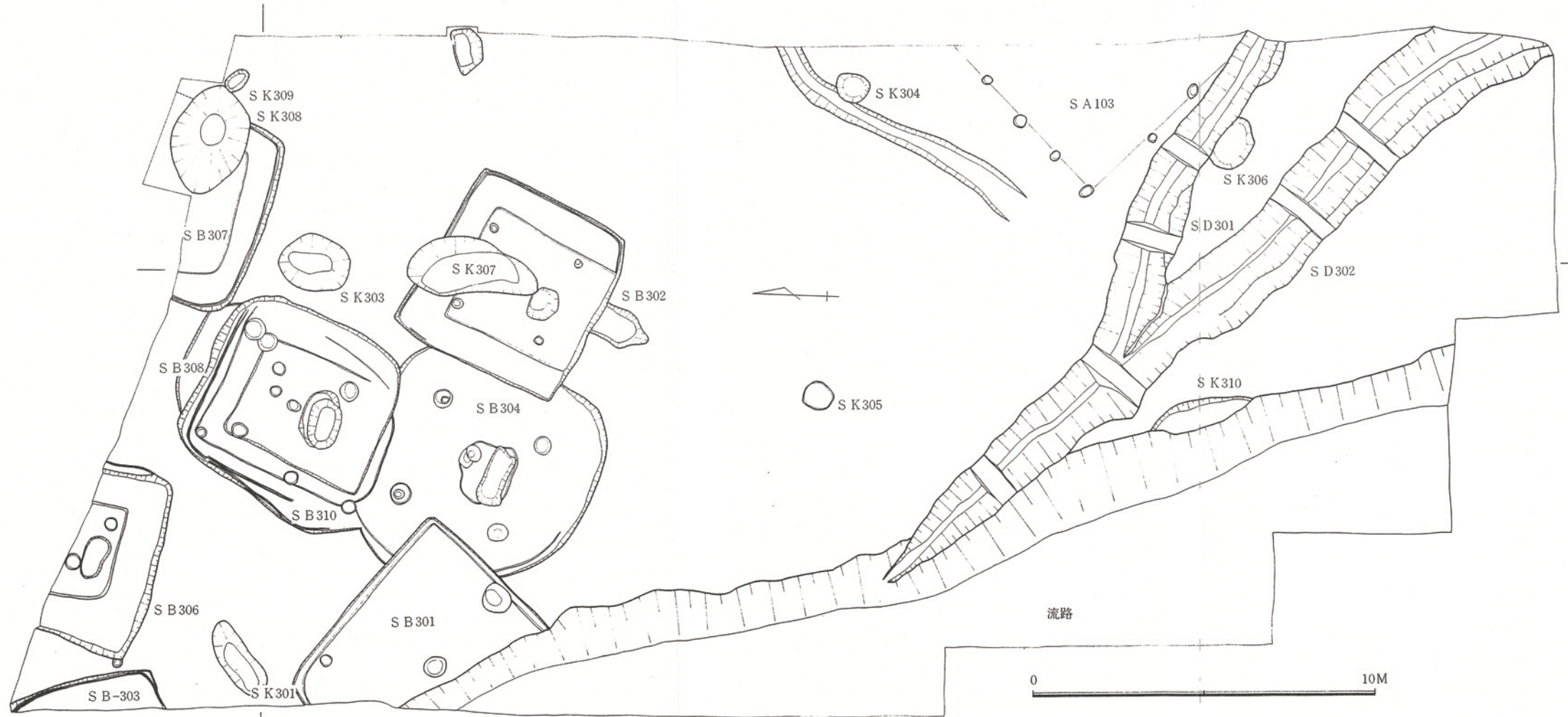
調査区西端で検出された方形の焼失家屋である。南隅および西部分を流路に切られている。一辺6.4mを測り, 検出側から床面までの深さは12cmと浅い。住居跡内は黒褐色粘質土が堆積している。壁際から床中央にかけて炭化材, 焼土が拡がっており, 棟木の炭化材と考えられる (fig. 4)。本遺跡では焼失家屋はこれまで第Ⅰ次調査のS B 102 (2号住居跡), 今回報告のS B 303に認められる。確実な焼失家屋とはいえないものの, 埋積土に炭化材, 焼土を含む例にS B 101, S B 104がある。

壁際に沿って幅23cm, 深さ22cmの周溝がめぐり, 北東壁側には一部別の周溝痕跡をとどめているが特にこの部分では焼土が著しい。床中央部と推定される部分に1個所, 南西壁部分に周溝を切って1個所土坑が掘り込まれている。主柱穴の確認はP. 1以外にはできなかった。床から転倒した甕形土器が出土しており, 周溝から擦痕をとどめる砂岩角レキが飛散った状態で検出された。砂岩レキは加熱されており, 朱精製の石臼としての認定を欠くが, 不定形の擦痕をもつ砂岩れきが各住居跡に比較的認められるため, あながち朱精製の道具であることを否定する訳にはいかない。資料の蓄積をまって結論したい。黒谷川Ⅲ式ととらえた土器相より新しい様相を示しており, Ⅳ式が設定できる可能性を充分に残している。当然検出された遺構の中では最も新しい年代を示すものである。

住居跡S B 301 出土の土器 (fig. 21-10, 11)

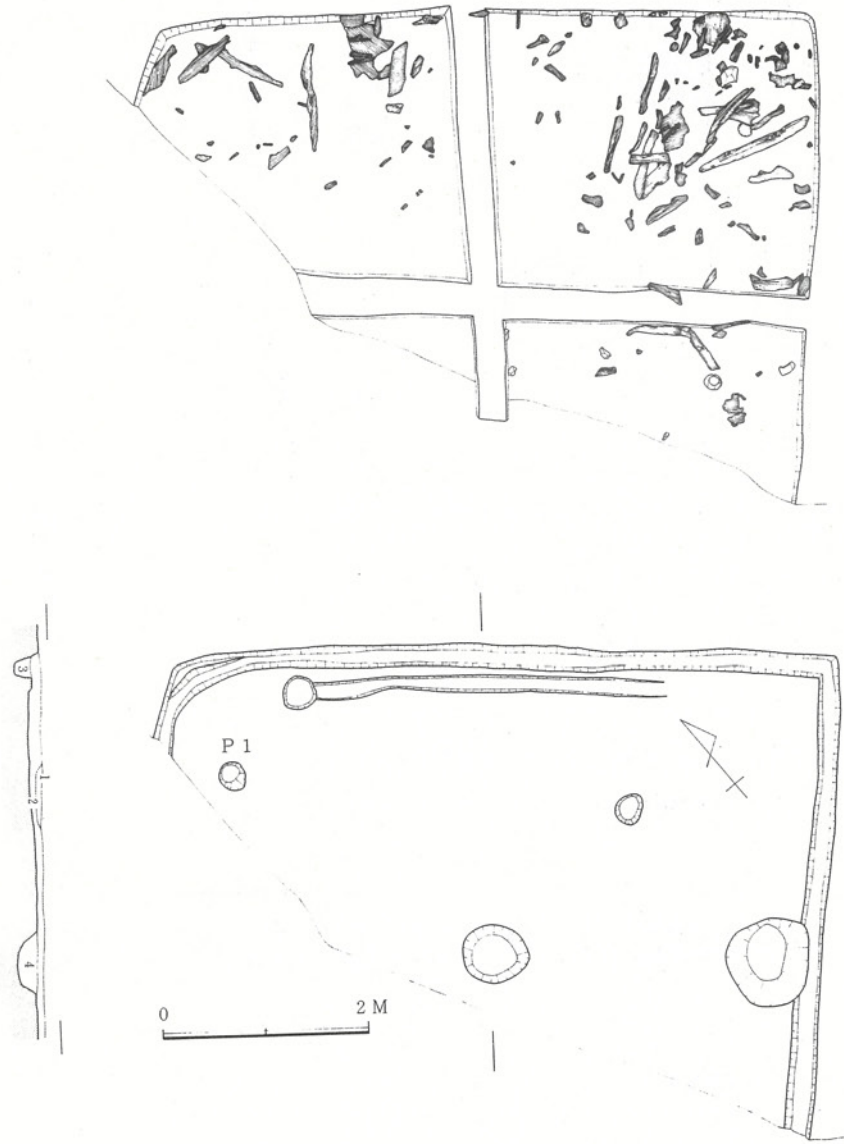
甕形土器 (10) は球形の体部中央に最大径をもち, 口縁部は強く外反する。小型の甕形土器である。体部外面はタテハケ, 内面は中位下半にヘラケズリを施しており, 砂粒の多い胎土となっている。

鉢形土器は (11) は平坦な底部をもち, 口縁端部は僅かに内傾する。体部外面はやや粗



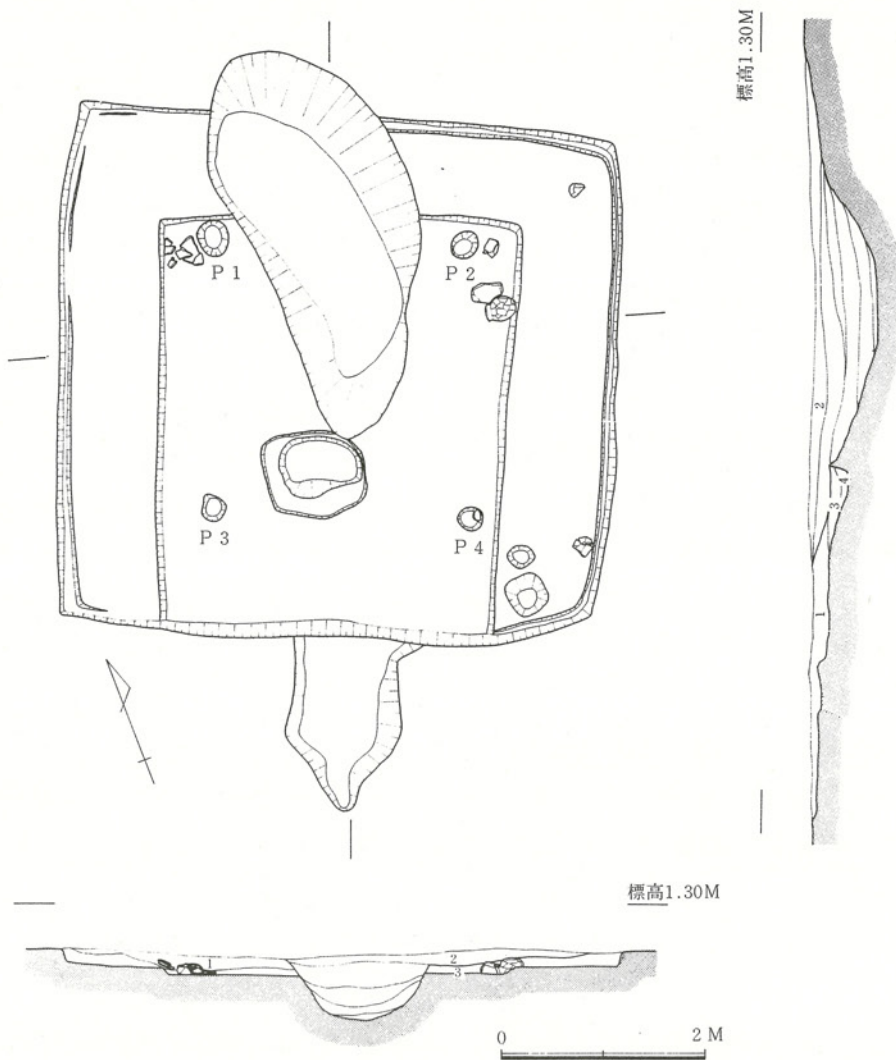
標高1.30M

fig. 4 第三次調査区遺構配置図



1. にぶい黄褐色10Y R4/3粘質土 2 黒褐色2.5Y3/2粘土質(焼土・炭化物を含む)
 3. 赤褐色5 Y R4/6粘質土(焼土・炭化物を含む) 4. オリーブ褐色2.5Y4/3粘質土

fig. 5 住居跡 S B 301実測図



- 1. 暗オリーブ褐色2.5Y3/3(黄褐色2.5Y5/4粘質土をブロック状に含む,炭化物を含む)
- 2. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土 3. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土(焼土・炭化物を含む)
- 4. 黒褐色2.5Y3/1粘質土(焼土・炭化物を多量に含む)

fig. 6 住居跡 S B 302実測図

いへラケズリ, 内面はタテヘラミガキである。

住居跡S B 302 (fig. 6)

調査区中央部, やや北部分に構築された方形住居跡で, 円形住居 S B 304を切り込んでいる。北壁部から床中央にかけて土坑 S K 307に大きく掘り込まれている。北・南壁の長さ5.2m, 西壁5.05m, 東壁4.65mのややいびつな方形プランを示している。南壁に接して

外側に幅約1.1m、長さ1.7m、深さ10cmの浅い落込みを伴っており、住居への出入口ととらえることができる。

住居跡内埋積土は1：暗オリーブ褐色粘質土、2：暗灰黄色粘質土である。高さ8cm、幅90cmのベッド状遺構を北、東西の三方向で「コ」の字形につくり出す。ベッド状遺構を囲んで周溝がめぐらされている。検出面から床面までの深さ約14cmである。四本主柱の構造であり、各柱心間距離P1～P2、2.45m、P2～P4、2.70m、P3～P4、2.60m、P1～P3、2.7mである。

床中央部より南に東西104cm、南北87cm、深さ17cmの炉跡が形成されている。埋積土は2層に分離される (fig. 6 土層図3・4)。

床面遺物にはP1際から広口壺形土器 (fig. 7-3)、P2際に据え置かれた砂岩角レキ横から広口壺形土器 (同2)、P4上面から鉢形土器 (同10) が出土している。砂岩角レキは明確な使用痕をとどめないが、台石と認定すべきものである。黒谷川Ⅱ式(新段階)の年代が与えられる。

住居跡S B 302出土の土器 (fig. 7)

図示した以外に擬凹線を施す二重口縁壺形土器、高杯形土器、大型の鉢形土器などが出土している。広口壺形土器(1)は従来の報告でB3と分類しているものであるが、口縁部の外反が強く、ほぼ水平に広がる。二条の擬凹線をとどめ、端部を強くつまみ出している。

(2・3)は広口壺形土器B1に属す。平底で中位あるいは中位下半に最大径のある体部をもつ。短い頸部と緩やかに外反する口縁部とからなる。端部のつまみ上げは行われず、角張っておさめる。(2)は頸部と口縁部の境がさほど明瞭ではなく外反する。体部外面は右上りの幅細のタタキののち、タテハケ。内面は上半ヨコハケのち、中位に粗いヘラミガキ、下半は入念なヘラケズリで仕上げている。(3)は右上りの極細のタタキ+ナナメハケ+細かなヘラミガキ。内面はナナメハケ、底部に粗いケズリを残す。体部外面中位下半に煤の付着をとどめている。いずれも丁寧に仕上げられているが、胎土中に微砂粒を多量に含んでおり、共に搬入土器と考えられる。

甕形土器(4)は「く」の字形に外反する口縁部をもつもので、胎土・色調から明らかに搬入土器とみられるものである。口縁部内外面を細かなハケで調整しており、体部内外面もハケで施す。(5)は倒卵形の体部をもつ甕A₁と分類したもので、口縁部の外反が弱く

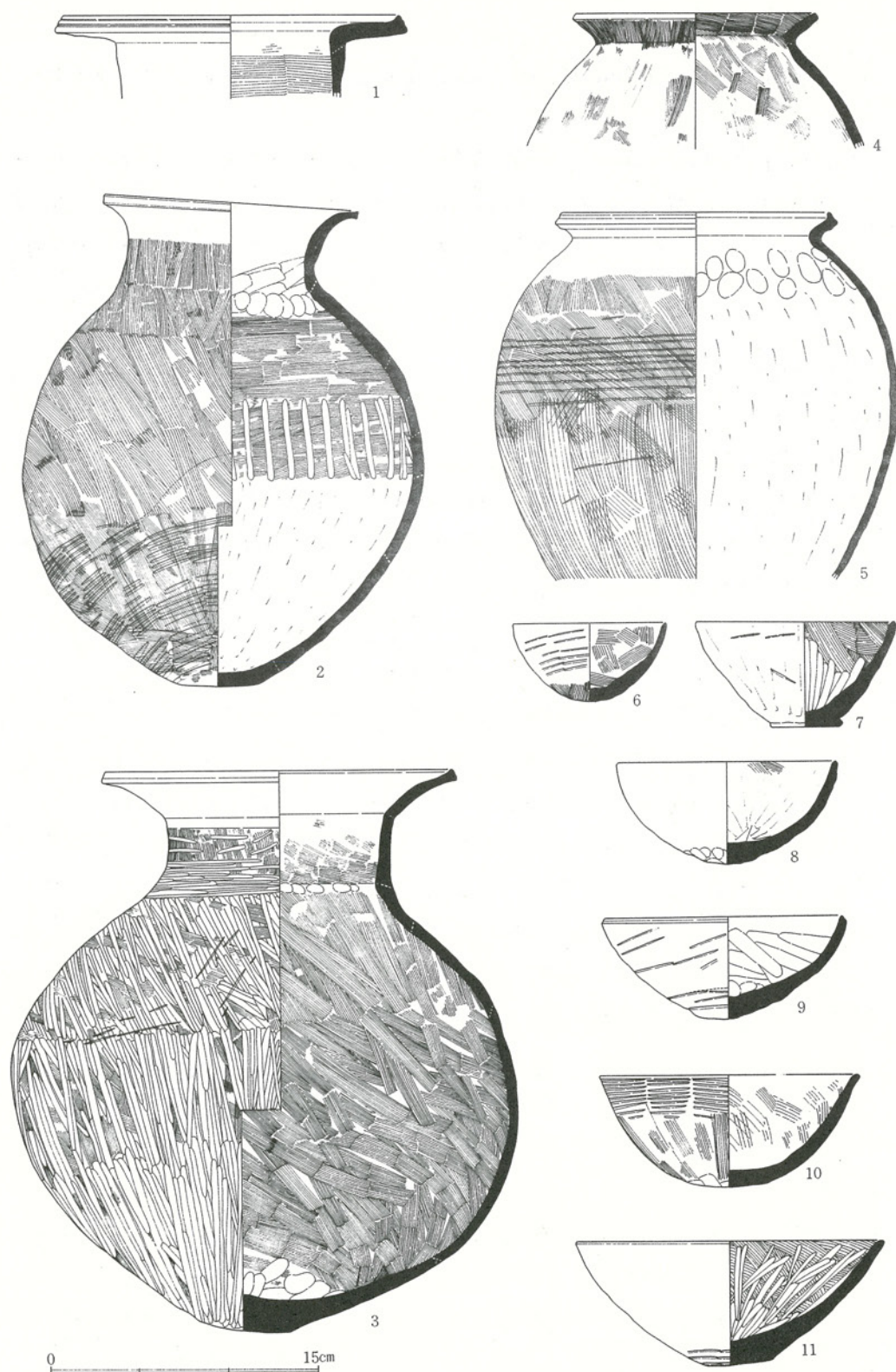
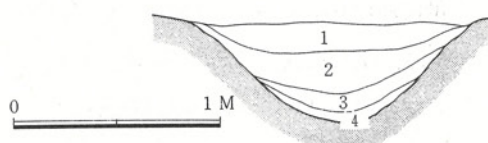
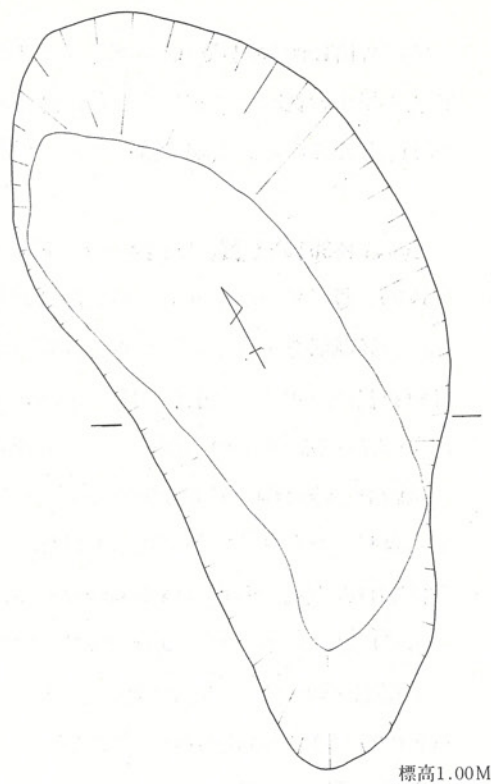


fig. 7 住居跡 S B 302出土土器実測図

端部を内側につまみ出している。外面は細い水平のタタキののちハケ調整。内面は上位にユビオサエを行い、上位下半は原体幅が識別できないヘラケズリを施している。

鉢形土器（6～11）は小型から中型のものが出土している。

胎土中に結晶片岩を含むものは(6)のみであり、その他は搬入された可能性が高い。(6・8・9・10)は半球形の体部をもつ鉢Aである。いずれも外面タタキののち下半をハケ調整。内面はハケ(6・10)、ヘラケズリ(8・9)である。(7)はわずかに外方に突出する平底を示し、上方に直線状に伸びる体部をもつもの。外面は右下がりの幅細のタタキ+板ナデ、内面はタテハケののち幅の細い粗なヘラケズリを施している。(11)は平底で緩やかに上方に立ち上がる体部をもち、片口を形成している。外面は水平タタキののちナデで調整されるが、胎土の収縮による亀裂をとどめている。内面はナナメハケののち粗い放射線状のヘラミガキで仕上げている。このうち(9・10)は淡赤褐色を呈し、胎土中に多量の長石粒、微砂粒、金雲母を含んでいる。この種の色調・胎土をもつ土器は淡路島三原平野の遺跡出土資料の中に類例があり、彼の地からの搬入とも考えられよう。



1. 灰オリーブ色 5 Y 4/2 粘質土(炭化物を含む)
2. 灰色 5 Y 4/1 粘質土(炭化物を含む)
3. オリーブ褐色 2.5 Y 4/3 砂質土
4. 暗灰黄色 2.5 Y 4/2 粘質土

fig. 8 土坑 S K 307 実測図

土坑 S K 307 (fig. 8)

住居跡 S B 302 を切っており、底は地山下の砂層に掘り込んでいる。不整楕円形の平面プランで、南北に主軸をもつ。長軸 3.86m、短軸 1.67m、長さ 48cm の緩やかな U 字形の断面を示している。遺構内埋積土は 4 層に分離され、1：灰オリーブ粘質土、2：灰色粘質土、3：オリーブ褐色砂質土、4：暗灰黄色粘質土となっている。底では海拔 21cm である。

土坑の性格は明らかではないが、1・2層を中心に廃棄された土器片が出土している。乳灰色を呈す軟質の広口壺形土器片、高杯形土器片などが比較的目につき、搬入された土器を多く含んでいることが指摘できる。黒谷川Ⅲ式（新）の時期である。

土坑S K 307の土器 (fig. 28-9~13)

鉢形土器（9）は平底で、外底面に木葉圧痕をとどめている。体部は緩やかに立ち上がり、口縁端部を角張っておさめる。外面は水平もしくは右上りのタタキののちナデ、内面は断続したハケで、底面にクモの巣状のハケを施している。明赤褐色で微粒の長石を多量に含んでいる。厚手の土器で、これも淡路産であろう。

器台形土器は本遺跡では極めて少ない器種である。（10）は脚部外面を粗いタテハケにより調整したもので、脚部を挿入付加している。胎土中に大粒の砂粒を含んでおり、これも他地域の土器と考えられるものである。

（11）の高杯形土器は緩やかに外反する深い杯部と大きく広がる脚部とからなる。脚部に4孔を施す。杯部外面は細かなタタキ+ハケ、内面は屈曲部に明瞭な段を形成し、ヨコハケののち放射線状のヘラミガキを行っている。

甕形土器（12・13）はいずれも小型のもので、弱く外反する口縁端部をつまみ出し、倒卵形の体部をもつものであろう。外面極細のタテハケで調整されており、内面上位ユビオサエ、下半に密なヘラケズリをとどめている。共に非常に薄手で、入念に仕上げられている。これらは胎土に結晶片岩を含んだものである。

住居跡S B 303 (fig. 9)

調査区北西隅に一部確認された方形住居跡である (fig. 9)。一辺の長さ4.2m以上を測る。検出面から床面までの深さ20cmで、床直上に炭化材の拡がりを認められた。壁に接して床には幅8cm、深さ5cmの小さな周溝が配されているが、コーナ部分では壁の平面プランに一致せず、隅丸の形状を呈している。住居跡内はオリーブ褐色粘質土で充填されている。主柱穴の配置は不明である。出土遺物も少量の細片のみであり、厳密な年代を確定することはできないが、小型精製の壺形土器片、讃岐系甕形土器片を含んでおり、黒谷川Ⅱ式の年代を想定しておきたい。他に形状不明の鉄器片が出土している。

住居跡 S B 304 (fig. 10)

S B 301, S B 302, S B 309 など各住居跡に切られた円形の堅穴住居跡である。直径 7 ~ 7.58m といびつな平面形を示す。

深さ 34cm を測る (fig. 10)。炉跡が 2 箇所切り合っており、壁の一部に段差があることや、本住居跡を切っている S B 301 の床掘り下げ完了後に、別の掘り方が検出された

ことから、建替えの行われていることを指摘できる。住居跡内埋積土は、1 : 暗褐色粘質土、2 : オリーブ褐色粘質土の 2 層である。

主柱穴は中心柱穴を伴う 4 本主柱の構造で、掘り方は径約 55cm である。柱穴間距離は P 1 - P 2 : 3.05m, P 2 - P 4 : 3.15m, P 3 - P 4 : 2.88m, P 1 - P 3 : 3.13m。中心柱穴 (P 5) からそれぞれの柱穴間距離は P 1 : 2.48m, P 2 : 1.78m, P 3 : 2.45m, P 4 : 2.05m であり、各柱穴の計測可能な深度は P 1 : 54cm, P 2 : 32cm, P 3 : 34cm, P 4 : 30.5cm であるが、いずれも地山下層の砂層に達しており、本来の深さを確認することはできなかつた。中心柱穴 P 5 は東西 39cm, 南北 51cm, 深さ 18cm で、オリーブ黒色粘質土の堆積が認められる。平面プラン確認段階で内部に砂岩平石が据え置かれており、さらにその下部に鉢形土器 1 個体が正位を保って埋置されていた。深度が浅いことなどを勘案すると、中心柱穴ととらえたものの、住居跡に係る地鎮の機能を果たした遺構と考えるべきかもしれない (fig. 11)。

砂岩平石には縁辺に一部加熱された痕跡を残しているが、両面に擦痕をとどめる。また検出面の裏面、すなわち鉢形土器に接した面には 3 × 4 cm の範囲に朱の付着が認められ、石臼として使用されたことが伺える。概要報告書 I で I 式の鉢形土器に朱を付着するものがあり、朱の精製時期が後期後半まで遡ることを予想したが、本資料は道具の上からそれを裏付けるものといえよう。

床面直上からの遺物には南東壁際の鉢形土器、石臼片、北東部柱穴 P 1 周辺に散在した土器溜りの 2 箇所がある。

遺物の検出された南東壁部分は床に接する地点に僅かに段を形成している。この地点の遺物には小型の鉢形土器 2 個体が遺存しており、そのすぐ北側に砂岩角レキが 7 点検出された。砂岩レキは意図的に積上げた状態であり、内 1 点には擦痕が認められると共に、北

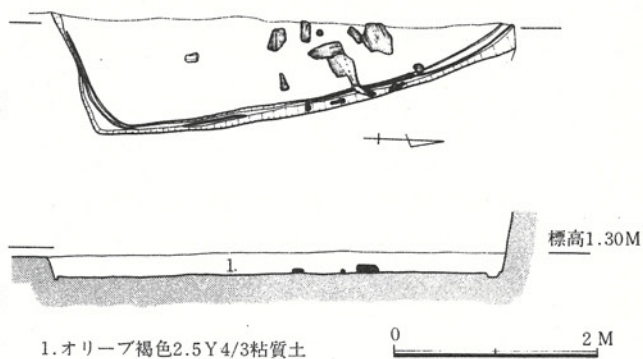
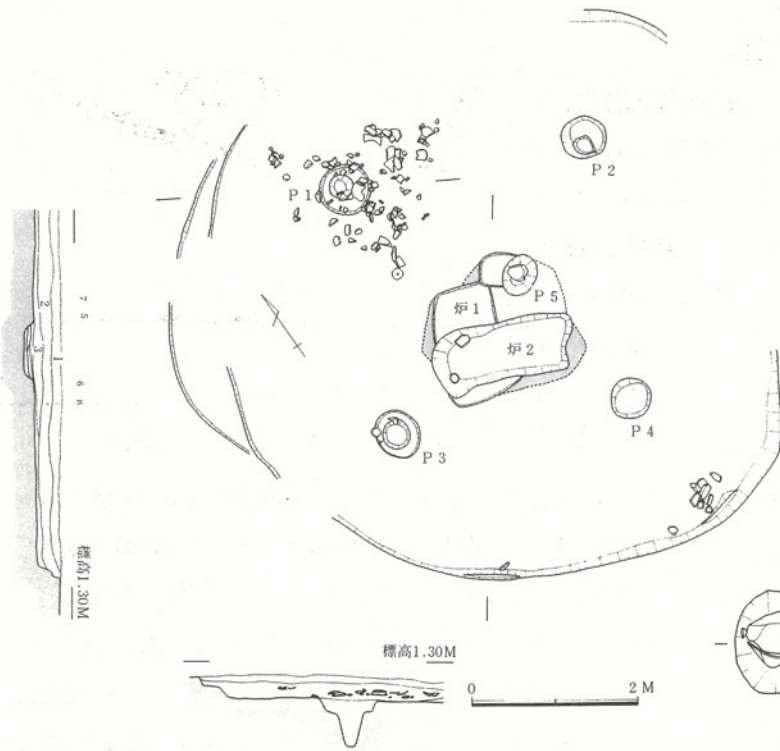
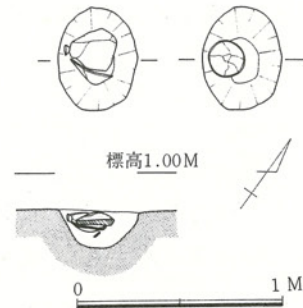


fig. 9 住居跡 S B 303実測図



1. 暗褐色10Y R3/3粘質土
2. オリーブ褐色2.5Y4/3 粘質土(焼土をブロック状に含む)
3. 暗褐色10Y R3/4粘質土(焼土を多量に含む)
4. 暗オリーブ褐色2.5Y3/3粘質土(黄褐色2.5Y5/4粘質土をブロック状に含む)
5. 黒褐色10Y R2/2粘質土(部分的に焼土を含む)
6. 褐色10Y R4/4粘質土(焼土・炭層)
7. 黒褐色10Y R2/2粘質土(炭層)
8. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土(焼土・炭を含む)

fig. 10 住居跡 S B 304実測図



1. オリーブ黒色5 Y3/1粘質土(炭化物を含む)

fig. 11 住居跡 S B 304中心柱穴内
遺物出土状況実測図

東部に形成された柱穴P1掘り方土面の土器溜りで検出された砂岩と接合関係をもつ。これも片面が剝離しているが、朱精製の石臼と認定することができる (fig. 12)。

北東部分の土器溜りは柱穴P1掘り方上面に形成されたもので、住居跡廃絶に際して投棄されたものであろうか。壺形土器、鉢形土器などが出土している (fig. 13)。

中心柱穴のすぐ南西に構築された炉跡は、南北に主軸をもつものと東西に主軸をもつものが切り合っている。炉1は長軸1.94m、短軸78cm、僅かにその痕跡をとどめるのみである。炉2は長軸1.75m、短軸67cmと炉1よりやや小規模であり、深さ12cmを測る。炉周辺には灰の掻き出し痕が遺存している。炉2内より小型の鉢形土器1個体が検出された。

黒谷川I式でも新しい時期のものである。

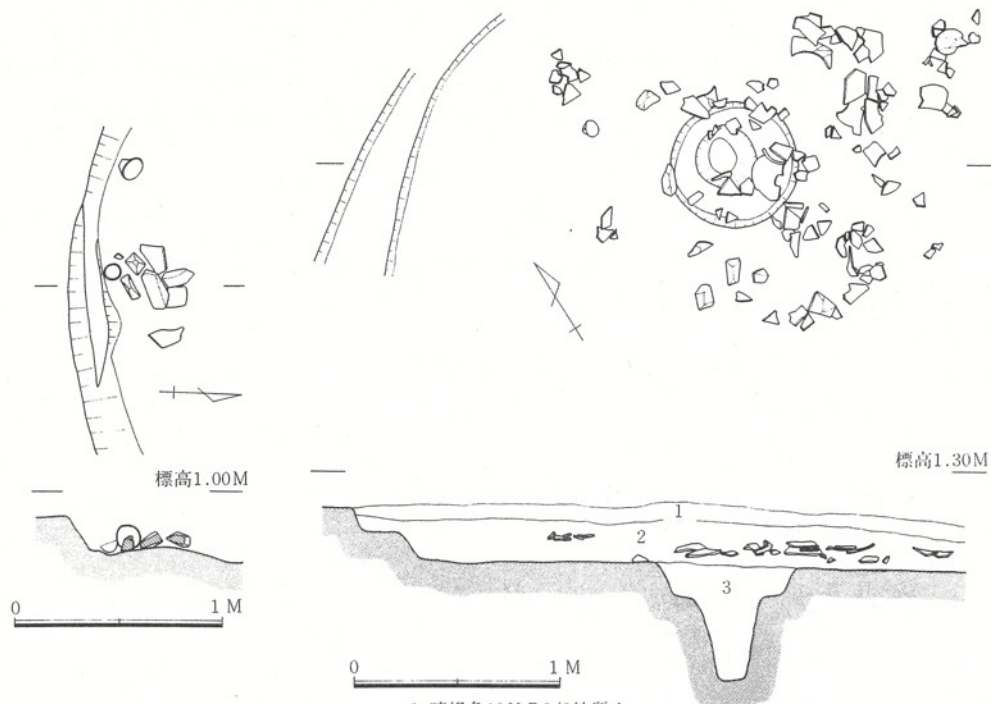


fig. 12
住居跡 S B304床面遺物
出土状況実測図

fig. 13 住居跡 S B304土器出土状況実測図

住居跡S B304出土の土器 (fig. 14・15)

住居跡埋没までの間に若干の時間幅があったようであり、出土した遺物は埋積土上面資料を含め、多少の時期差を示しているが、大要Ⅱ式(古)のものが大部分を占める。甕形土器には第Ⅴ様式系のタイプのは少ない。

広口壺形土器(1~8)には後期後半・黒谷川Ⅰ式のものから庄内式(古)・黒谷川Ⅱ式のものを含んでいる。

広口壺形土器(1)は口縁部に断面三角形の垂下する端部を貼り付けたもので、3条の擬凹線を施し、内外面共細かなハケで調整している。口縁部内面に黒斑をとどめている。

(2・3)のタイプは、Ⅰ式にみられる筒状の頸部と球形の体部からなる広口壺形土器であるが、口縁端部に形態変化がみられる。内外面共入念なヘラミガキで調整するが、(3)にはヘラミガキ以前のハケをとどめ、口縁端部に弱い1条の擬凹線を施している。

(4)はほぼ水平に口縁部が大きく外反するもの、(5・6)は短く頸部と大きく外反する口縁部をもつ壺形土器である。(5)は内傾気味に立ち上がる頸部をもち、口縁部は強く外方に張り出し、端部を上下に拡張、2条の弱い擬凹線を施す。概要報告書Ⅰの溝1・

S D101出土の壺形土器の後出形態と考えられるものであろう。萩原墳墓墳丘上出土資料に類似するタイプのものであり、香川県鶴尾神社4号墳や大浦浜遺跡で出土している壺形土器と同じ系譜のものである。

(6) は大きく膨れる体部をもち、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反するもので、口縁端部は僅かに上方につまみ出している。体部外面細かな幅細のタタキののちタテハケ、内面は頸部体部境にヨコハケを施したのち、体部上位からヨコヘラケズリで調整している。淡赤褐色を呈し、やや厚手で軟質。淡路産のものと考えられる。(4~6) はⅡ式の時期に属するものである。図示していないが、(6) と同一の胎土・色調をもつ甕形土器には口縁端部を尖り気味におさめる第Ⅴ様式系のものも含まれている。

(7) の壺形土器は加飾された垂下口縁をもつもの。口縁上端部に断面三角形の粘土紐を貼り付ける。上位に円形竹管文、中位に3~4個を単位とする竹管文、下部に連続した複合鋸歯文の上に2個一対の円形浮文状の竹管文を配している。口縁部上端内外面はハケ調整し、外端面には鋸歯文をめぐらしている。

(8) の壺形土器は平底・球形の体部をもち、短い頸部で口縁端部を内彎気味につまみ出す。体部外面下半にハケ、内面下半にヘラケズリをとどめるが、器壁の剝離が著しい。外面下半に黒斑をとどめる。胎土中に多量の砂粒を含んでおり、搬入土器の可能性が高い。

(9・10) は細頸壺形土器で、体部のみを残す。(9) は僅かに突出した平底をもち、外底面に木葉圧痕をとどめる。外面右下がりの細かいタタキののち、粗いタテハケ。内面上位には粘土紐巻上げ痕が残り、下半ヘラケズリで調整している。(10) は算盤玉形の体部をもつ小形のものである。暗茶褐色を呈し、角閃石を含む讃岐産のものでは、古い形態を示している。頸部との境をナデ、体部上半タテハケ、中位最大腹径部分に2・3条のヨコヘラミガキ、下半タテハケののち幅細の入念なヘラミガキが施されている。内面はヨコヘラケズリである。胎土は緻密・硬質で、外面下半に黒斑をとどめている。

鉢形土器(11~18)には各種のものが認められる。

鉢A1(11~13, 15)は平底で、僅かに内彎気味に立ち上がる体部をもつ。いずれも体部外面右上がりのタタキののち、擦り消している。内面はナデで仕上げるほか、細かなハケ(11)、ハケ+下半ヘラケズリを行うもの(13)がある。(15)はドーナツ底(11・15)、には内底面にクモの巣状のハケ目をとどめている。

(14) は口縁部の外反が弱い鉢B1。器壁の剝離が著しいが、内外面をナデで調整している。外底面に細かなヘラケズリを施し、僅かに平底を形成している。胎土中に砂粒を多

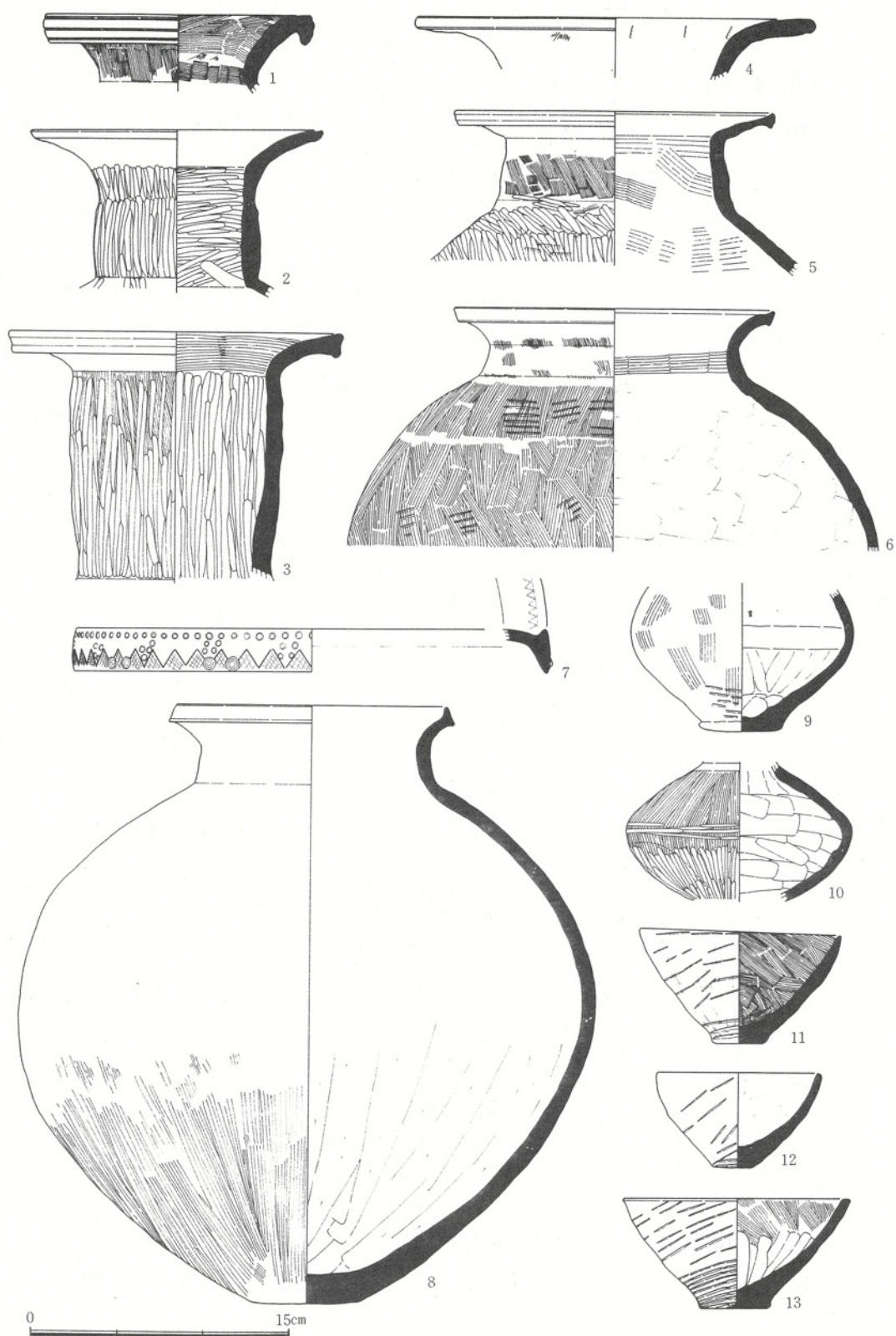


fig. 14 住居跡 S B 304出土土器実測図

く含み、軟質の仕上がりとなっている。

(16・17)は鉢A1の中型タイプのものである。しっかりとした平底をもち、(16)は右下がりのタタキののち、下半ヘラケズリ、上位ヨコヘラミガキ、内面ナナメハケを入念なヘラミガキで消している。(17)は砂粒を多量に含み、器壁の調整は粗いが、外面はハケ、内面は断続したヨコハケをとどめている。

(18)は小さな平底をもち、口縁端部を内側につまみ出すものである。右上がりの細かなタタキののちなデ、内面もナデで調整している。これも胎土中に砂粒を多量に含んでいる。

(19～21)は小型丸底鉢の各形態である。体部の屈曲が強く、稜を形成し平底をとどめるもの(19)、強く張り出した体部をもち尖り気味に突出した平底の痕跡を示すもの(20)、体部扁平で強く張り出して稜を形成する丸底のもの(21)と時期的な変化がある。(19)は口縁部及び、体部外面上半ハケ、下半ヘラミガキ、内面ヘラケズリである。(20)は外面ハケ、内底面にクモの巣状圧痕をとどめる。(21)は口縁部、体部内外面ハケで調整している。(19)は胎土中に砂粒を多量に含む、やや異質なタイプである。

甕形土器(22～25)は、倒卵形の体部をもつ東阿波型土器を構成するタイプのものである。口縁端部をつまみ上げ、(25)は上方に強くつまみ出したものである。(22・23)は二条、(24・25)は一条の擬凹線をとどめている。いずれも右下がりの細かなタタキののち、幅細のタテハケで調整するが、体部上位下半以下はハケの施行・方向が異なる。内面上位は丁寧なユビオサエののち、下半に入念なヘラケズリを施している。薄手で精選された胎土を用いている。

(26)は同様に倒卵形の体部をもつ甕形土器であるが、肩が張り、口縁部が短く外反し、端部を角張らせておさめる讃岐産の甕である。底部は丸底に近づいている。体部外面上半にタテハケ、下半を入念なヘラミガキで仕上げしており、内面には(23～25)と同様の技法が用いられているが、ユビオサエは(23～25)よりも強く、半面ケズリの原体幅は識別できない。

高杯形土器(27)は杯部が屈曲して緩やかに外反するもので、内外面共細かなヘラミガキが施されている。

住居跡S B 305・308・309・310 (fig.16)

住居跡S B 304を切り込んだ住居跡であるが、円形住居跡を含む推定4軒の住居跡が重

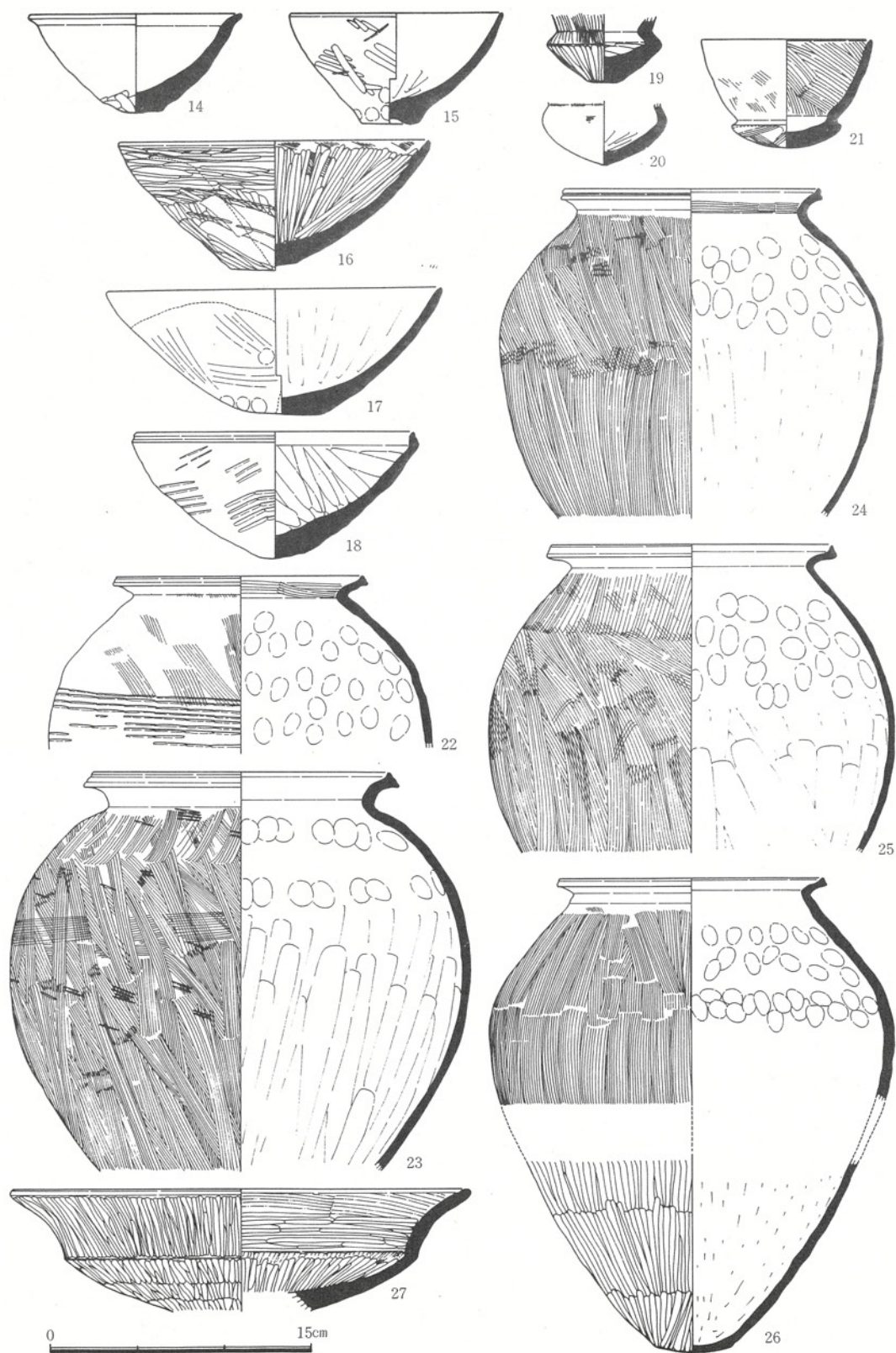


fig. 15 住居跡 S B 304出土土器実測図

複しており、湧水及びそれに伴う砂の吹き上げ、床部の亀裂・崩壊があいまって、重複関係、それぞれの床面を確定するには至らなかった (fig. 16)。

住居跡 S B 308 は方形住居跡に切られた、推定復元径約 6 m の円形住居跡で、北壁及び床の一部のみが遺存する。検出面から床までの深さ約 10 cm である。暗灰黄色粘質土で充填されている。周溝は認められず、住居跡 S B 310 に切られる部分に壺形土器片が遺存していた。

黒谷川 I 式の年代と推定される。

S B 305・309・310 は方形住居跡である。炉跡が 2 箇所重複している。S B 309 と捉えた 4.3×3.2 m の範囲が外側の床面よりも一段下っているため、ベッド状遺構を伴うものともみられるが、他方最も外側の隅円方形プランの約 55 cm 内側に新たな方形プランが確認されたため、それぞれ別の住居跡の重複と理解した。

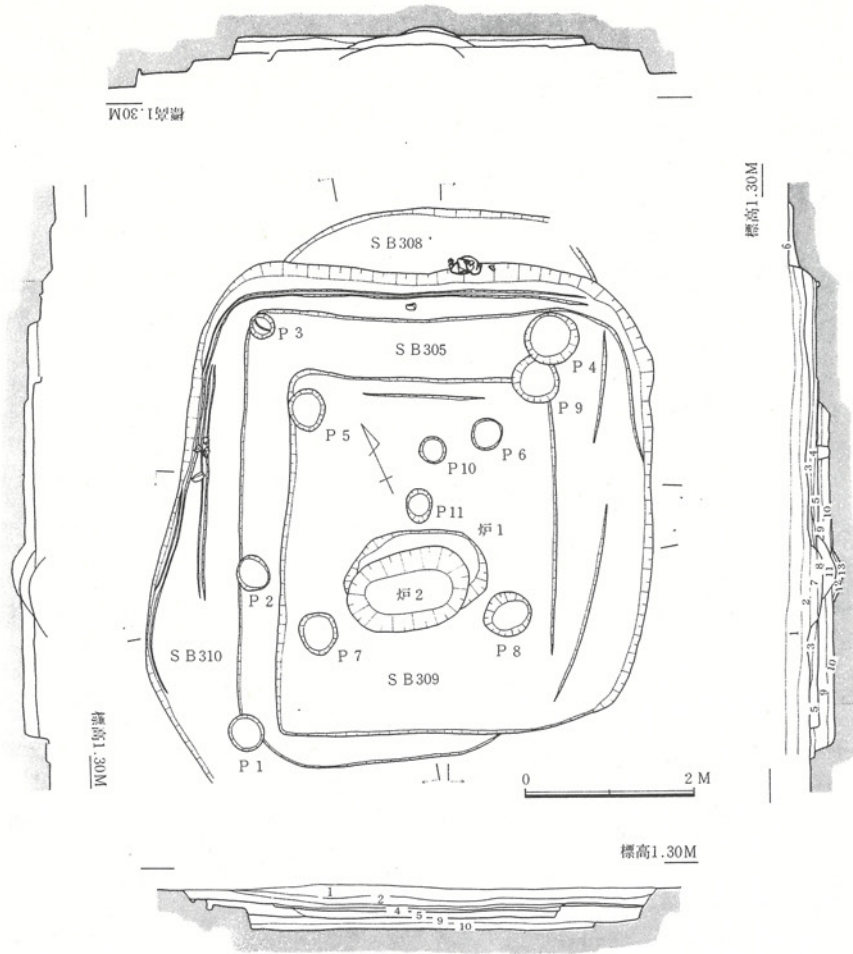
住居跡内の埋積土は 7 層で、最終の床面まで約 52 cm を測る。その間に 2 枚の床が認められた。S B 305 は 21 cm、S B 310 は 14 cm、S B 309 は 17 cm の深さをとどめている。S B 310 南西壁部分にはさらに周溝が重複しており、拡張されたことを示すが、これ以上の精査は行えなかった。柱穴については 11 箇所検出されたが、いずれも地山下の砂層に掘り込んでおり、掘り下げ中の崩壊によって、深度・配置をいまひとつ明らかにすることはできない。S B 310 の内側に検出された S B 305 で復元される構造をみておくと、P 5～P 8 の 4 本柱で、炉跡は南側に偏って構築される。柱穴の深度は大要 26～38 cm である。柱心間距離は P 5・P 6 : 2.18 m、P 6・P 8 : 2.20 m、P 6・P 8 : 2.25 m、P 5・P 7 : 2.53 m となる。

炉跡は東西に主軸を置き、炉 1 : 東西 1.47 m、南北 95 cm、深さ 15 cm、炉 2 : 東西 1.70 m、南北 1 m、深さ 32 cm を測る。出土遺物はさほど多くはないが、P 2 上面から蛇紋岩製勾玉が出土している。

勾玉は全長 1.3 cm で、一方向から 3 mm の穿孔を実施している (fig. 17)。C 字形を呈し、淡緑灰色で暗青色の斑文を混じえる。第 I 次調査で出土したものと同一石材である。蛇紋岩製勾玉については、別稿で述べた。

住居跡 S B 306 (fig. 18, 19)

調査区北西部で検出された、僅かに隅円方形の住居跡である。約 3 分の 1 が精査できたのみであり、柱穴等は不明である (fig. 18)。一辺 5.51 m、床までの深さ 29 cm を測り、幅



- S B 305
1. にじい黄褐色10Y R4/3粘質土
 2. 灰黄褐色10Y R4/2粘質土
 7. 暗灰黄色2.5Y 4/2砂質粘質土
 8. 暗オリーブ褐色2.5Y 3/3Y粘質土
- S B 310
3. 暗褐色10Y R3/4粘質土(炭化物を含む)
 4. 暗オリーブ褐色2.5Y 3/3粘質土(オリーブ褐色2.5Y 4/3粘質土をブロック状に含む)
 5. 黄褐色2.5Y 5/4粘質土(浅黄色2.5Y 7/4粘質土をブロック状に含む)
 11. 暗灰黄色2.5Y 4/2粘質土(黄褐色2.5Y 5/4をブロック状に含む, 焼土, 炭化物をブロック状に含む)
- S B 308
6. 暗灰黄色2.5Y 4/2粘質土
- S B 309
9. 暗灰黄色2.5Y 4/2粘質土(黄褐色2.5Y 5/3をブロック状に含む)
 10. 黒褐色2.5Y 3/2粘質土
 12. 暗オリーブ褐色2.5Y 3/3粘質土
 13. 黒色2.5Y 2/1炭層

fig. 16 住居跡 S B 305, 308, 309, 310実測図

約1.02m, 高さ4cmのベッド状遺構を形成している。周溝は認められない。住居跡内埋土はオリーブ褐色粘質土である。

本住居跡では定形化した砂岩製の石臼が床面, ベッド状遺構上に置かれた状態で検出された。石臼西の壁際では甕形土器1個体, ベッド状遺構内側の一段下った床には東西1.31m, 南北62cm, 深さ約22cmの長楕円形の落込みが形成されており, 上面から鉢形土器が出

土した。落込みは3層の埋積土であり、2層には炭の堆積がみられたが、炉としての認定に欠ける。周溝を伴っていないため、壁をもたない上屋だけの構造を示す工房跡を捉えておく。



fig. 17 住居跡 S B 305出土
勾玉実測図

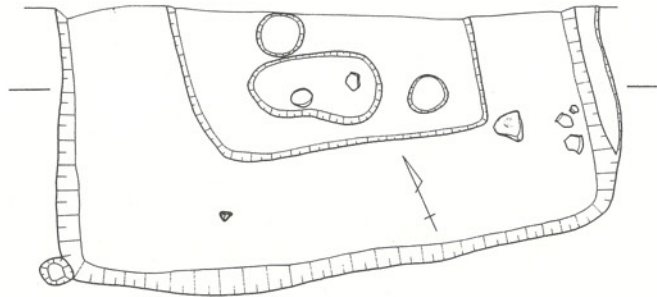
住居跡 S B 306出土土器 (fig. 21・4～8)

甕形土器は口縁端部をつまみ上げない第V様式の系譜をひくもの(4)と東阿波型土器を構成するタイプと近似するもの(6)が認められる。(4)は体部上半にタタキ目を明瞭に残したもので、下半右上がり、中位水平、上半右下がりの細かなタタキを施す。口縁部はナデで調整されるが、タタキ目を残す。僅かに平底をとどめるが、タタキが及んでいる。下半は板ナデ、内面は入念なヘラケズリを行う。灰白色呈し、胎土中に砂粒を多く含む。搬入品であろう。

(6)は体部が倒卵形になるものであるが、新しい段階のものに比べて、最大径が中位上半にくる肩の張らないものである。口縁部、体部境をナデでハケを消している。

鉢形土器(5・7・8)のうち、(5)はやや尖り気味の体部をもつ砲弾形の小形丸底鉢である。胎土中に砂粒を多量に含んでおり、器壁の剥離が著しいが、口縁部はタテハケが看取される。(7)は内彎気味に立ち上がる体部をもつ中型のものである。幅細の細かな右上りのタタキ目をとどめる。外底面は粗いヘラケズリで調整している。内面は板ナデで丁寧に仕上げられている。緻密な精選された胎土で、これも搬入品であろう。

黒谷川Ⅱ式の年代を示すものである。



住居跡 S B 307 (fig. 20)

住居跡 S B 306の東5mの地点に形成された、隅円方形住居であるが、S B 306と同じ方向に構築されており、同時に存在

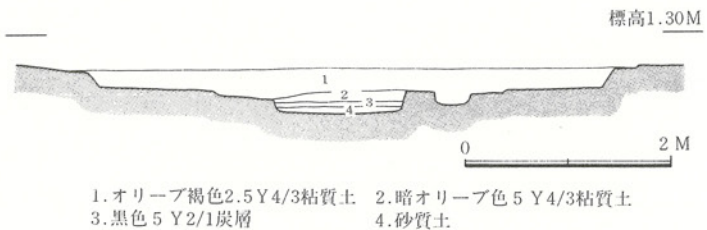


fig. 18 住居跡 S B 306実測図

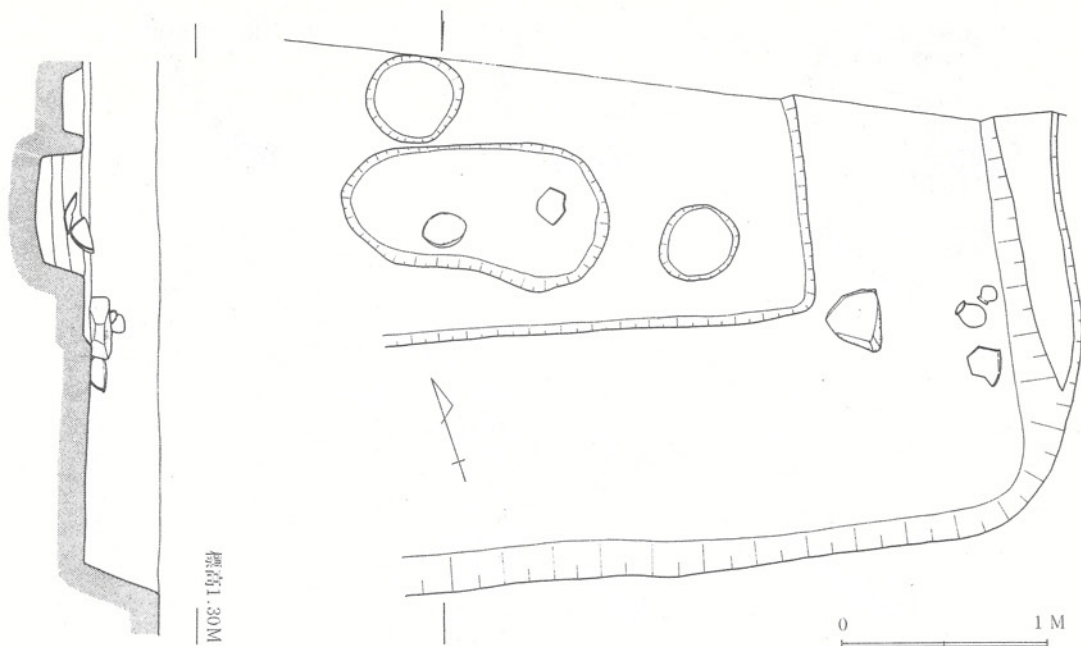
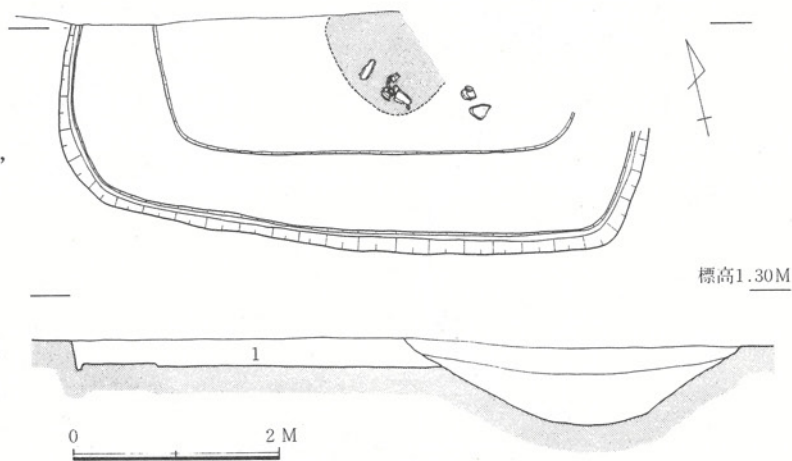


fig. 19 住居跡 S B 306遺物出土状況実測図

していたものと考えられる。土坑S K 308に切り込まれている。

一辺の長さ約5.71m, 深さ26cmで, 3cmの高さベッド状遺構を付設している。ベッド状遺構の幅は南壁側では76cm, 西壁側で84cmである。浅い周溝を伴っているが, 柱穴等については不明である。一段



1. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土 網目：焼土の範囲

fig. 20 住居跡 S B 307実測図

下った床面中央に焼土の拡がる部分があり, すぐ北部分に炉が形成されているものと考えられる。床面からの遺物は殆ど認められないが, 擦痕をとどめた石臼と認定できる, 朱の付着した石材が出土した。

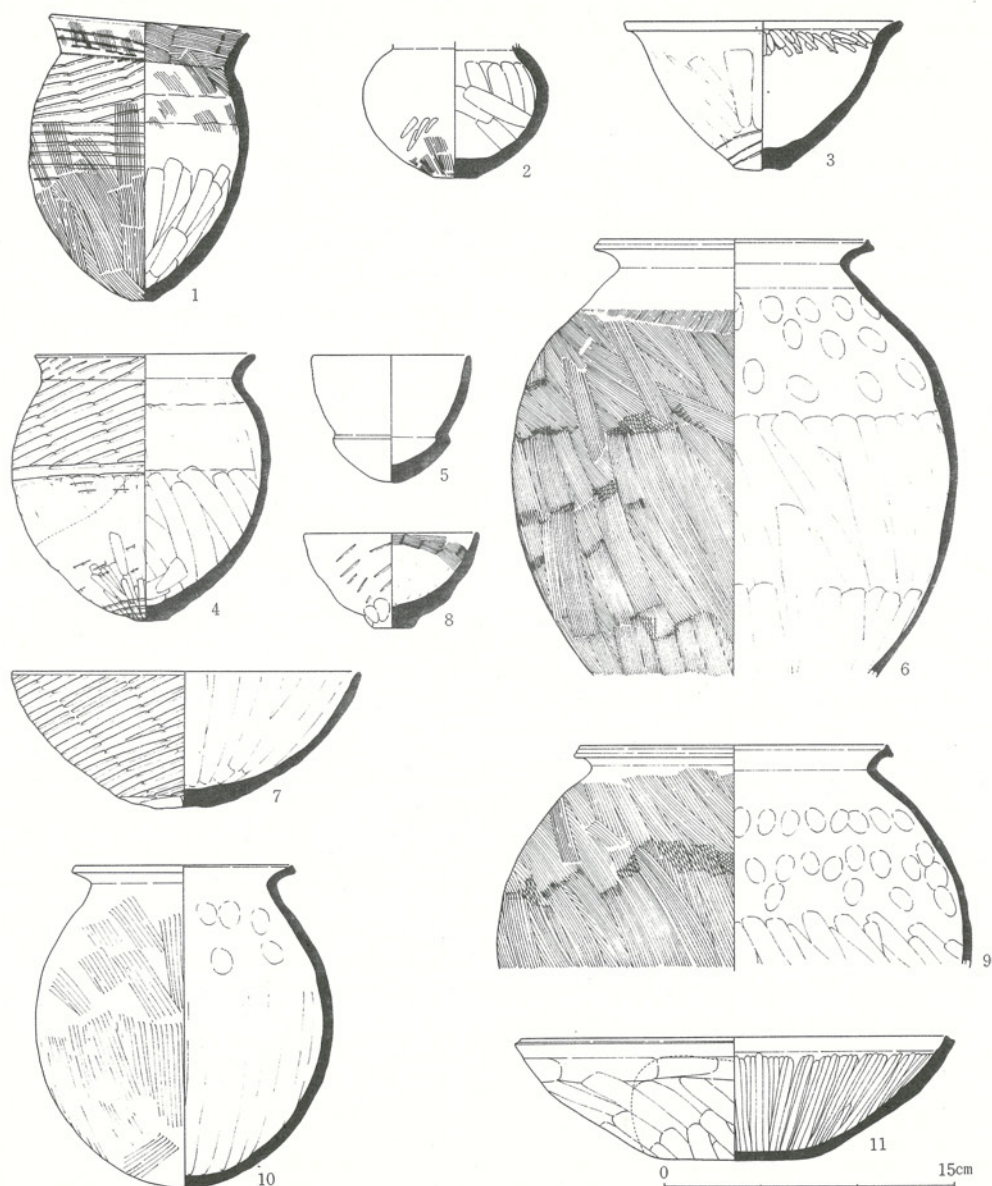


fig. 21 各住居跡出土土器実測図

土坑S K 308 (fig. 22)

東西に主軸をもつ楕円形の土坑である。東西3.26m, 南北2.17m, 深さ約80cmで、船底形の断面形を示す。底部の海拔高は3cmである。土坑内埋積土は2層に分離され、1:暗灰黄色粘質土、2:オリーブ黒色粘質土となっている。土坑埋没後、中央部分に廃棄された土器溜りが形成されており、砂岩破片に混じって各種の土器が出土した。これらには二時期のものが混在している。土坑の性格については明らかにしがたい。

土坑 S K 308出土の土器 (fig. 23)

黒谷川Ⅱ式とⅢ式のもの認められる。

広口壺形土器(1・2・7)は口縁端部を丸くおさめるもの(1・7)と摘み上げるものがある。(7)は屈曲して外反するものである。(1)は外面ヘラミガキ、内面ヨコハケ+ユビオサエを施す。(2)には口縁端部に二条の擬凹線をとどめる。(7)は砂粒を多量に含むが、精選された胎土を有しており、搬入土器かと思われるものである。

二重口縁壺形土器には構成比率の上では少ないものの、東阿波型土器を構成する古い時期のタイプ、すなわち頸部直立で大きく上方にのびる口縁部に多条の擬凹線を施すもの(3・黒谷川Ⅱ式段階)と口縁部が短く外反するタイプのもの(4・5・黒谷川Ⅲ式段階)の二形態のものがある。(3)の頸部は広口壺形土器と同一の外面タテハケのちナデ、内面ヨコハケの技法で調整されている。(5)の体部は外面右下がりの細かなタタキのち、細かなタテハケを施し、上部に条線状のタテヘラミガキを行っている。内面は上半ユビオアサエ、下半にヘラケズリを施すものであろう。口縁部下半にタタキを一部残す。直立する頸部に球状の体部をもち、外面は細なナナメハケのち一部ヘラミガキである。

甕形土器(6)は「く」の字状に大きく外反して立ち上がる口縁をもち、体部は胴張りが著しく口径をはるかに凌駕する。外面タタキのちナデ、内面は頸部ヨコヘラミガキ、体部ナナメヘラケズリである。(10)は小型の甕形土器で倒卵状の体部にゆるやかに外反して立ち上がる口縁部をもつ。外面は右上りのタタキのち

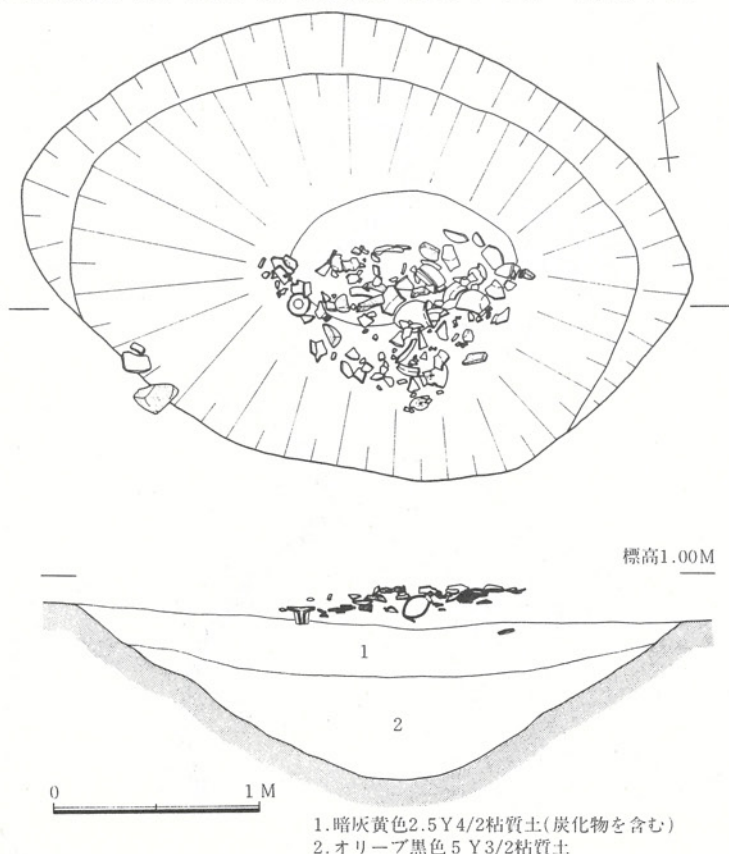


fig. 22 土坑 S K 308実測図

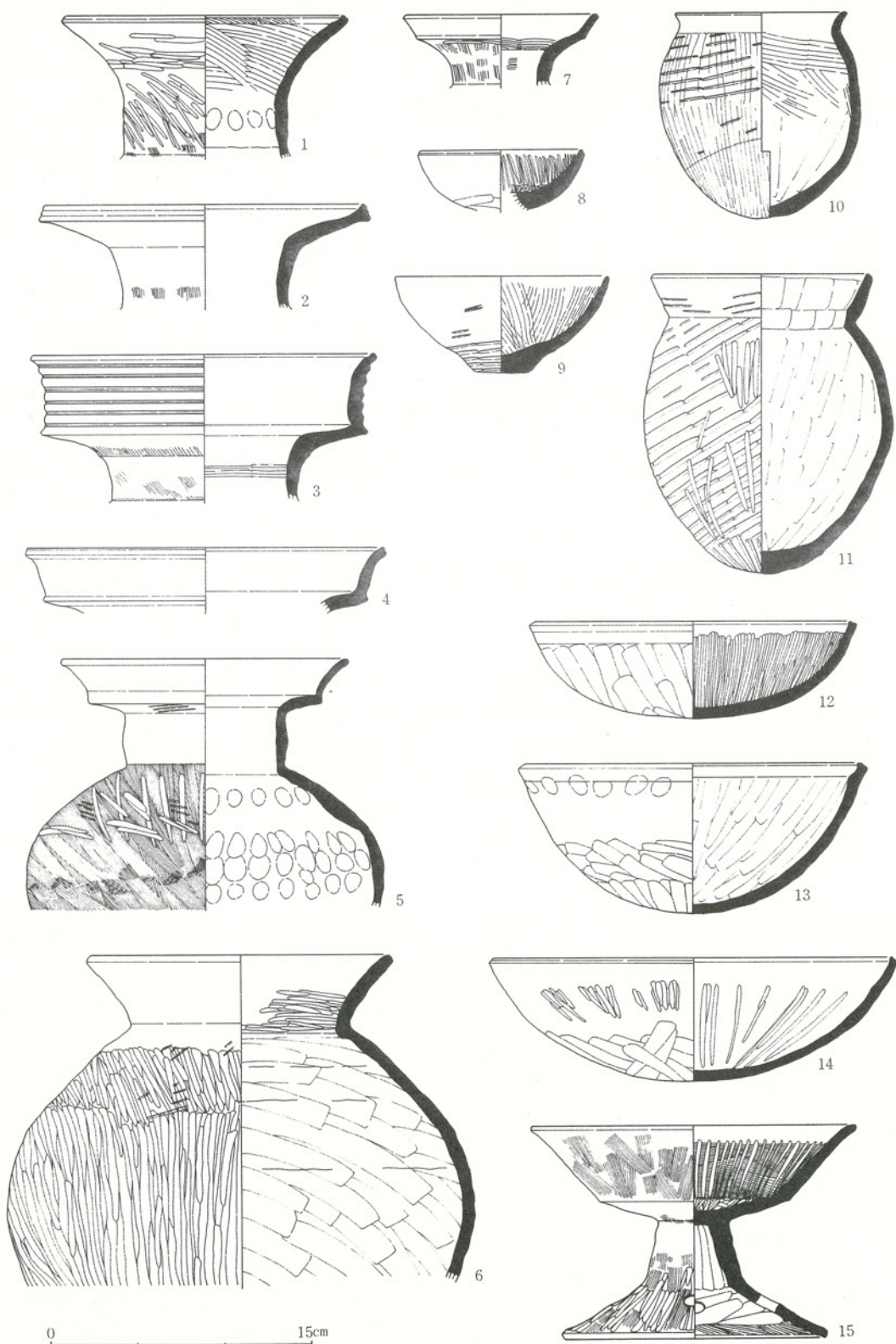


fig. 23 土坑 S K 308出土土器实测图

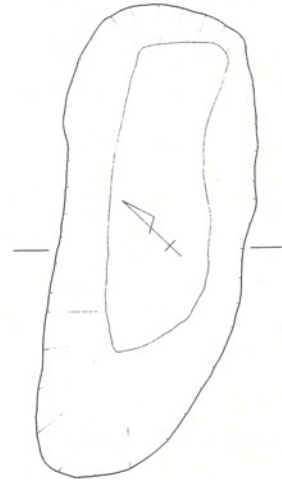
粗いハケ、内面はハケ調整である。(11)は口縁部が「く」の字状に外反し、やや長胴の体部をもつ。体部中央部に最大径をもち、外面右上りのタタキで底部に一部ヘラケズリを施す。内面は幅広の板ナデである。

鉢形土器(8, 9, 12, 13, 14)では、突出する底部をもつもの(9)と丸底のもの(12, 13, 14)がある。(8)は底部を欠損するが、小型品で厚ぼったいものである。内面には丁寧なヘラミガキがみられる。(9)は外面平行タタキ、内面ハケである。(12, 13, 14)はいずれも口縁端部を軽くつまみながらのナデをもち、内外面ともヘラミガキで調整する。

高杯形土器(15)は屈曲して外傾する杯部を有し、脚部は大きく外方へ拡がり5孔を有する。杯部外面タテハケ、内面口縁部ヨコハケ+条線状のヘラミガキ、受部ヘラミガキである。脚部タテハケで裾部にはのちヘラミガキを加える。黒谷川Ⅲ式のものである。

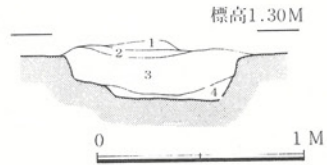
土坑SK301 (fig. 24)

S B301, S B303間にある長軸2.4m, 短軸90cmの楕円長方形を呈する土坑である。深さは約25cmで、埋積土は1.黄褐色粘質土層 2. にぶい黄褐色粘質土層 3. 暗褐色粘質土層 4. 暗オリーブ褐色粘質土層に分層される。このうち1. 2層は土坑上面に盛り上がる様に堆積している。遺物は殆ど出土しておらず、その性格についても不明である。



土坑SK302 (fig. 25)

S B303西方の調査区縁べん部より検出された五角形の土坑である。東西約1.2m, 南北約85cmで、断面は東西方向では梯形を呈するが南北方向では段をもって落ち込む。土坑埋積土は3層に分けられ、1. オリーブ褐色粘質土層 2. 灰オリーブ色粘質土層となるが、大きくは上層(1層)下層(2, 3層)と認識できる。土坑下層が埋まった後その上面に土器溜りを形成したと思われる。



1. 黄褐色2.5Y5/3粘質土(炭化物を含む)
2. にぶい黄褐色10Y R4/3粘質土(黄褐色2.5Y5/4をブロック状に含む, 焼土・炭化物を含む)
3. 暗褐色10Y R3/3粘質土(黄褐色2.5Y5/4をブロック状に含む, 炭化物を含む)
4. 暗オリーブ褐色2.5Y3/3粘質土(黄褐色2.5Y5/4をブロック状に含む)

fig. 24 土坑 SK301実測図

土坑 S K 302出土の土器 (fig. 26)

甕形土器(1, 2)は外面に叩き目を明瞭に残す。(1)は底部に一部平底部分を残し, 外面は若干右上がりのタタキ, 内面はハケ調整で仕上げられ, 底部にはヘラケズリが認められる。(2)は体部上半を欠損するが球状の体部を呈するものと思われる。外底部タタキのちヘラ磨き, 体部タタキのちハケを施すが, 明瞭にタタキを残す。内面はヘラケズリである。

鉢形土器(3)は底部丸底で口縁端部は方形におさめる。外面は粗いタタキ, 内面はヘラミガキを施すが砂粒の多い胎土のせいか磨滅が著しい。

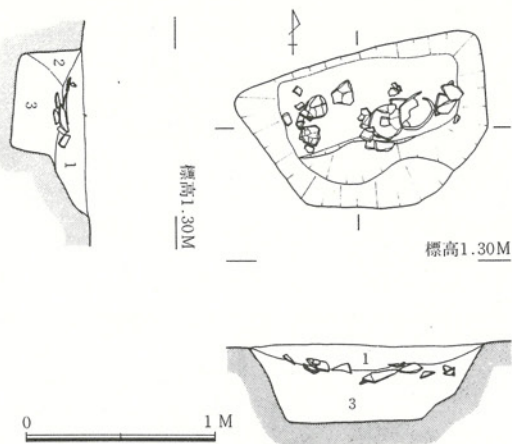
(1) ~ (3) はいずれも長石の細粒を含み砂質の強い胎土で作られており, 搬入品であろう。時期的には黒谷川Ⅲ式より後出の可能性が考えられる。

土坑 S K 303 (fig. 27)

南北方向にやや長い楕円形プランをもつ土坑である。東西1.55m, 南北2.1m, 深さ約60cmの規模である。土坑内埋積土は3層に分離され, 1. 暗オリーブ色粘質土層 2. 灰オリーブ色粘質土層 (オリーブ色粘質土をブロック状に含む)

3. オリーブ褐色粘質土層である。

朱の付着した石杵が投棄されており, その下面から小型丸底鉢, 鉢形土器が出土しており, 投棄時に朱にかかわる祭がなされたことを想定できる。黒谷川Ⅳ式に該当するべきものであろう。



1. 暗オリーブ褐色2.5Y3/3粘質土 2. 灰オリーブ5 Y4/2粘質土
3. 灰オリーブ色5 Y4/2砂質, 粘質土

fig. 25 土坑 S K 302実測図

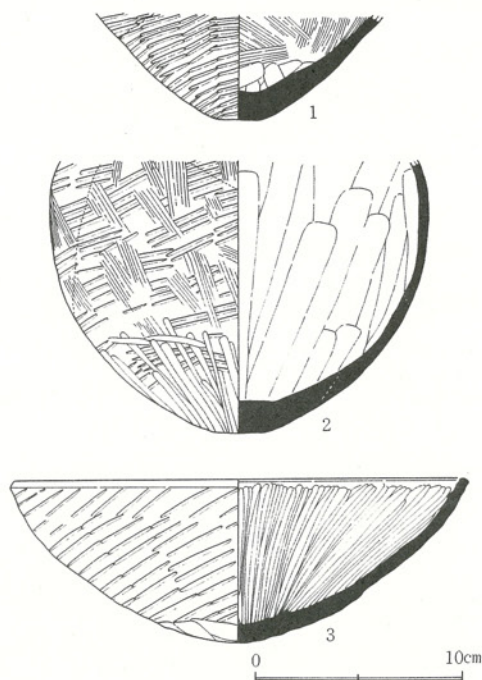
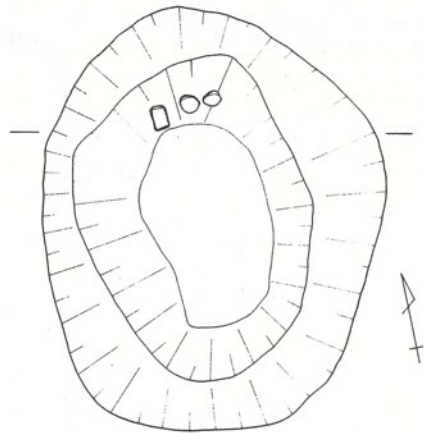


fig. 26 土坑 S K 302出土土器実測図

土坑 S K 303 出土土器 (fig. 28-7)

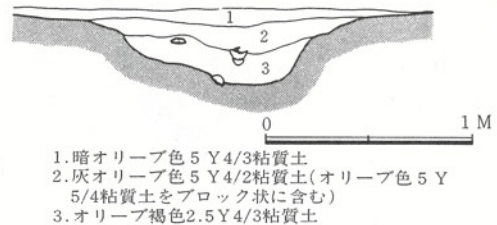
小型丸底鉢形土器(7)は丸底化したもので従来出土した同器種のなかでは、最も新しい形態のものである。口縁部は頸部に沈線状のくびれをもち、稜をもって内彎気味に大きく立ち上がる。体部は半球状である。磨滅が著しいが、体部外面には、ヘラケズリが看取できる。胎土中にくさり礫、長石粒を多量に含む。



標高1.30M

土坑 S K 304 (fig. 29)

調査区中央東端にある不整円形の浅い土器溜りである。東西85cm、南北95cm、深さ10cm程度で埋積土であるオリブ黒色粘質土上部ないし上面で遺物が出土した。黒谷川I式のものである。



1. 暗オリブ色 5 Y 4 / 3 粘質土
2. 灰オリブ色 5 Y 4 / 2 粘質土 (オリブ色 5 Y 5 / 4 粘質土をブロック状に含む)
3. オリブ褐色 2.5 Y 4 / 3 粘質土

fig. 27 土坑 S K 303 実測図

土坑 S K 305 (fig. 30)

調査区中央部にある円形の浅い土坑である。地山を削り出して低い盛り上がりを作り、その上面に浅い窪みを設けたもので、埋積土には炭化物、焼土が拡がる。讃岐系の土器を含む黒谷川II式併行の土器片に混って、縁辺部を打ち欠き中央を穿孔した弧帯文関連文様を施す球状土製品が出土している。祭祀遺構であることが考えられるが、その内容については火・弧帯文を要素にもち、低湿地における水害に対する祭などを想定することができよう。

土坑 S K 305 出土土器 (fig. 28-3~6)

広口壺形土器(3)は、やや内傾気味に立ち上る頸部からなだらかに口縁部に移行する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げ、端面上に二条の擬凹線を施す。

甕形土器(4・5)は、いずれも搬入土器と思われる。(4)は砲弾形の体部をもち、明瞭なくびれをもたずゆるやかに口縁部に移行する。体部内外面ともにタテヘラケズリ、口縁部は、外面ナデ、内面ユビオサエである。砂粒を多量に含み、淡路産の土器の可能性がある。

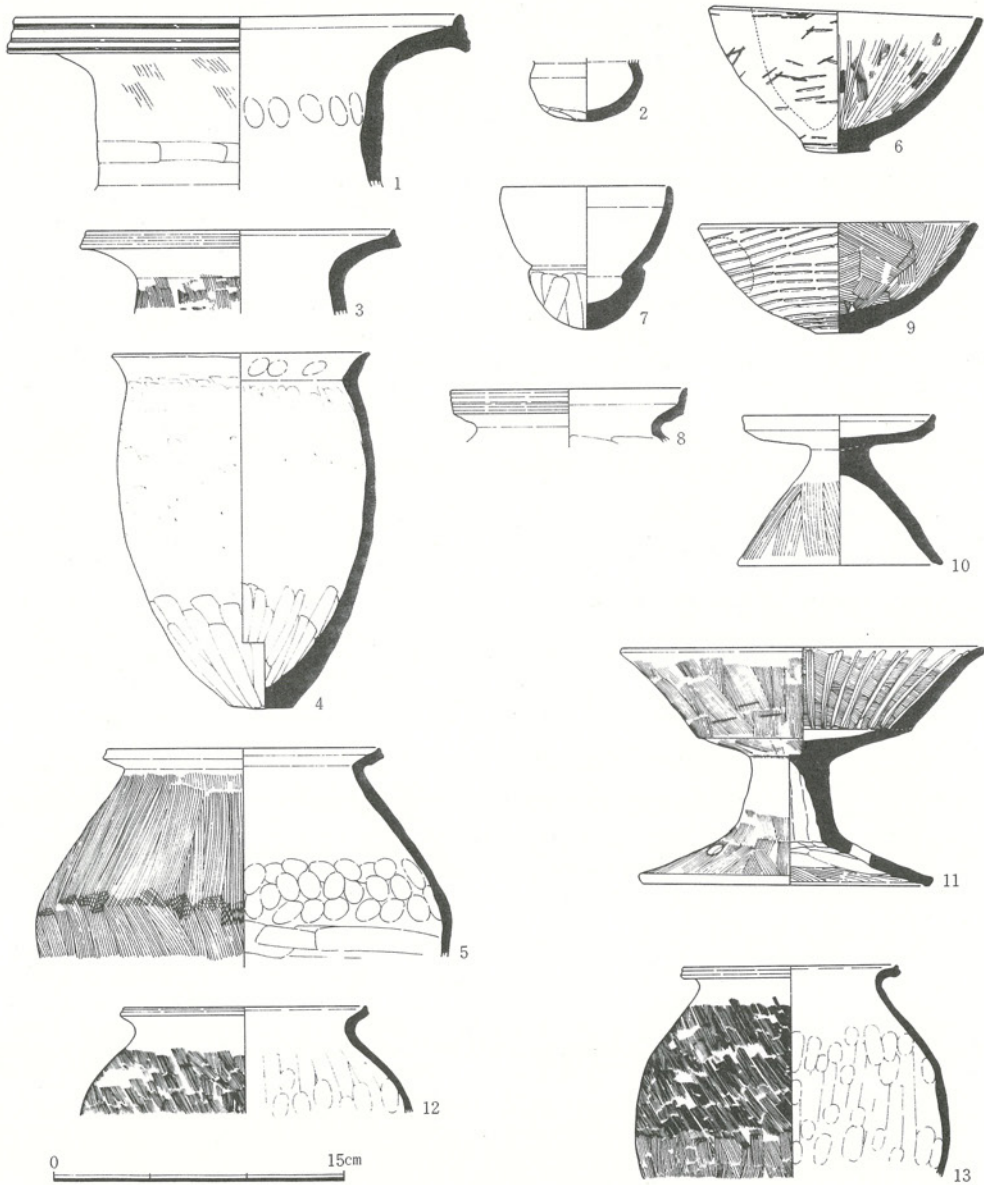


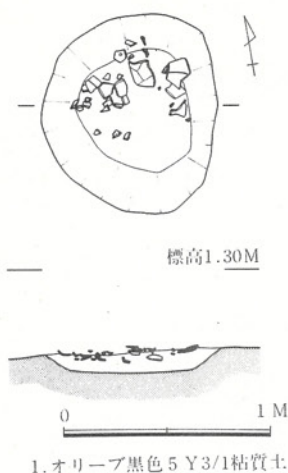
fig. 28 各土坑出土土器実測図

(5)は、短く屈曲する口縁部から肩張りした体部に移行する。口縁端部は方形におさめ、端面上に一条の擬凹線をもつ。体部外面は明瞭なタテハケを施し、内面は肩部付近にユビオサエ、中位以下はヨコヘラケズリである。讃岐産の土器である。

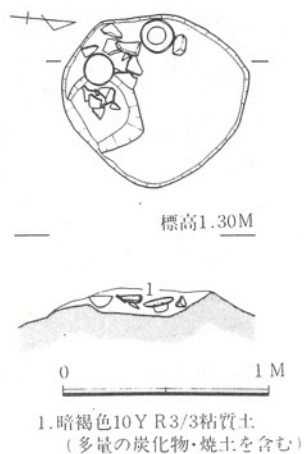
鉢形土器(6)は、突出した平底の底部から内彎気味に立ち上る椀状の形状を示す。口縁端部は方形におさめる。外面はタタキが部分的に残存し、内面はタテハケ+タテヘラミガキである。これも淡路系の土器であると思われる。

土坑 S K 306 (fig. 31)

S D 301におよそ半分が切り取られる状態で検出された半円形の土坑である。S D 301と接する長さは約1.5mで断面はS D 301に向かって斜めに傾斜しており、残存する最深部は約35cmを測る。埋積土は暗灰黄色粘質土でかなりの量の遺物を含む。破損した土器、石斧などが出土していることから土器捨ての土坑であると思われる。黒谷川 I 式のものである。



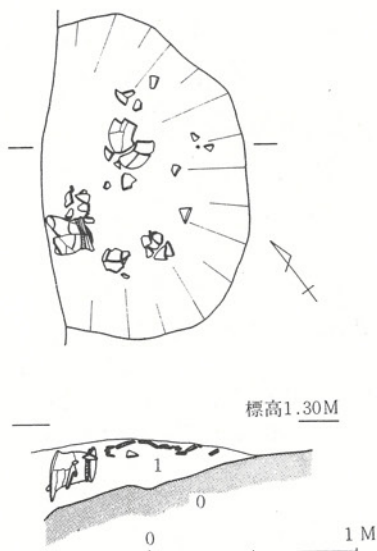
1. オリーブ黒色 5 Y 3/1 粘質土
fig. 29
土坑 S K 304 実測図



1. 暗褐色 10 Y R 3/3 粘質土
(多量の炭化物・焼土を含む)
fig. 30
土坑 S K 305 実測図

土坑 S K 306 出土土器 (fig. 32)

広口壺型土器 (1) は大型で、やや外傾しながら立ち上がる頸部から水平方向に大きく拡がる口縁部をもつ。口縁端部を上下に拡張し、端面上に円形浮文、櫛描波状文を配し、上下方向から刻み目をつける。頸部には刻み目を伴う貼り付け突帯をつける。外面は粗いたてハケ、内面は口縁部櫛描波状文、頸部ナナメハケ、肩部ユビオサエである。



1. 暗灰黄色 2.5 Y 4/2 粘質土
fig. 31 土坑 S K 306 実測図

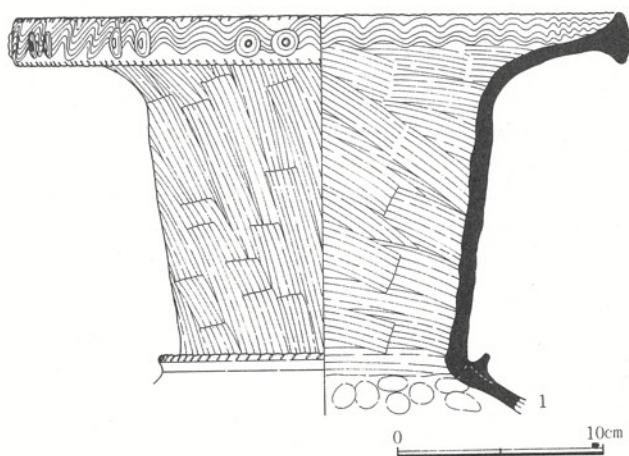
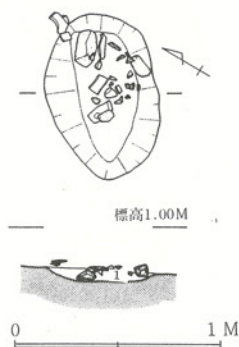


fig. 32 土坑 S K 306 出土土器 実測図

土坑 S K 309 (fig. 33)

S K 308を一部切り合う状況で検出された土坑である。長軸約80cm, 短軸約50cmの楕円形の平面プランを呈する。深さは5cm内外で極めて浅く暗灰黄色の粘質土が埋積する。遺物は細片ばかりであるが黒谷川Ⅲ式のものと考えられる。



掘立柱建物跡 S A 103 (fig. 34)

第Ⅱ次調査によって一部確認されていた掘立柱建物跡である。主軸を北西-南東にもち梁間2間, 桁行4間であり, 梁間4.2m, 桁行6.0mを測る。柱穴間距離は梁間ではそれぞれ1.8m, 2.2m, 桁行では1.4m前後ではほぼ等間隔である。各柱穴の深度は30~40cm, 平面プランは, 径約20cmの円形を呈す。出土土器は細片であるため時期決定は難しいが, 黒谷川Ⅱ式段階を想定したい。

1. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土
(黄褐色2.5Y5/4粘質土
をブロック状に含む)

fig. 33

土坑 S K 309実測図

溝 S D 301 (fig. 35)

調査区南東隅より北西方向に延びる溝で, 上端幅約1.7m, 深さ約50cm断面V字状のものである。溝内埋積土は 1. にぶい黄褐色, 2. 暗灰黄色砂質土, 3. 暗灰黄色粘質土, 4. 黄灰色粘質土に分けられる。この溝は, 第2次調査の溝19(S D 119)の延長部分にあたり, 調査区中央南よりでS D 302と合流する。遺物は少なく年代決定の根拠を欠くが, 黒谷川Ⅰ式土坑(S K 306)を切る点, 合流する溝(S D 302)が黒谷川Ⅱ式新段階以降のものである点から黒谷川Ⅱ~Ⅲ式の間存続していたものと考えておきたい。

溝 S D 302 (fig. 36)

調査区南東部で検出された溝でS D 301と合流する。この溝は, Ⅱ次調査の溝22の北東延長部である。溝上端幅約2.0m, 深さ約50cmの深さのないV字状の断面を示す。埋積土は 1. にぶい黄褐色粘質土, 2. 黄灰色粘質土, 3. 黒褐色粘質土となる。土器は1, 2層に混入しているが, 黒谷川Ⅱ式新段階からⅢ式のもの大部分で, 溝の使用・廃絶時期を示すものと思われる。

溝 S D 302出土土器 (fig. 37)

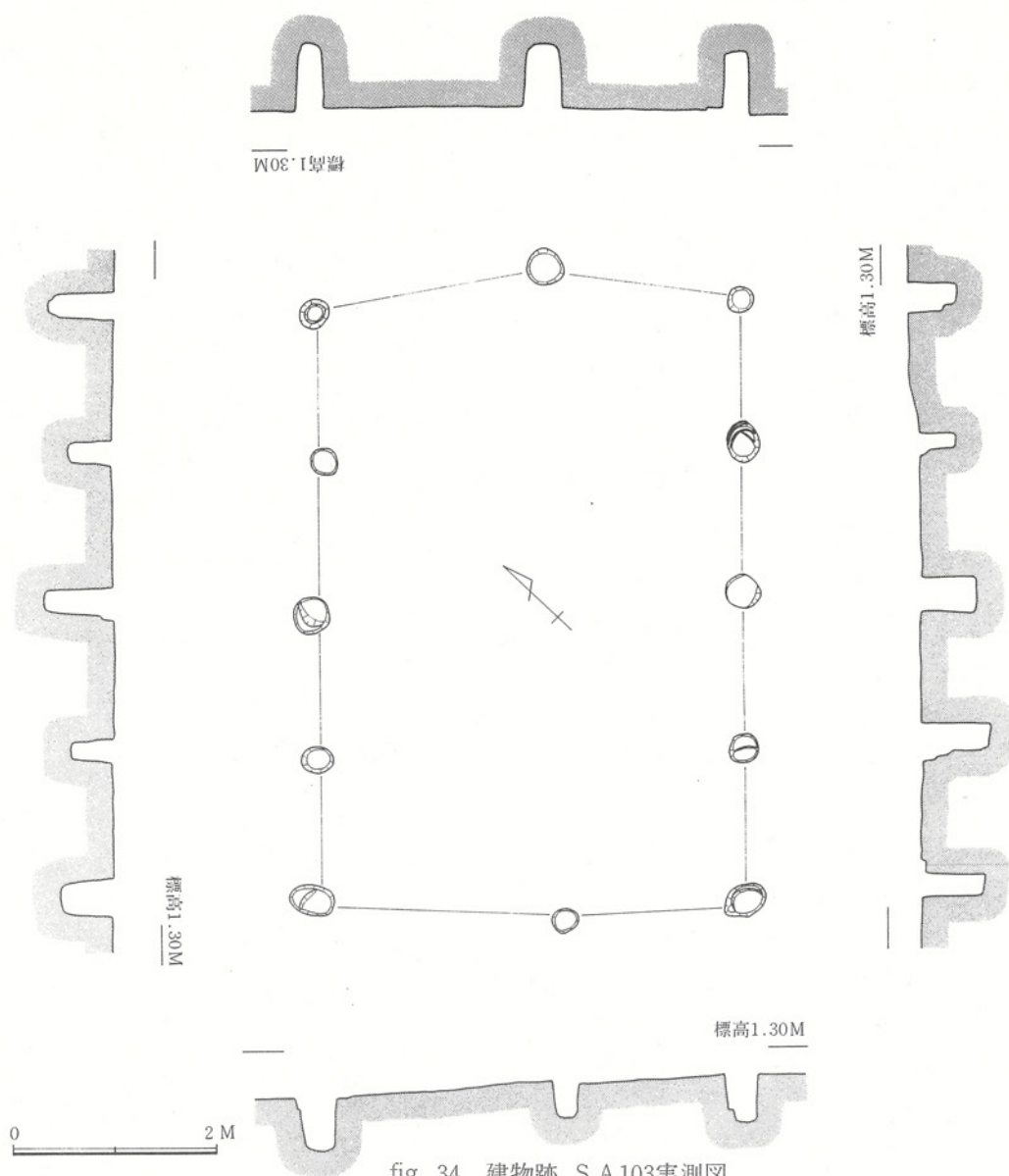


fig. 34 建物跡 S A 103実測図

黒谷川Ⅱ（新）～Ⅲ式の年代を示す遺物が大部分であるが、一部Ⅰ式段階の土器も混入している。

広口壺形土器（1～5）では、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反するもの（1）と口縁部を大きく外反させ、端部をつまみ上げるもの（2～5）とがみられる。（1）は口縁端部を上下に僅かに拡張し、端面に二条の擬凹線を施す。外面タテハケ、内面ヨコハケである。（2、3、5）は、口縁端部を上方にはね上げるように拡張し、二条の擬凹線を

端面にもつ。外面タテハケ、頸部内面に粗いヨコハケを加える。頸部から口縁部にかけての外反度に若干の差がみられる。

(4)は小型品で、直立する頸部に水平方向に延びる口縁部を付加したのち、受口状に口縁端部を大きくはね上げる。端面上に2条の擬凹線を施す。本遺跡では多出しないタイプのものである。

小型壺形土器(6)は、口縁部と体部の一部分が残存していたにすぎないが、球状の体部に短く直立する口縁部をもつ。体部外面ナナメハケ、内面ヘラケズリである。

鉢形土器(7)は、概要報告書I(fig.11-8)に後出し、同一系譜上にあるものと考えられる。外面体部上半ヘラケズリ、下半ヘラケズリ+ハケ、内面ヘラケズリである。底部は丸底であり、黒谷川Ⅲ式よりも新しい様相を示す。

細頸壺形土器(8)は、I次調査溝1などでみられる典型的な黒谷川Ⅰ式段階の土器である。外面は丁寧なタテヘラミガキである。

甕形土器(9~12)では東阿波型土器(9, 10)と庄内甕が出土している。

(9)は口縁部を短く「く」の字状に外反させ、端部をつまみ上げるものである。外面タテハケ、内面体部上半ユビオサエが看取できる。(10)は甕A2と区別している小型のもので、外面タテハケ、内面ヨコヘラケズリである。庄内甕(11, 12)は従来徳島県での出土例が皆無に等しかっただけに注目される資料である。(11)は「く」の字状に大きく外反する口縁をもち、端部を軽くつまみ上げる。外面は右上りのタタキ、ヨコ方向の板ナデで

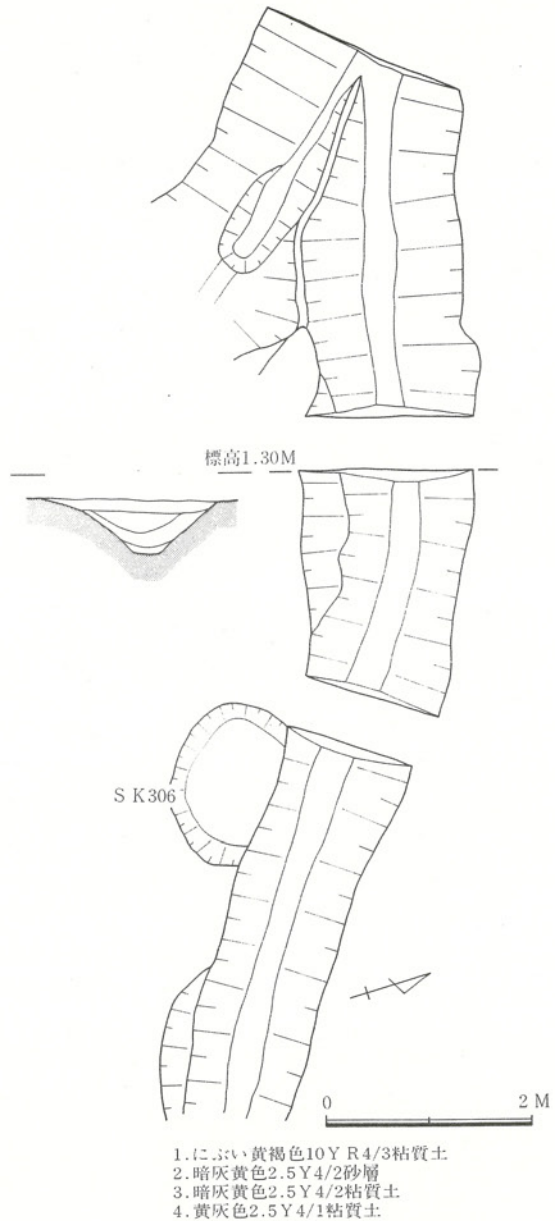


fig. 35 溝 S D 301実測図

ある。胎土に角閃石、黒雲母を含み堅緻な焼き上がりである。(12)は大きく外上方に立ち上がる。体部外面は右上がりのタタキ、内面ヨコヘラケズリである。

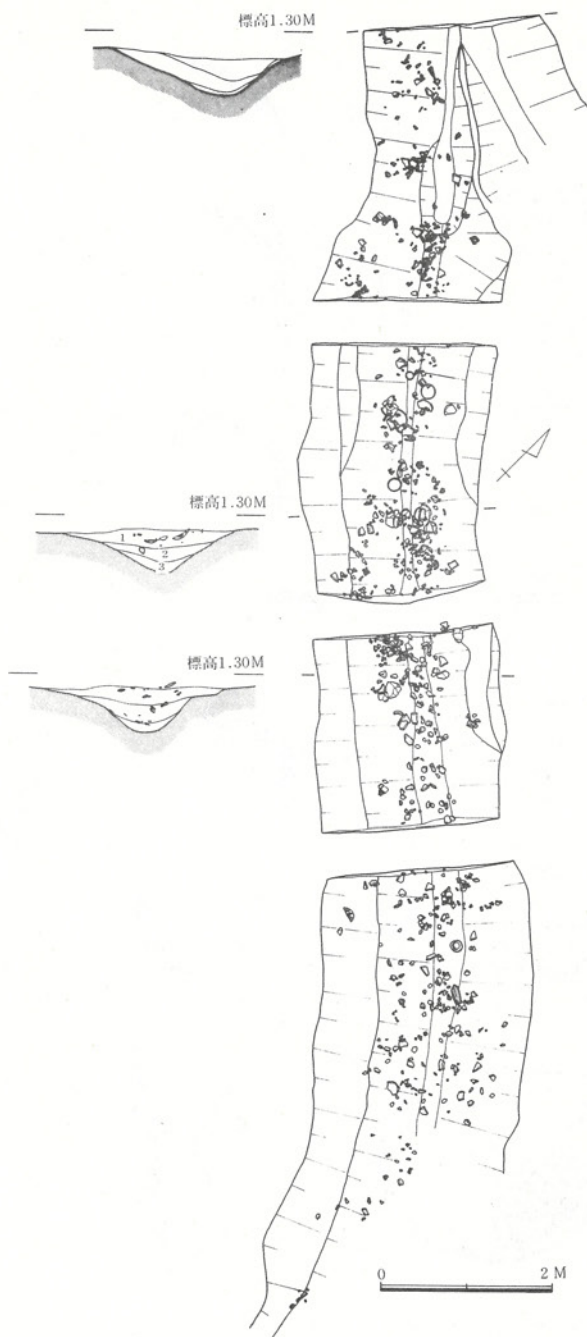
(11)に比べて胎土中に石英、長石の微粒が目につく。

ミニチュア土器(13)は手づくねで、胎土は赤褐色を呈し、精選されたもので搬入品の可能性がある。

鉢型土器(14~19)は、底部が突起気味で内彎しながら立ち上がるもの(14, 15)、皿状のもの(16~19)がある。

(14)は僅かに平底を残す。外面はヘラケズリである。

(15)は口縁端部に外方につまみ出している。外面上半は断続的なタテヘラミガキ、及びタテハケ、下半はタタキのち板ナデである。皿状の鉢Bでは外面ヘラケズリのもの(16~18)が一般的であるが、ハケ調整を施すもの(19)もある。(18)は外面上半に一部タタキを残し、下半ヘラケズリであり、内面はヘラミガキである。(19)は大型品で、外面を細かなハケ調整を行い、内面はユビオサエで調整する。



1. にぶい黄褐色10Y R4/3粘質土(黄褐色2.5Y5/4粘質土をブロック状に含む)
2. 黄灰色2.5Y4/1粘質土(黄褐色2.5Y5/4粘質土をブロック状に含む)
3. 黒褐色2.5Y3/1粘質土(炭化物を多量に含む)

fig. 36 溝 S D 302実測図

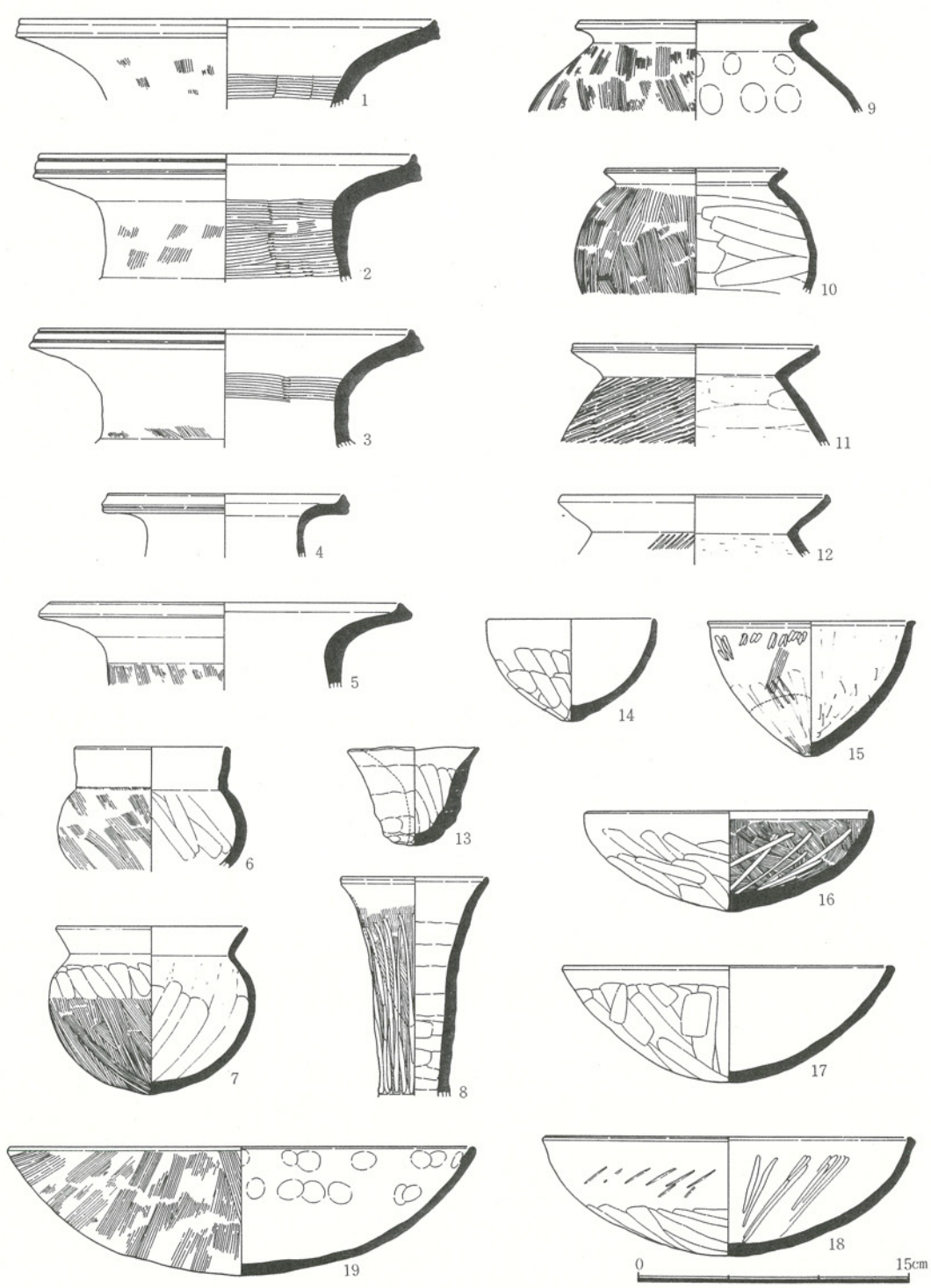


fig. 37 溝 S D 302出土土器実測図

石製品

今回の調査においても、第Ⅰ、Ⅱ次調査と同様に朱精製用具と認められる石臼・石杵が多数確認された。特に今調査で工房と考えられる竪穴住居跡（S B 306）から原位置を保った石臼が出土したことなどは、大きな成果であった。以下遺物について説明しておく。

石杵（fig. 38-1）

土坑（S K 303）から出土した 楕円柱状に加工された砂岩製の石杵である。ほぼ中央部で折れ、半分が残る。握りにあたる部分は丸く研磨され、一部には手ずれと思われる縦5 cm、横1.5cmの窪みが看取される。端面は縁辺部に敲打痕を伴い、平坦面上には強い擦痕をとどめる。重量は500 g である。

石杵（fig. 38-2）

乳棒状の砂岩を使用した石杵である。表面は研磨し、手の握りをよくしたものと考えられる。断面は三角形を呈し、周縁部は使用により角がとれている。平坦面上は石目が潰れ、鮮明に朱が残存しており、使用の状況をうかがうことができる。重量は670 g である。

砥石（fig. 38-2）

乳灰色を呈する砥石で住居跡（S B 302）覆土中より出土した。四角柱状の砥石中央が残存しており、長さ3 cm、断面は2 cm、1.5cmの方形である。いずれの面にも使用液が認められる。

石臼（fig. 38-4）

住居跡（S B 304）より出土した砂岩製の石臼で、床と中心柱穴から出土したものが、接合関係をもつ。片面のみに使用痕を残し、他の一面は剥離している。明瞭な敲打痕を伴った窪みはないが、4ヶ所で擦痕を伴った僅かな窪みが観察される。

石臼（fig. 39-1）

住居跡（S B 304）より出土した砂岩製の石臼である。A面中央部には直径約1.5cmの範囲で敲打痕を残す。また二つの方向性をもって石目が潰れている。B面上には使用痕はほとんど認められなかったが、一部にわずかながら擦痕残す。



fig. 38 石杵・石臼実測図

石臼 (fig. 39-2)

住居跡 (S B 306) の床面から原位置を保って出土した石臼である。砂岩製で将棋の駒状の五角形を呈す。底辺にあたる面は意図して直線的に切断されている。他の部分は自然面を残す。A面中央部に直径7.5cmの範囲で敲打痕を伴う僅かな窪みが看取できる。全面に強い擦痕が残り、石目が潰れている。B面では長軸5cm、短軸2cmの範囲で敲打痕が認められる。擦痕はA面ほどは著しくないが、局部的に強いものを観察できる。

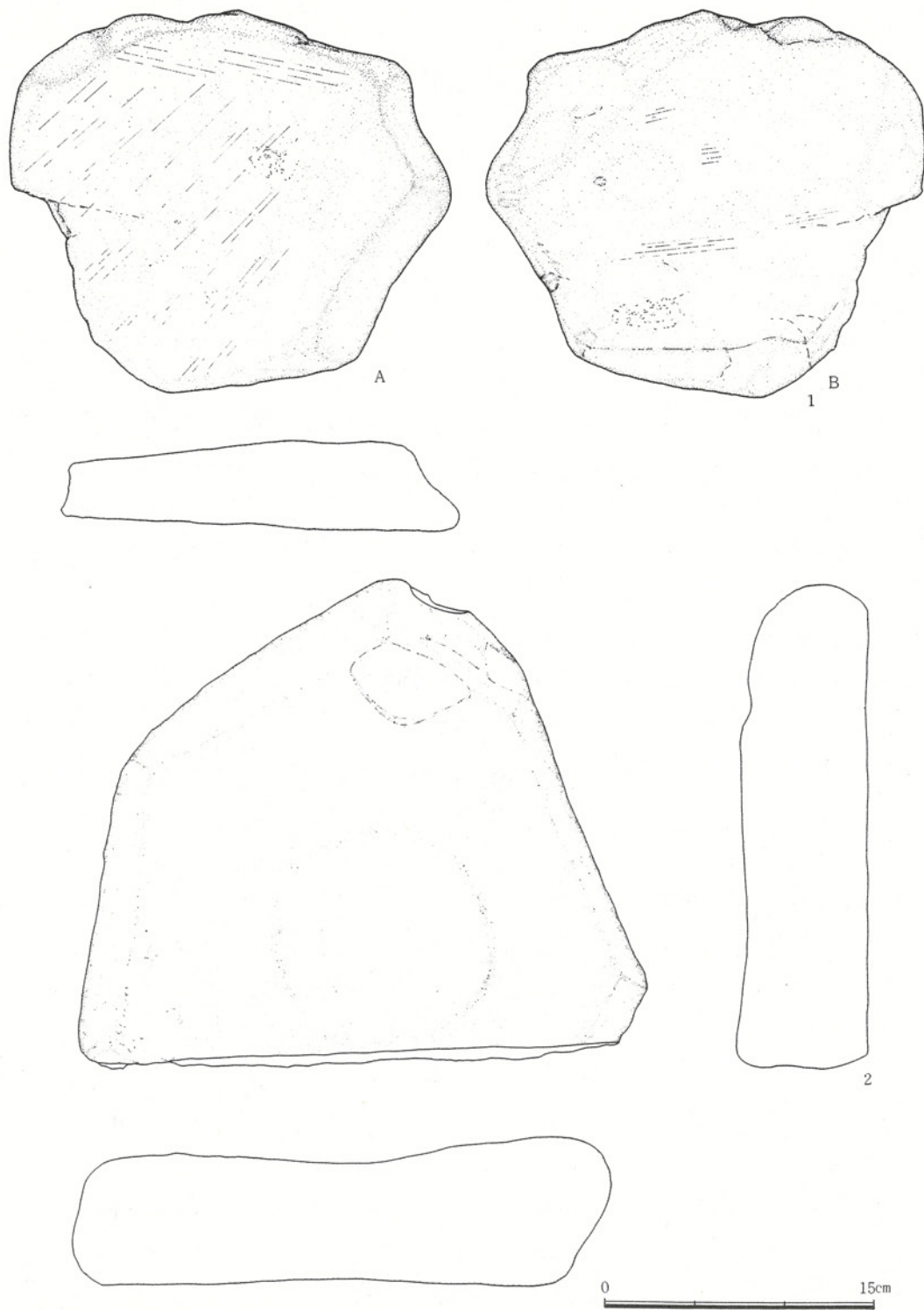


fig. 39 石臼実測図

第Ⅳ次調査

第Ⅳ次調査は、第Ⅰ～Ⅲ次調査を行った地点より150mほど下流で調査を実施した。従来確認してきた集落中心部分から東へはずれた様相を示している。遺構密度は低く住居跡1、土坑3、掘立柱建物跡2、溝2であり、遺構面は1.1m前後である。(fig.40)

住居跡S B 401 (fig.41)

調査区北東隅から確認された円形の住居跡である。側壁の一部のみが残存していた。残存長約5m、検出面から床面までの深さが約26cmを測る。埋積土は、2.褐色粘質土 3.にぶい黄褐色粘質土 4.暗灰黄色粘質土で床面直上では多量の砂岩が確認された。なお側壁東側には一部で段が認められ、建てかえが行われたことが推定される。遺物は少ないが、朱の工房の可能性が考えられ、黒谷川Ⅰ式併行期まで朱の精製が遡ることを示す遺構である。

土坑S K 401 (fig.42)

調査区中央を流れる大溝(S D 401)の西側にあり、3基の不整円形の土坑のまとまりからなる。規模は長軸2.6m、短軸約30cmで、1.黒褐色粘質土 2.暗灰黄色粘質土層 3.暗灰黄色粘質土 4.黒褐色粘質土 5.灰オリーブ色粘質土の5層に分けられる。遺物は土器のほか石鏃、鉄器などが出土しており、黒谷川Ⅰ式併行期のものである。

土坑S K 401 出土土器 (fig.45-1~7)

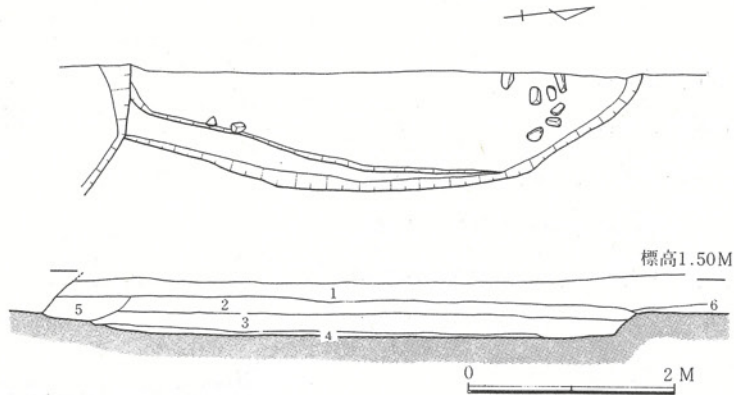
広口長頸壺形土器二点について図化し得た。(1)はほぼ水平に拡がる口縁をもち、口縁端部をわずかに下方に拡張する。端面上には擬凹線を伴い、円形浮文を配する。内外面ともタテヘラミガキである。(2)は口縁つけ根部分を残すのみであるが、体部から頸部にかけてなだらかに移行する。外面タテヘラミガキ、内面は頸部ヨコヘラケズリ+タテヘラケズリ、体部上半はユビオサエである。

甕形土器(3, 4, 5, 7)では、完形に復元し得るのは(3)だけである。(3)は、小型品で体部中位に最大径をもち、底部は小さくすぼまる。頸部には明瞭なくびれをもたず、ゆるやかに口縁に移り外反する。外面はタタキのち一部ヘラミガキ、内面は上半ヨコヘラケズリ、下半はタテヘラケズリで頸部にユビオサエが認められる。(4)は黒谷川Ⅰ式段階で

標高1.50M



fig. 40 第IV次調査区遺構配置図



1. 暗褐色7.5Y R3/3粘質土(遺物包含層) 2 褐色10Y R4/4粘質土(焼土を含む)
3. にぶい黄褐色10Y R4/3粘質土(焼土・炭化物を含む)
4. 暗灰黄色2.5Y 4/2粘質土(焼土を含む)
5. 暗オリーブ褐色2.5Y 3/3粘質土(焼土・炭化物を含む)
6. 灰色 5 Y 4/1粘質土

fig. 41 住居跡 S B401実測図

多出する甕A1とタイプ分けしているもので、外面タキ+タテハケ、内面体部タテヘラケズリ、口縁部ヨコハケである。(5)は胴張りしないもので、外面タテハケ、内面タテヘラミガキである。

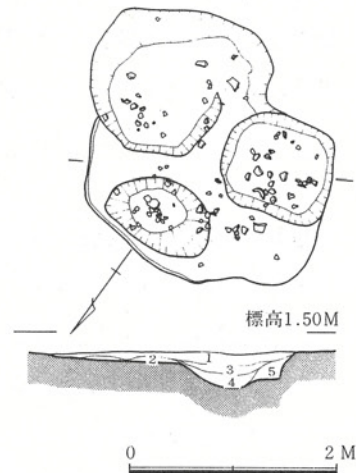
鉢形土器(6)は磨滅が著しく調整技法は確認できないが、半球状の体部をもつ薄手のものである。

土坑S K402 (fig. 43)

S K401の北側で確認された長軸1.7m、短軸1.4mの楕円形の平面プランをもつ土坑である。深さは約20cmと浅い。少量の土器片を確認したにすぎなかった。隣接の他の遺構と同じく黒谷川I式のものであろう。

土坑S K402 出土土器 (fig.45-8)

出土遺物は細片のものが多く図化し得たものは1点のみであった。甕形土器(8)は口縁部がゆるやかに大きく外反する。口縁端部は下方にわずかに摘み出され、端面上に一条の擬凹線を施す。外面はタタキ+ハケ、内面はナナメないしヨコ方向のヘラケズリである。黒



1. 黒褐色10Y R2/3粘質土
2. 暗灰黄色2.5Y 4/2粘質土
3. 暗灰黄色2.5Y 4/2粘質土
(オリーブ黄色 5 Y 6/4粘質土を
ブロック状に含む)
4. 黒褐色2.5Y 3/1粘質土
5. 暗オリーブ色 5 Y 4/3粘質土

fig. 42 土坑 S K401実測図

谷川 I 式のものである。

土坑 S K 403 (fig.44)

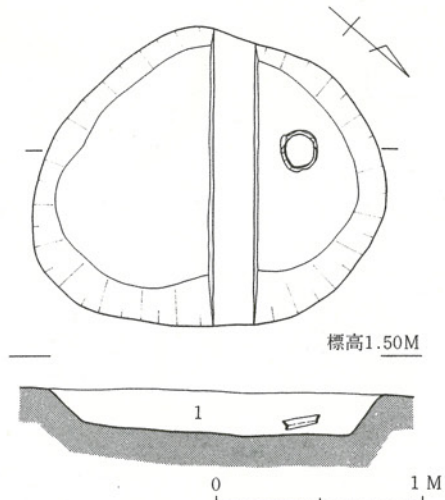
東西に主軸をもつ楕円長方形の土坑である。長さ約1.5m, 最大幅80cm, 深さ30cmで明瞭な掘り方をもつ。横断面は梯形を呈し, 暗灰黄色粘質土を充填する。黒谷川 I 式段階の遺物や炭化物を多量に含み, 乳幼児対象の土坑墓を想定することができる。

土坑 S K 403 出土土器 (fig.45-10~12)

壺形土器 (10, 11, 12) はいずれも細片である。(11)は広口長頸壺の口縁部で端部断面が方形に角ばるものである。(10, 12)は底部の細片であるが, 外面はタテヘラケズリで, 内面にはヘラケズリ(10), ハケ(12)をそれぞれ施す。

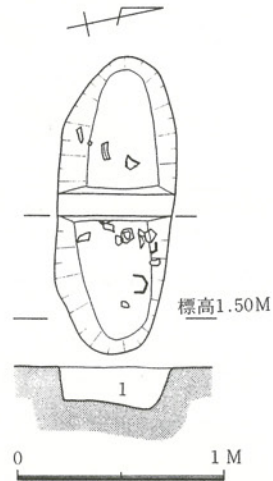
掘立柱建物跡 S A 401 (fig.46)

大溝 S D 401 の東側に構築された高床式の建物跡で, 主軸を東西方向に向ける。梁間 3 間, 桁行 3 間で, 東西の柱心間距離 1.5m, 南北柱間距離 3.5m を測り, 各柱穴の深さは 40cm 前後である。柱穴の埋積土中の遺物は細片に限られている。各柱穴の掘り方は 20cm 以上であるが, 柱自体の太さは 15cm 前後ではないかと思われ, 倉庫的な建物であったと予想される。掘立柱建物跡は 縦穴式居 2・3 軒に 1 棟程度の割合で建てられる傾向が判明しているが, 第 V 次調査で東接地を調査したところ集落を区画する溝が確認されたことから集落域外に存在する建物として従来のものと違った性格を考える必要もある。これも黒谷川 I 式段階のものである。



1. 暗褐色10Y R3/3粘質土

fig. 43 土坑 S K 402実測図



1. 暗灰黄色2.5Y 4/2粘質土(炭化物を含む)

fig. 44 土坑 S K 403実測図

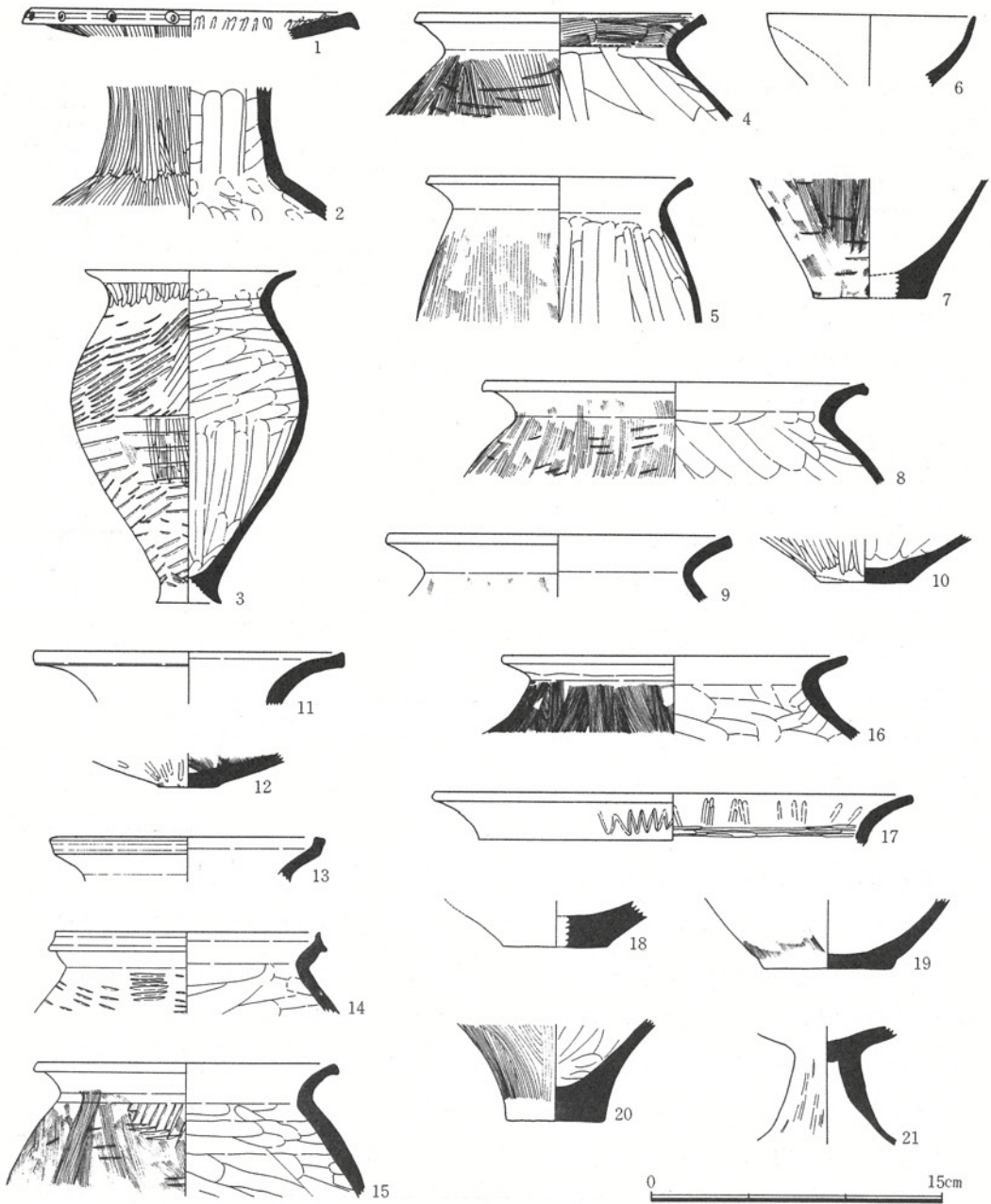


fig. 45 各遺構出土土器実測図

大溝S D401 (fig.401)

調査区中央部を南から北へ貫流する大溝である。調査区北端で大溝S D402を切っている。第IV次調査地内における遺構密度が低いことから、I～III次調査で確認された集落の東限を考える意味で重要である。

この溝は、弥生時代後期後半に使用されたのち一時埋没しているが、その後再度掘削され使用されていたことが、断面から明瞭に観察できる。

規模は、幅2.2~2.5m、残存する掘込みの深さは最深部で80cm前後である。断面図の1~3層は二度目の掘込みに伴う埋積土、4層は弥生時代後期後半の溝埋積後の堆積土である。5層以下が黒谷川I式併行期の溝に由来する埋積土で、5.暗灰黄色粘質土 6.オリブ褐色粘質土 7.暗灰黄色粘質土 8.暗灰黄色粘質土 9.暗灰黄色粘質土である。

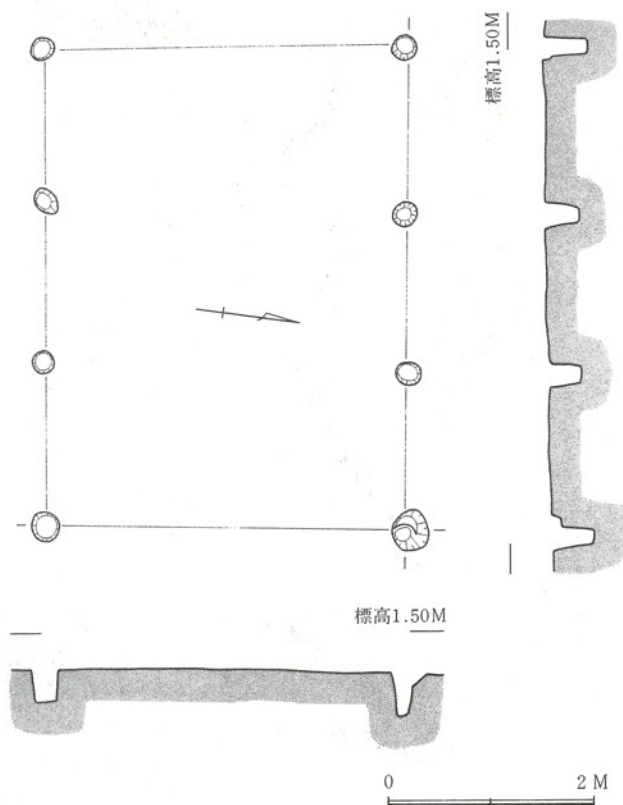


fig. 46 建物跡 S A 401実測図

大溝 S D 401 出土土器 (fig.48)

壺形土器(1~4, 6)には広口壺(1, 2, 3)と広口長頸壺(4, 6)がある。(1)は短く直立する頸部に発達した口縁部が付くもので端部を多少肥大させる。端面上には櫛描列点文状の板オサエがあり、頸部外面タテハケ、体部内面上半ユビオサエである。(2, 3)はいずれも明瞭な頸部をもたず体部から口縁部にゆるやかに移行する形態を示す。(4)は口縁部の外反度が弱く、直口する頸部をもつ。口縁端面は、二条の擬凹線を伴い、外面タテヘラミガキ、内面ユビオサエである。(6)はやや外反気味に立ち上がる頸部が口縁部水平方向に拡がり、受口状に端部を拡張する。端面上には、二条の擬凹線をもち、頸部外面ナナメハケ、内面ヨコハケである。

甕形土器(5, 7~12)はいずれも肩部以下を欠損する。「く」の字状の口縁をもち甕Aに分類できるもの(8, 10, 11)、口縁端部を上下に拡張し、擬凹線を加え丸みをもった体部をもつ甕B(12)、短く外反する頸部をもつ甕C(5, 9)、頸部に明瞭なくびれをもたず、口縁部に移るもの(7)がある。(8, 10, 11)は基本的に外面タタキ+タテハケ、内面ヘラ

ケズリに一部ユビオサエを伴う。(12)は外面タタキ+タテハケ, 内面タテヘラケズリを丁寧におこなう。体部は球状に胴張りするものと考えられる。(5)は, 口唇部に強いヨコナデを伴い, 端部が拡張する。内面には粗いヘラケズリが看取できる。

壺形土器底部 (13, 14, 15) は, 突出する平底を示す。外面はタタキ+ヘラミガキである。内面はヘラミガキ(14), ヘラケズリ(15)がそれぞれ認められる。

(16, 17) は甕形土器底部である。(16)は外面タタキで, 底部は上げ底状となる。(17)は外面タタキ+細かなハケ, 内面ヘラケズリである。

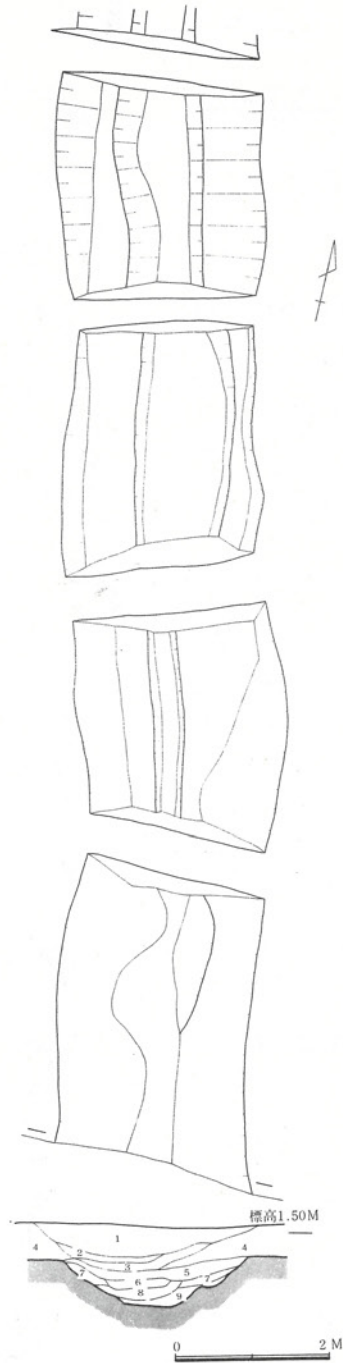
鉢(18)は底部上げ底を呈し, 内彎気味に立ち上がる。外面はタタキである。(19)は口縁部でヨコナデを伴い内彎する。

溝SD402 (fig.49)

調査区北縁部で部分的に確認された東西方向の流れをもつ溝である。正確な規模はわからないが, SD401と同様の大溝であることは間違いない。この溝はSD401に切られているが, 時期的に大きな差はないものと思われる。埋積土は, 1.オリーブ褐色粘質土 2.暗オリーブ色砂質土 3.オリーブ褐色砂質土 4.灰オリーブ褐色粘質土 5.灰オリーブ色粘質土 6.灰オリーブ色砂質土である。

溝SD402 出土土器 (fig.45-13~21)

甕形土器 (13~16) は, 受口状に口縁端部を上方に摘み上げるもの(13), 短く屈曲し端部を上下に拡張するもの(14), 大きく外方に立ち上がるもの(15)など口縁部の形態に差異がある。(14)は甕Bとタイプ分けしているも



1. 黄褐色2.5Y5/4粘質土
2. 濃い黄色2.5Y6/3粘質土
3. 暗灰黄色2.5Y5/2粘質土
4. 暗褐色7.5YR3/3粘質土
5. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土
6. オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土
7. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土
8. 暗灰黄色2.5Y5/2粘質土
9. 暗灰黄色2.5Y5/2粘質土

fig. 47 溝SD401実測図

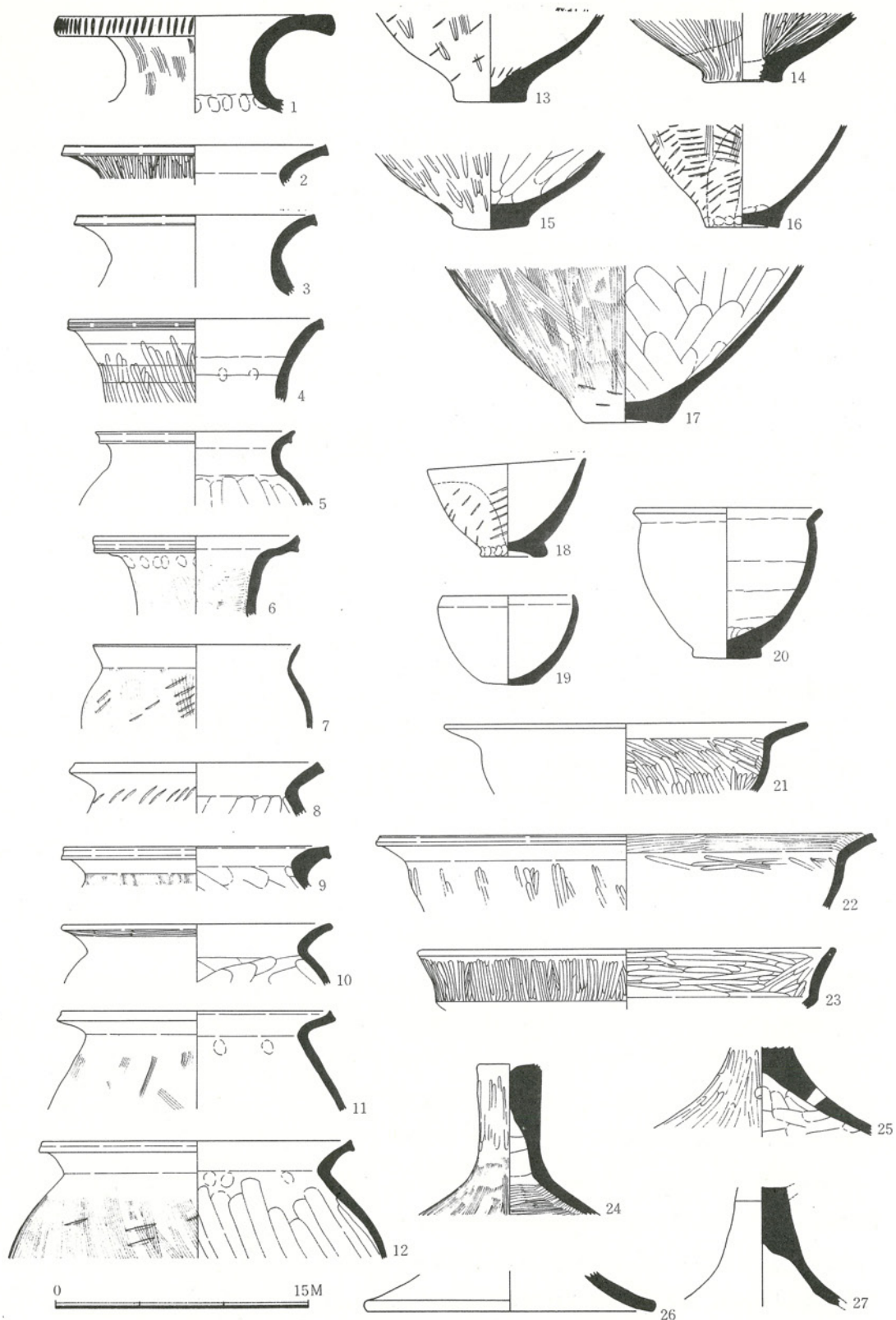


fig. 48 溝 S D 401出土土器実測図

ので、拡張した口縁端面上に二条の弱い凹線をもつ。外面は水平ないし右下がりのタタキ、内面ヨコヘラケズリである。(15)は甕A1としているものである。口縁端部を下方に僅かに拡張し、外面タタキ+ハケ、内面ナナメないしヨコヘラケズリである。(16)は口縁の屈曲が著しく、体部は欠損するが大きく肩を張るものようである。外面は細かなタテハケ、内面は断続的なヘラケズリである。

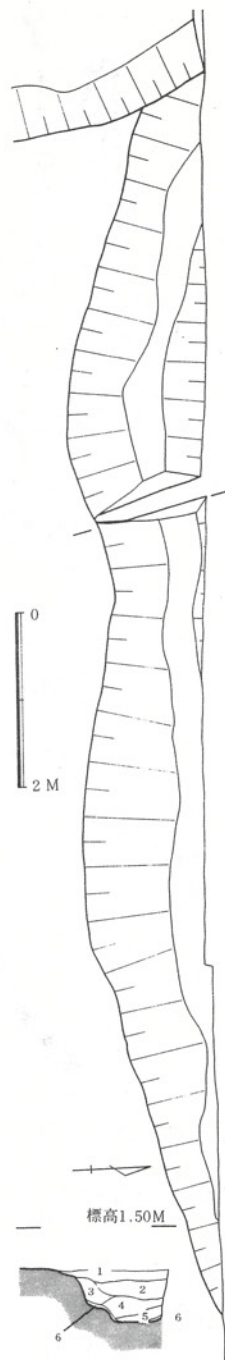
高杯形土器(17)は口縁部を残すのみであるが、杯部が屈曲し大きく外反するタイプのものである。外面に暗文風のヘラミガキをもち、内面はヘラミガキである。I次調査溝1の資料と類似する。脚柱部(21)は円板充填法が看取できるが、全体に磨滅が著しい。

底部(18~20)のうち(18, 19)は壺形土器の底部である。(20)は、外面をタタキ+ナデ、内面ヘラケズリである。

包含層出土土器 (fig.50)

細頸壺形土器(1)は、同器種で本遺跡では、初めて完形に復元し得たものである。体部は算盤玉形で突出する平底の底部をもち、頸部はほぼ直立し、口縁部で外反する。体部は外面ハケ+タテヘラケズリ、内面上半ユビオサエ、下半ハケである。頸部は外面タテヘラミガキ、内面ヘラケズリである。壺形土器底部(2)は、扁平球状の体部をもつ広口長頸壺形土器と考えられる。

甕形土器は小型で胴張りのしないもの(3)、口縁部が一度立ち上がったのち外方へ彎曲するもの(4)、「く」の字状に鋭く外反し、口縁端部を拡張するもの(5)がある。(3)は頸部に明瞭な稜をもたず、口縁にかけて緩やかな弧を描き立ち上がるものである。体部外面及び口縁部内面に細かいハケを施す。(4)は器壁の厚い体部から頸部で一度上方に立ち上がり、厚ぼったい口縁がつく。体部外面はハケ、内面はヨコヘラケズリである。胎土は細かく堅微で搬入品と考えられる。(5)は拡張した口縁



1. オリーブ褐色 2.5 Y 4/3 粘質土
2. 暗オリーブ色 5 Y 4/3 砂質土
3. オリーブ褐色 2.5 Y 4/3 粘質土
4. 灰オリーブ 5 Y 4/2 粘質土
5. 灰オリーブ色 5 Y 5/2 粘質土
6. 灰オリーブ色 5 Y 6/2 砂質土

fig. 49 溝 S D 402実測図

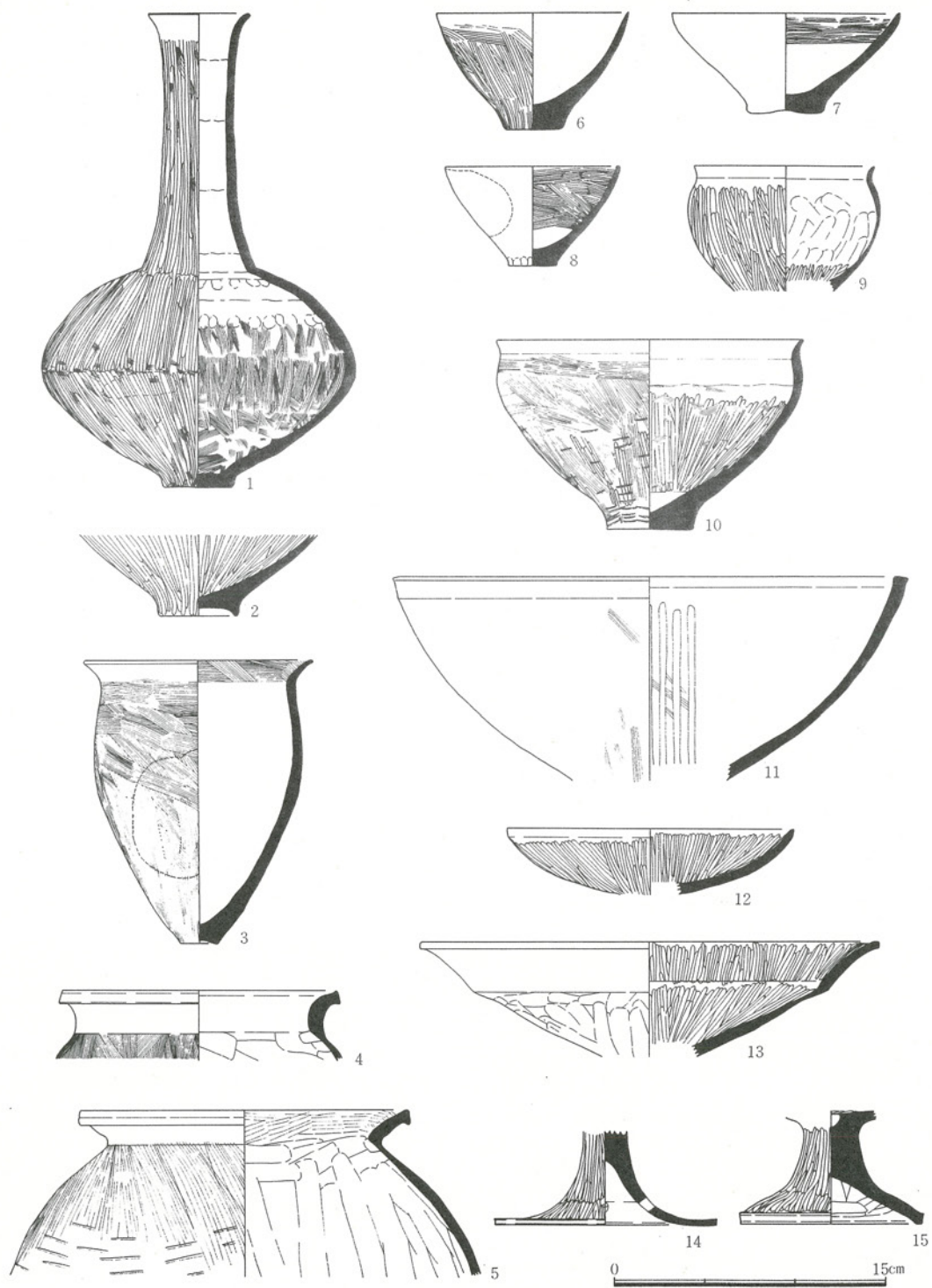


fig. 50 遺物包含層出土土器実測図

端面に強いヨコナデを伴う。外面タタキ+粗いハケ、内面ヨコヘラケズリである。

鉢形土器（6～11）には、内彎気味に立ち上がるもの（6～8）半球状の体部にわずかにくびれをもって口縁に移行するもの（9、10）大型品で半球状のもの(11)などのバリエーションがみられる。(9)はⅡ次調査溝15に類例があり、外面を丁寧へラミガキし、内面は上半へラケズリ、下はへラミガキである。(10)は内彎して立ち上がる鉢の擬口縁上に口縁部を積み上げたものである。外面はタタキ+へラミガキのちハケを施し、内面は丁寧なタテへラミガキを行う。

高杯形土器杯部（12、13）は椀状のもの(12)と口縁が屈曲して外反するもの(13)がある。(12)は内外面ともへラミガキ、(13)は受部外面へラケズリ、内面は屈曲部でプレスをもつへラミガキである。脚部（14、15）はいずれも中実脚で、脚部挿入法で杯部と接合される。外面はへラミガキ、(15)は内面へラケズリである。

弧帯文・記号文土器 (fig.51, 52)

概略報告書Ⅰで紹介したように、本遺跡では弧帯文関連文様が認められる。(fig51-1)は黒谷川Ⅰ式段階の広口壺形土器の口縁部内面に描かれたものであり、二線帯入り組み文のパターンを示す。(2)も広口壺形土器の口縁内面に描かれたものである。9形ないし7形のループ状の弧帯文の連続からなり、その間にはバチ形図形が組み込まれている。ここに見られる2つの図形は、奈良県纏向遺跡出土の弧文円盤に完成した文様構成がみられる。(3、4)の弧帯文は岡山県立坂遺跡の特殊器台形土器に認められる凸レンズ形文様と思われる。(7)は第Ⅳ次調査の包含層出土した記号文土器である。壺形土器の体部上半に上下方向の二本の平行線に蛸足状の曲線が組合わさっている。

(8、9)には二線帯の象の鼻形の図形が認められる。(8)は高杯の脚部に描かれたもので、上下を直線で区画した中央に、象の鼻形の図形をおき、それから連続する線が三角形を構成している。(9)は算盤玉形の長径3.5cm余りでの土製品である。中央部に2mmほどの孔が穿たれていることから、垂飾品であると考えられる。この土製品の両面には象の鼻形の文様と別の直線が、鋭利な線で描かれている。これら象の鼻形の図形は纏向遺跡弧文円盤の第二段構図の原単位図形に認めれる。

(10)は壺形土器体部に描かれたものである。緩やかな曲線と直線で四角く区画されたなかに鋸歯状の線と弧線がある。四角形の下辺にあたる曲線は上方へ延びている。絵画文とは考えられるが、何を意図して描かれたのか不明である。

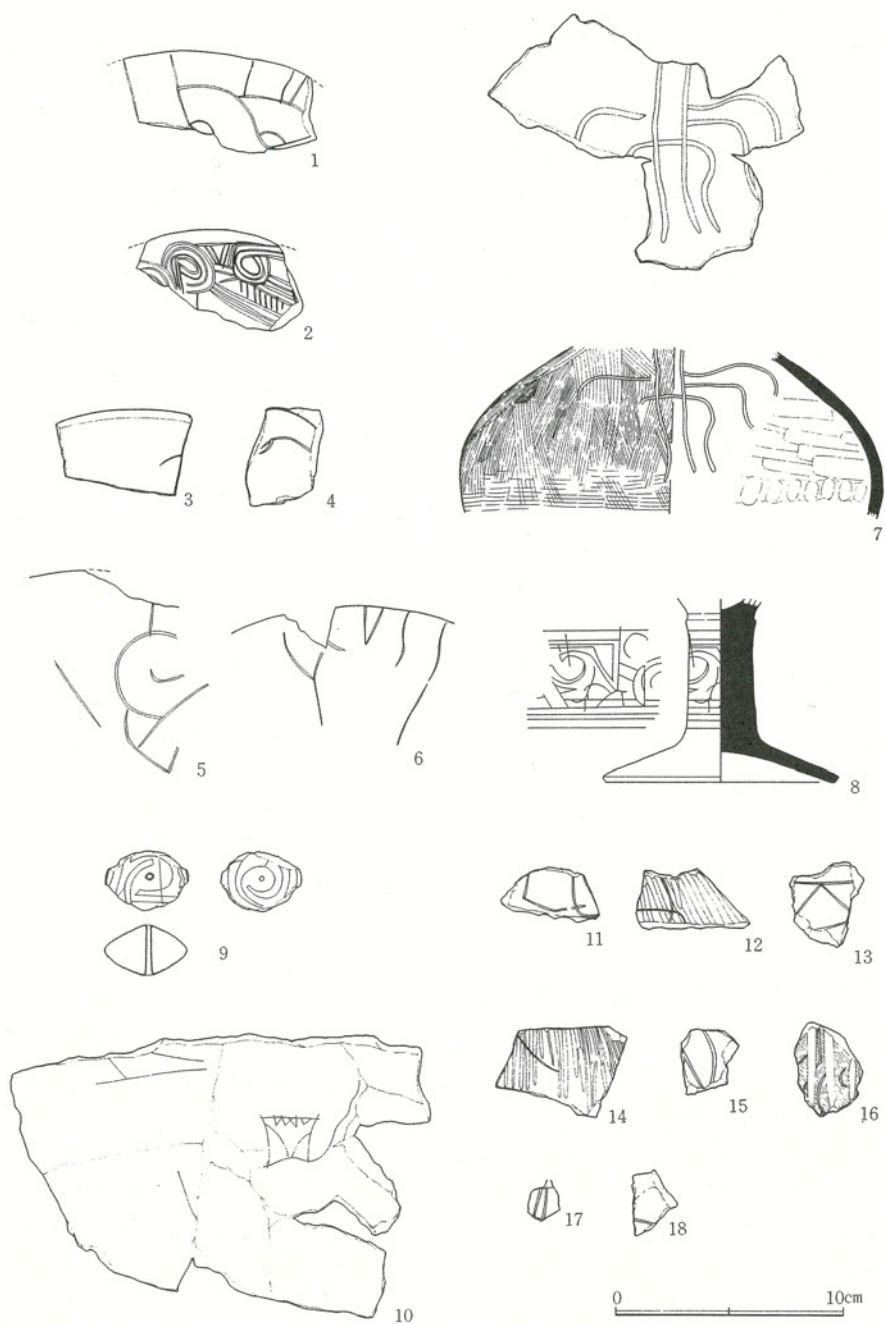


fig. 51 第Ⅲ・Ⅳ次調査出土の弧帯文・記号文

(11~18)は土器片に断片的に認められる線刻である。細片のため本来の文様帯を認識しにくい。

第Ⅲ次調査出土の広口長頸壺形土器口縁内面に認められる弧帯文(fig.51-5, 6 fig.52)では二線帯ループ状の図形の外側に、帯ではない小区画部分が附属して描かれている。この文様帯は、奈良県唐古遺跡出土の壺形土器片に類似し、かつ自己一対の文様帯を構成している。この土器は黒谷川Ⅰ式段階のものである。

土製品 (fig.53)

土製垂飾品(1, 2)は、共に土器片を再利用して作られたものである。(1)は、一方の面にもととの土器に

施されていたハケ目をとどめる。形状は円弧状のえぐりこみの繰り返しによる特異なもので、上端部に両面より穿孔されている。

(2)は下半部を欠損する。加工する以前の土器のハケ目を残し、加工時にへら状工具によるケズリの痕跡を残す。孔は両面穿孔である。第Ⅲ次調査包含層資料である。

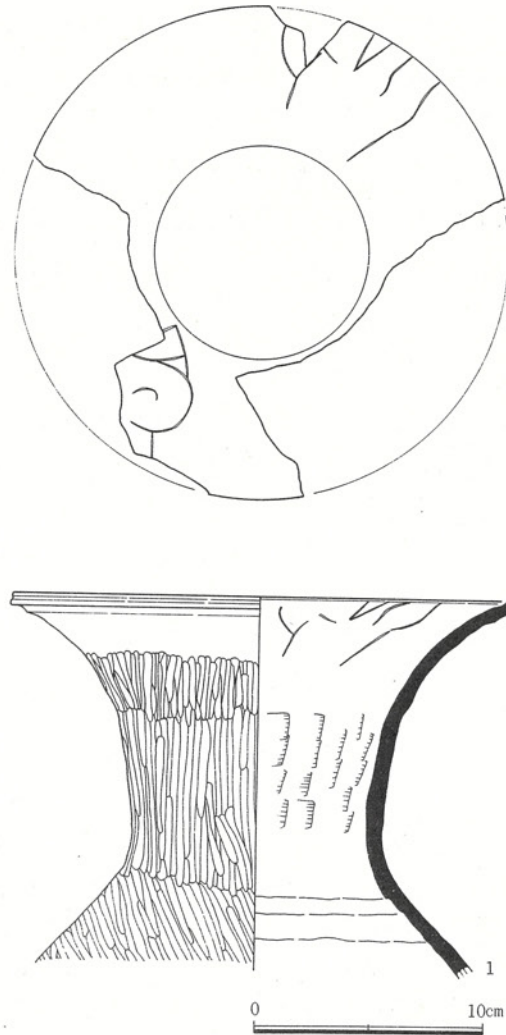


fig. 52 第Ⅲ次調査出土の弧帯文土器

球状土製品(3)は直径2.2cmで、中央部に直径3mmの孔をもつ。

紡錘車(4)は大小二つの円盤を重ね合わせたような形状を示す。直径3.7cm、厚さ1.2cmで、孔は直径5～8mmである。第Ⅳ次調査溝S D 401底から出土。

ミニチュア土器(5)は口径4.1cm、高さ3.4cmで、手づくねであるが、内面は一部ヘラケズリにより調整する。

舟形土製品(6)はⅣ次調査包含層資料である。残存長7.6cmで、船首から舷側の一部を残し、船尾は欠損するが当時の舟を忠実に模倣しているものと考えられる。この舟形土製品が丸木舟、構造船のいずれを意図して作られているのか判断することは難しいが、舷側が船の中央部に向かって外側に立ち上がりを見せながら広がっていることから、構造物を示しているのかもしれない。本遺跡は海拔1m余りしかない低湿地に立地し、前面の湖沼・川の流路を經由して外海へ出ていくための港湾施設をもっていたことが予想される。朱の精製を行う機能集落である本遺跡が、交通手段として舟に重きをおいていたことが考えられる。舟形土製品もこれに伴う祭祀行為に用いられた可能性もある。

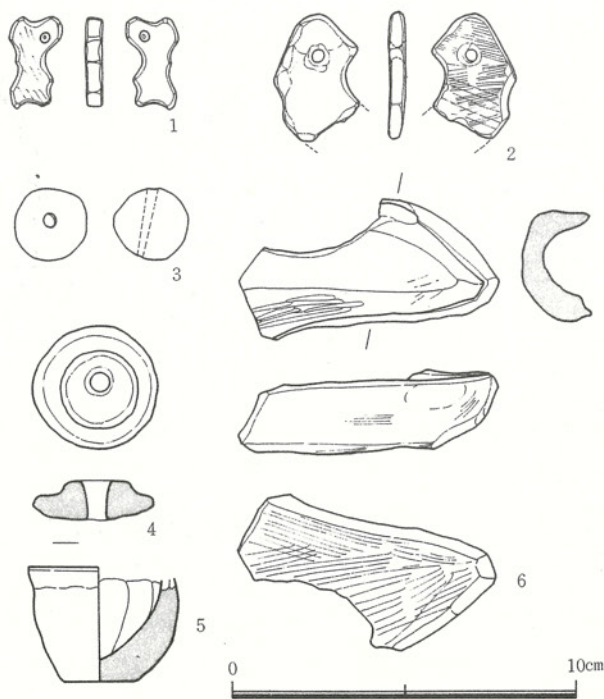


fig. 53 第Ⅲ・Ⅳ次調査出土の土製品

Ⅲ ま と め

黒谷川郡頭遺跡も第Ⅳ次調査までを完了し、遺跡の評価も定ってきた。今回、朱の精製にかかわる遺構では、現位置を保った石臼をもつ工房(S B 306)、弥生時代後期後半まで遡る可能性のある工房(S B 304, 401)が確認され、朱精製遺跡としての認識も高まったものと考えている。

第Ⅲ次調査においては前回の調査と同様、弥生時代後期後半から古墳時代初頭期の住居跡・建物跡・溝・土坑がきわめて密集して検出された。河川敷であるため湧水等により困難な調査を余儀なくされたが、良好な資料が多数得られたことは幸いであった。

第Ⅳ次調査は、従来の調査区に比べ遺構形成度は低く、かつ黒谷川Ⅰ式段階の遺構に限られることから、Ⅰ～Ⅲ次調査で確認されたⅠ式段階の環溝集落の外にあたるものと判断できる。この調査区に東接する第Ⅴ次調査区(現在調査中)においてⅠ式段階の新たな集落の環溝が検出されたことにより、東側の集落との関係も考えていきたい。今後第Ⅴ次調査の調査結果に基づき、第Ⅳ次調査区⁽¹⁾の位置づけを再考する必要があるだろう。

概要報告書Ⅰ、Ⅱにおいて、黒谷川Ⅰ～Ⅲ式の土器編年を提示し、「東阿波型土器」の成立について述べてきた。今回の調査資料のなかには、黒谷川Ⅲ式より新しい様相を示し、いわゆる「布留0式」段階に併行する時期の土器が見られた。今後、黒谷川Ⅳ式の設定を⁽³⁾考えていきたい。また、資料に恵まれていないⅡ式段階での器種間のセット関係の把握や、Ⅰ式とⅡ式の土器相間のヒアタスについても今後検討していかなければならない。とりあえず本稿では搬入・搬出土器の面から若干の問題を提起しておきたい。

東阿波型土器の拡散

概要報告書Ⅱでは、黒谷川Ⅲ式段階の広口壺形土器・甕形土器を中心として、東阿波特有の土器相が成立することを述べた。この「東阿波型土器」の胎土は三波川変成帯に由来する結晶片岩粒を含有することが指摘され、生産・使用した集団の本拠地を吉野川南岸、鮎喰川流域であると考えた。

吉野川北岸に立地し、地質的には白亜系和泉層群にあたる本遺跡で結晶片岩粒を含む土器が大量に出土することは、朱の生産を行う機能集落としての面から理解されている。すなわち朱の採掘・精製を管理した鮎喰川流域の集落が本遺跡を精製基地として系列下においていた結果、吉野川北岸の本遺跡に吉野川南岸産の土器が大量にもたらされたと考えられるのである。 □

さて、徳島県内では朱の原料となる辰砂採掘遺跡である阿南市若杉山遺跡⁽⁴⁾や蛇紋岩製勾玉製作遺跡である稲持遺跡⁽⁵⁾などかなりの遠隔地で東阿波型土器の出土が認められている。若杉山遺跡は、朱の採掘・精製をめぐる鮎喰川流域の集落から規制を受けていたであろうし、稲持遺跡は勾玉の生産により県西部地域で重要な役割を担っていた集落であり、東阿波型土器の拡散は当時の阿波における集落編制を考えるうえで重要な意味合いをもつ。

一方「東阿波型土器」が識別されるにつれ、県外の遺跡で、この種の土器の出土を確認し易くなった。現時点では淡路・摂津・河内・播磨など大阪湾を取り巻く地域へかなり持ち出されていることが、判明してきている。球形もしくは倒卵形の体部に直立する頸部をもち、口縁部は外方に拡がり、端部をつまみ上げる形態を示す広口壺形土器は、兵庫県長越遺跡⁽⁶⁾、沖田南遺跡⁽⁷⁾、大阪府加美遺跡⁽⁸⁾、安満遺跡⁽⁹⁾などで確認できる。倒卵形体部をもち、口縁部を「く」の字形に短く外反し端部をつまみあげる甕形土器は、沖田南遺跡⁽¹⁰⁾、神戸市長田神社遺跡⁽¹¹⁾などに類例がある。

畿内で土器の産地を認定するうえで、胎土中に結晶片岩粒を含むことを紀伊系土器の認定の基準としている。しかし胎土中に結晶片岩粒を含む土器イコール紀伊系とするきらい⁽¹²⁾があったのではなかろうか。特に他地域産の土器が、多くみられる中河内の遺跡では、胎土中に結晶片岩粒を含むことをもって「紀伊系」としている土器に、東阿波型土器を見いだすことができる。球形の体部に、僅かに外傾しながら直立し屈曲して大きく朝顔状に立ち上がる口縁をもつ二重口縁壺は、八尾市中田遺跡中田1丁目土坑3や八尾市水越遺跡高安中学校SW3などに見られる。これらの土器は、第II次調査井戸1、12号住居跡⁽¹³⁾など黒谷川Ⅲ式の資料と類似し、紀伊系と誤認された東阿波型土器である。また亀井北遺跡⁽¹⁴⁾では底部が尖り気味の丸底で皿状の黒谷川Ⅲ式段階の鉢形土器や口縁部を「く」字形に短く外反し端部をつまみ上げる甕形土器が出土している。いずれも典型的な東阿波型土器である。

これまで、畿内では搬入土器を考えるうえで阿波産の土器についてほとんど注意が払われてこなかった。今回示したように、中河内を中心に東阿波型土器の出土例が増加することが予想され、畿内と対比した土器編年を考えやすい状況となりつつある。

淡路系土器について

前回の概略報告書で、本遺跡では結晶片岩を多量に含む吉野川南岸、鮎喰川下流域の土器がきわめて高い割合を占めることを述べた。しかし第Ⅲ、Ⅳ次調査の資料を検討していく過程で長石、石英粒を多量に含み砂っぽい胎土を有する土器がかなり含まれていること

が明らかになってきた。これらは、吉野川南岸下流域産の土器に含まれるべき結晶片岩粒を全く含まず、地質的には和泉層群にあたる地域の土器であると考えられる。

近接地域に類似する胎土をもつ土器がないかを検討していくうちに、淡路島内に「結晶片岩を含まず、砂粒を多量に含む土器」を認めることができた。当初洲本市下内繕遺跡の弥生土器（畿内第Ⅳ様式併行）胎土の類似性を考えたが、実見すると多量の長石・石英粒を含む一方、領家花崗岩地帯にあるため花崗岩に由来する黒雲母片を顕緒に含むことが観察され、洲本平野の土器とは異なることが判明した。

一方三原郡内は、阿讃山脈と同じ和泉層群の論鶴羽山脈に由来する土砂堆積により形成された地域が広がっている。この地域にあたる南淡町阿知正福寺遺跡、西淡町炉遺跡の表採資料のなかには、本遺跡にみられる「結晶片岩を含まず、砂粒を多量に含む土器」が大量に含まれていた⁽¹⁵⁾。甕形土器などはプロポーション、技法等も類似するものであった。また阿知正福寺遺跡では、第Ⅲ次調査土坑S K 308 (fig.23-3)と類似する二重口縁壺形土器が採集されており、胎土に結晶片岩粒を含む東阿波の土器であった。

以上のように結晶片岩を含まず、砂粒を多量に含む一群の土器が、淡路島三原郡内搬入品の可能性は高いようである。しかしながら本遺跡では在地の胎土をもつ土器が判別されておらず、結晶片岩粒を含まないこの種の土器が在地産である可能性もあながち捨てきれないことも述べておく。

淡路島南部地域は、鳴門海峡をはさんで阿波と隣接する地域であり、畿内に向けて交通路にあたるため、頻繁に交流があったに違いない。淡路は、東阿波と畿内の資料を比較検討するうえで、重要な地域であることをあらためて指摘し、今後の課題としたい。

注

- (1) 大西浩正 「黒谷川郡頭遺跡現地説明会資料」 徳島県教育委員会 1988
- (2) 菅原康夫 「黒谷川郡頭遺跡Ⅱ」 徳島県教育委員会 1987
菅原康夫 「吉野川流域における弥生時代終末期の文化相」『考古学と地域文化』 同志社大学考古学シリーズⅢ 1987
- (3) 寺沢薫編 「矢部遺跡」 奈良県立橿原考古学研究所 1986
- (4) 岡山真知子編 「若杉山遺跡発掘調査概報—昭和61年度—」 徳島県博物館 1987
- (5) 湯浅利彦 「稲持遺跡現地説明会資料」 徳島県教育委員会 1989
- (6) 松下勝編 「播磨長越遺跡」 兵庫県教育委員会 1978

- (7) 松下勝・別府洋二編 「淡路・志知川沖田南遺跡」 財団法人兵庫県文化協会 1987
- (8) 森毅氏持参した資料に東阿波型土器を確認している。
- (9) 森田克行・橋本久和 「安満遺跡発掘調査報告書―九地区の調査」 高槻市教育委員会 1977
- (10) 文献(7)と同じ。松下勝氏のご好意で実見。
- (11) 佐伯二郎氏の御教示。図面により東阿波型土器であることを確認した。
- (12) 米田敏幸 「中河内の庄内式と搬入土器について」『考古学論集 第1集』 考古学を学ぶ会 1985
- (13) 原田昌則・成海佳子他 「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和56・57年度」 財団法人八尾市文化財調査研究会 1983
(12)を参照
- (14) 小野久隆，服部文章他「亀井北遺跡(その1)」財団法人大阪文化財センター 1986
- (15) 浦上雅史氏のご好意で実見。

出土土器觀察表

tab. 1 出土土器観察表

器種	番号/種図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
広口壺	1/7	口径 18.7	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部直立気味に立ち上がる。 ・口縁部水平に大きく外反。 ・口縁端部を上方につまみ上げる。 ・口縁端部外面2条の池線をめくらす。 ・口縁部内面ヨコナテ。 ・頸部外面ヨコナテ。 ・頸部内面 1.9cm幅単位のヨコハケ。 ・頸部、口縁部の境に粘土紐痕。 		淡灰褐色	結晶片岩 石英 微量の黒雲母 微量の黒色鉱物	2号住居跡	
広口壺	2/7	器高 27.6 口径 14.3 体部最大径 22.4 底径 4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・口頸部直立気味に立ち上がり、外反。 ・口縁端部は、方形状におさめる。 ・口縁端部、内外面ヨコナテ。 ・頸部外面11条/cm幅単位のタテハケ。 ・頸部内面 1 cm幅単位のヨコヘラケズリの痕跡をとどめる。 ・体部との境にユビオサエ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球形に近い体部。 ・体部中に最大径。 ・体部外面中に9条/1.1cm幅単位の右下りのナナメハケ。 ・体部外面下に4条/cm幅単位の左下りのタタキ。 ・体部内面上位に16条/cm幅単位のヨコハケ。 ・体部内面中に14条/cm幅単位のヨコハケのうち3 mm幅単位のタテヘラミガキ。 ・体部内面下半に1.3cm幅単位のナナメケズリ。 ・丸底に近い平底。 ・外底面に木葉圧痕。 	淡茶褐色	結晶片岩 長石 赤色斑粒	2号住居跡	搬入土器 体部外面下半黒斑
広口壺	3/7	器高 31.5 口径 19.4 体部最大径 28.2 底径 5.2	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部直立気味に立ち上がる。 ・口縁部大きく外反。 ・口縁上端部をわずかにつまみ上げる。 ・口縁端部一条の浅い擬凹線。 ・頸部外面12条/cmのタテハケのうち2 mm幅単位のヨコヘラミガ 	<ul style="list-style-type: none"> ・球形に近い体部。 ・体部中に最大径。 ・体部外面9条/0.9cm幅単位のナナメハケのうち4 mm幅単位のタテヘラミガキ。部分的にタタキの痕跡。 ・体部内面12条/cm幅単位のナナ 	淡赤褐色 (外) 灰黒色 (内)	結晶片岩 長石 石英 赤色斑粒	2号住居跡	体部外面中に煤の付着 体部外面下半黒斑

				メハケ。 ・内底面ユビオサエ。 ・丸底に近い平底。 ・外底面ナデ。	淡灰褐色		2号住居跡	搬入土器
甕	4/7	口径 13.4	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部内面12条/cmの左上りのヨコハケ。 ・体部との境にユビオサエ。 ・口縁部外反。 ・口縁端部を方形状におさめる。 ・口縁部外面22条/1.5cm幅単位のタテハケ。 ・口縁部内面22条/1.5cm幅単位のヨコハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面上半5条/cmの水平タキのち8条/cmの細かいナメハケ、上端部ヨコナデ。 ・体部外面下半7条/1.3cm幅単位の荒いタテハケ。 ・体部内面上位ユビオサエ。 ・体部内面上位から下位にかけてタテヘラケズリ。 	石英 長石 結晶片岩 黒色斑粒 ごく微量の 黒雲母	2号住居跡	体部外面上位から口縁部にかけ て煤の付着	
鉢	5/7	口径 14.9 体部最大径22.5	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部を鋭くつまみ上げる。 ・1条の擬凹線 ・口縁部内外面ナデ。 	淡茶褐色		2号住居跡		
鉢	6/7	器高 4.4 口径 8.4 底径 1.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部尖り気味におさめる。 	淡赤灰色		2号住居跡		
鉢	7/7	器高 5.9 口径 11.0 底径 3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部丸くおさめる。 	灰白色		2号住居跡	搬入土器	

器種	番号/種図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
鉢	8/7	高 5.7 口径 12.3	・口縁端部尖り気味におさめる。	・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面ナデ。 ・体部内面、縦方向の板ナデ、部分的にナメハケの痕跡。 ・外底面ユビオサエ。 ・丸底。	灰白色	微砂粒	2号住居跡	搬入土器
鉢	9/7	高 5.7 口径 13.2	・口縁端部1条の擬凹線。 ・口縁端部方形形状におさめる。	・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面左下りのタタキののちヨコナデ。 ・体部内面 0.8cm幅単位のヨコヘラケズリ。 ・内底面ユビオサエ。 ・丸底。	淡明褐色		2号住居跡	体部外面下半から底部にかけて黒斑
鉢	10/7	高 6.2 口径 14.4	・口縁端部丸く外反気味におさめる。	・体部外上方に立ち上がる。 ・体部外面上半4条/cm幅単位の水平タタキ ・体部外面下半7条/0.7cm幅単位のタテハケ。 部分的にタタキの痕跡。 ・体部内面8条/cmの粗いナメハケ。 ・丸底。 ・外底面7mm単位のへラケズリ	暗灰褐色 (外) 明灰褐色 (内)		2号住居跡	搬入土器

鉢	11/7	器口底径	7.0 17.2 3.8	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外上方に立ち上がる。 体部外面ナデ。 体部外面下位に水平タタキの痕跡。 体部内面10条/1.3cm幅単位のナメハケののち、3mm幅単位のタテヘラミガキ。 	明灰褐色	2号住居跡	
広口壺	1/14	口径	15.4	<ul style="list-style-type: none"> 口頸部外上方へ立ち上がる。 口縁端部下端を大きく拡張。 口縁外面に3条の擬凹線。 口縁端部貼り付け。 口頸部外面15条/1.3cm幅単位のタテハケ。 口頸部内面12条/cmのヨコハケ。 	淡茶褐色	4号住居跡	口縁部内面黒斑	
広口壺	2/14	口径	16.9	<ul style="list-style-type: none"> 頸部直立。 口縁部水平に大きく外反。 口縁上端部をわずかに尖り気味におさめる。 頸部外面0.3cm幅単位の2段のタテヘラミガキ。 頸部内面0.3cm幅単位のヨコヘラミガキ。 体部との境にナメヘラケズリの痕跡。 粘土紐痕。 	淡赤褐色	4号住居跡	結晶片岩	
広口壺	3/14	口径	19.3	<ul style="list-style-type: none"> 頸部直立。 口縁部水平に大きく外反。 口縁端部下方向にわずかに拡張。 口縁端部幅広の擬凹線。 口縁内面7条/cmの幅広のヨコハケ。 	明褐色	4号住居跡	結晶片岩 石英 長石 クサリ礫	

器種	番号/種図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
広口壺	3/14		<ul style="list-style-type: none"> ・頸部外面 8 条/cm のタテハケののうち 0.3cm 幅単位のタテヘラミガキ。 ・頸部内面 0.5cm 幅単位のタテヘラミガキ。 					
広口壺	4/14	口径 23.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口頸部外上方に立ち上がり口縁部水平に大きく外反。 ・口縁端部丸くおさめる。 ・口縁部外面ヨコナデ。 ・口縁部内面ヨコハケのちヨコナデ。 ・口頸部外面タテハケのちヨコナデ。 		明褐色	結晶片岩	4号住居跡	
広口壺	5/14	口径 18.5	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部直立気味に立ち上がり口縁部水平方向に外反。 ・口縁端部上下に拡張。 ・口縁端部一条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・頸部外面 9 条/0.6cm 幅単位のタテハケを下から上方向にほどこす。 ・頸部内面 6 条/1.4cm 幅単位の幅広のヨコハケ。 ・口縁部との境に粘土紐痕。 ・体部との境に粘土紐痕。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面 0.3cm 幅単位のタテヘラミガキ 部分的にタテハケの痕跡。 ・体部内面 4 条/cm の幅広のヨコハケ。 	淡褐色	結晶片岩 石英 長石 クサリ礫	4号住居跡	
広口壺	6/14	口径 18.7	<ul style="list-style-type: none"> ・口頸部直立気味に短く立ち上がり口縁部外反。 ・口縁端部上下に拡張。 ・口縁端部強いヨコナデ 	<ul style="list-style-type: none"> ・球形の体部と考えられる。 ・体部外面上位 3 条/cm 幅単位のタテハケのち 8 条/0.9cm のタテハケ。 	明赤褐色	砂粒を多く含む	4号住居跡	搬入土器

広口壺	8/14	器高 34.9 口径 15.6 体部最大径 33.4 底径 6.2	<ul style="list-style-type: none"> ・口頸部外面タテハケのちよこなデ。 ・口縁部内面ヨコナデ。 ・頸部内面7条/1.2cm幅単位のヨコハケ。 ・口頸部直立気味に立ち上がり、口縁部外反。 ・口縁端部上下に拡張。 ・口縁端部ヨコナデ 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面中位9条/1.1cm幅単位のタテハケ。 ・部分的にタタキの痕跡 ・体部内面1.9cm幅単位のヨコヘラケズリ。 ・球形の体部。 ・体部中位に最大径。 ・体部外面下半5条/cmの粗いたテハケ。 ・体部内面下半縦方向のヘラケズリ。 ・突出しない平底。 ・外底面ナデ。 	淡黄橙色	8mm大の石粒を多く含む。 石英 長石 クサリ礫	4号住居跡	体部外面下半に黒斑 体部外面上半に黒斑 搬入土器 全体に剝離
壺	9/14	体部最大径13.0 底径 4.8		<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面6条/1cm幅単位の粗いたテハケ。 ・体部外面下半に水平方向のタタキの痕跡。 ・体部内面下半タテヘラケズリ。 ・内底面粗いヘラケズリ。 ・外底面植物繊維痕。 ・体部中位に粘土紐痕。 	淡赤褐色	結晶片岩 石英 長石	4号住居跡	
細頸壺	10/14	体部最大径13.2		<ul style="list-style-type: none"> ・算盤玉形の体部。 ・体部外面上位9条/cm幅単位のタテハケ。 ・体部外面中位2mm幅単位のヨコヘラミガキ。 ・体部外面下位3mm幅単位のタテヘラミガキ。 ・体部内面上位しぼり目。 ・体部内面上半・下半とも粗いヘラケズリ。 	暗茶褐色	金雲母 角閃石	4号住居跡	讃岐系土器

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
鉢	11/14	高 6.5 器口径 11.6 底径 2.7	・口縁端部外上方に尖り気味におさめる。	・体部わずかに内彎気味に外上方に立ち上がる。 ・体部外面右上りタタキののちナデ。 ・体部内面15条/1.1cm幅単位の左上のハテ ・内底面クモの巣状ハケ。 ・わずかに突出した平底。 ・外底面ナデ。	明褐色	結晶片岩	4号住居跡 炉	
鉢	12/14	高 5.5 器口径 9.3 底径 2.2	・口縁端部方形状におさめる。	・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面右上りのタタキののちナデ。 ・体部内面タテ方向のケズリ。 ・突出しない平底。 ・外底面ナデ。	淡赤褐色	結晶片岩	4号住居跡 床直上	
鉢	13/14	高 6.4 器口径 13.1 底径 4.0	・口縁端部、方形状におさめる。 ・口縁端部強いナデ。	・体部外上方に立ち上がる。 ・体部外面3条/1.2cm幅単位の右上りタタキ。 ・体部内面上半9条/cmのナナメハケ。 ・体部内面下半タテヘラケズリ。 ・突出しない平底。 ・外底面ナデ。	淡赤褐色	石英 長石 結晶片岩	4号住居跡 床	体部中位から底 部にかけて黒斑
鉢	14/15	高 5.7 器口径 12.1 底径 2.2	・口縁部、外上方へ屈曲する。 ・口縁部内外面ヨコナデ。	・体部外上方に立ち上がる。 ・体部内外面ナデ。 ・丸底気味の底部。 ・外底面ヘラケズリ。	明赤褐色	結晶片岩	4号住居跡 Pit 1	

鉢	15/15	器高 口径 底径	6.4 12.2 3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部尖り気味におさめる。 ・口縁端部内外面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部わずかに内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面3mm幅単位のタテヘラガキ。 ・体部外面底位ユビオサエの痕跡。 ・体部内面ヘラナデ。 ・体部内底面クモの巣状ハケの痕跡。 ・わずかに突出した上げ底。 ・外底面ユビオサエ。 	明赤褐色	結晶片岩 石英 長石 砂粒	4号住居跡 土器溜り	体部上半から底 部にかけて黒斑
鉢	16/15	器高 口径 底径	7.5 17.6 3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部丸くおさめる。 ・口縁端部ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外上方へ立ち上がる。 ・体部外面上半3mm幅単位のヨコヘラミガキ。 ・体部外面下半3mm幅単位のタテヘラミガキ。 ・部分的に1cm幅単位のタテヘラケズリ。 ・体部外面部分的にタタキの痕跡。 ・体部内面ナメハケのうち4mm幅単位のタテヘラミガキ。 ・突出しない平底。 ・外底面ナデ。 	淡赤褐色	結晶片岩 石英 長石 クサリ礫	4号住居跡 Pit 3	体部上半から底 部にかけて黒斑
鉢	17/15	器高 口径 底径	7.2 19.2 4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部尖り気味におさめる。 ・口縁端部ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面ナメハケのちナデ。 ・体部内面板ナデ。 ・突出しない平底。 ・外底面ナデ。 	明赤褐色	石英 長石 クサリ礫 砂粒	4号住居跡 土器溜り	体部上半から底 部にかけて黒斑
鉢	18/15	器高 口径 底径	7.3 15.9 1.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部内上方に屈曲する。 ・口縁端部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部わずかに内彎気味に外上方へ立ち上がる。 ・体部外面5条/1.8cm幅単位のタタキのちナデ。 ・体部内面1cm幅単位のタテヘラケズリ。 	淡赤褐色	大粒砂粒 結晶片岩	4号住居跡 土器溜り	

器種	番号/種図	法量 (cm)	口 頸 部	体 底 部	色 調	胎 土	出土遺構	備 考
鉢	19/15	体部最大径 6.6 底 径 1.6	・外上方へ立ち上ると考えられる。	・平底に近い丸底。 ・外底面ナデ。 ・体部大きく屈曲し丸曲し丸みをもつ ・深い体部。 ・体部外面 4 mm幅単位のタテヘラミガキ。 ・屈曲部タテハケ。 ・体部内面 6 mm幅単位のヨコヘラケズリ。 ・突出しない平底。 ・外底面ナデ。	淡灰褐色 (外) 淡黒灰色 (内)	砂粒	4号住居跡	・屈曲部に粘土紐痕 ・搬入土器
鉢	20/15	体部最大径 7.1		・体部外上方に立ち上がり上位で内上方へ彎曲。 ・深い体部。 ・体部外面上位タテハケ。 ・体部外面中位ヨコハケ。 ・体部内面クモの巣状ハケの痕跡。 ・底部尖り気味。	明赤褐色 (外) 淡黒灰色 (内)	結晶片岩 石英 長石	4号住居跡	
鉢	21/15	器 高 6.2 口 径 9.8 体部最大径 6.3	・口縁部内彎気味に立ち上がる。 ・口縁部内面弱い沈線を施す。 ・口縁部尖り気味におさめる。 ・口縁部外面 5条/0.7cm幅のナナメハケ。 ・口縁部内面 5条/cmのナナメハケ。	・体部大きく屈曲し稜を形成する。 ・浅い体部。 ・体部外面ヨコハケ。 ・体部外面屈曲部強いヨコナデ。 ・体部内面ナデ。 ・丸底。	淡 褐 色	結晶片岩 石英 長石	4号住居跡	
甕	22/15	口 径 14.2 体部最大径 22.0	・口縁部外反。 ・口縁部上下に拡張、上端部つまみ上げ。 ・口縁部外面 2条の擬凹線。	・体部外面上半 7条/cmのナナメハケ。 ・体部外面中位 5条/1.3cm幅単位の水平タタキ。	明褐色	結晶片岩 石英 長石 クサリ礫	4号住居跡	

藪	23/15	口径 17.1 体部最大径26.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外面ヨコナデ。 ・口縁部内面5条/cmのヨコハケ。 ・口縁部外反。 ・口縁端部わずかに上下に拡張、上端部をつまみ上げる。 ・口縁端部2条の擬凹線。 ・口縁部外面ヨコナデ。 ・口縁部内面ヨコハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内面ユビオサエ。 ・球形に近い体部。 ・体部中位よりやや上部に最大径。 ・体部外面上半7条/cmの細かい幅狭の水平タタキのうち8条/cmのナナメハケ。 ・体部外面下半8条/cmのタテハケ、部分的にタタキの痕跡。 ・体部内面上半ユビオサエ。 ・体部内面下半1cm幅単位のタテヘラケズリ。 	明黄褐色 (外) 明茶褐色 (内)	結晶片岩 石英 長石 クサリ礫	4号住居跡	煤の付着
藪	24/15	口径 14.6 体部最大径22.1	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部わずかに上下に拡張、上端部をつまみ上げる。 ・口縁端部1条の擬凹線。 ・口縁部外面ヨコナデ。 ・口縁部内面ヨコハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部中位よりやや上部に最大径。 ・体部外面上半10条/1.1cm幅単位のナナメハケ。 ・体部外面下半8条/1.2cm幅単位のタテハケ。 ・体部内面上半ユビオサエ。 ・体部内面下半タテ方向のケズリの痕跡。 	淡褐色	結晶片岩	4号住居跡	
藪	25/15	口径 16.1 体部最大径23.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁上端部をつまみ上げる。 ・口縁端部1条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球形に近い体部。 ・体部中位に最大径。 ・体部外面上位5条/cmの粗いタテハケ。 ・体部外面上位から下半にかけて粗いナナメハケ。 ・体部内面上半ユビオサエ、部分的にヨコハケの痕跡 ・体部内面下半1.4cm幅単位のタテヘラケズリ。 	淡赤褐色	結晶片岩 石英 長石	4号住居跡	煤の付着

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
甕	26/15	器高27.3(復元高) 口径 15.2 体部最大径23.3 底径 4.4	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外反。 口縁端部わずかに上方につまみ上げる。 口縁端部1条の擬凹線。 口縁部内外面ナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部中位より上半に最大径。 体部外面上半10条/1.1cm幅単位のタテハケ。 体部外面下半4mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 体部内面上半ユビオサエ。 体部内面下半タテヘラケズリ。 頸部との境強いヨコナテ。 突出しない平底。 外底面ヘラミガキ。 	明茶褐色	多量の黒雲母 石英 長石 角閃石	4号住居跡	<ul style="list-style-type: none"> 搬入土器(讃岐系) 底部から体部下半にかけて黒斑
高杯	27/15	口径 26.1	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部屈曲して大きく外反。 口縁端部丸くおさめる。 口縁部外面3mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 口縁部内面3mm幅単位の入念なヨコヘラミガキ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面4mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 体部内面粗いタテハケののち3mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 口縁部との境粘土紐痕。 	淡褐色	石英 長石 砂粒	4号住居跡	搬入土器 内面に黒斑
甕	1/21	器高14.9(復元高) 口径10.2(#) 体部最大径11.3 底径 1.2	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部ゆるやかに外反。 口縁端部、方形におさめる。 口縁部タタキ出し。 口縁部外面タタキのちタテハケ。 口縁部内面8条/cmのヨコハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部中位に最大径。 体部外面上位3条/cmの右上りのタタキ。 中位3条/cmの水平方向のタタキ。 中位から下位にかけて9条/1.2cm幅単位のタテハケ。 体部内面上半ナメハケ。 下半タテヘラケズリ。 体部上位粘土紐痕。 突出しない平底。 外底面ハケ。 	淡灰褐色	砂粒 多量	5号住居跡	底部黒斑

壺	2/21	体部最大径 9.6 底径 2.1		<ul style="list-style-type: none"> ・体部中位よりやや上半に最大径 ・体部外面下半へラミラミガキの痕跡 ・体部外面下位にタテハケ ・体部内面1cm幅単位のタテヘラケズリのちヨコヘラケズリ。 ・突出しない平底。 ・外底面ハケ。 	明赤褐色	結晶片岩	5号住居跡	
鉢	3/21	器高 7.6 口径 14.2 底径 2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁部 方形状におさめる。 ・口縁部内面ヨコハケの痕跡。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面タテヘラケズリ。 ・体部外面下位右上りのタタキ。 ・体部内面上位へラミラミガキ。 ・内面中位から下位にかけてナデ。 ・わずかに突出した平底。 ・外底面木葉圧液 	乳灰色	石英 1.5mm大の 石粒 緻密	6号住居跡	搬入土器
甃	4/21	器高 13.8 口径 11.3 底径 1.7 体部最大径13.4	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部ゆるやかに外反。 ・口縁部突り気味におさめる。 ・口縁部タタキ出し。 ・口縁部内面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部中位に最大径。 ・体部外面上半3条/cm幅単位の右上りのタタキ。 ・体部外面中位水平タタキ。 ・体部外面下半タタキのうち0.5cm幅単位のタテヘラケズリ。 ・体部内面細かなタテヘラケズリ。 ・丸底に近い平底。 ・粘土紐痕 	淡灰褐色	砂粒 多量 石英	6号住居跡	搬入土器 体部外面下半黒斑
鉢	5/21	器高 6.6 口径 8.1 底部最大径 6.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部内彎気味に立ち上がる。 ・端部は突り気味におさめる。 ・内外面剥離。 	<ul style="list-style-type: none"> ・底部との境は明瞭に張り出す。 ・丸底の底部。 ・内外面剥離。 	淡褐色	砂粒多量 石英 赤色斑粒 長石	6号住居跡	
甃	6/21	口径 13.8 体部最大径23.1	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・端部わずかに上方につまみ上げ る。 ・口縁部1条の擬凹線。 ・内外面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部中位よりやや上半に最大径。 ・体部外面13条/1.5cm幅単位のタテハケ。 ・内外面口縁部境ヨコナデ。 ・体部内面上位ユビオサエ。 	暗茶褐色	黒色鉱物 金雲母 石英 長石 精選されている。	6号住居跡 炉	体部外面煤付着 搬入土器 (讃岐系)

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
鉢	7/21	器高 7.1 口径 18.0 底径	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は突り気味におさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面中位から下位にかけてタテヘラケズリ。 粘土紐痕。 体部内彎気味に立ち上がる。 体部外面右上りの3条/cm幅単位のタタキ。 体部内面 1.1cm幅単位のタテヘラミガキ。 外底面ケズリ。 	淡赤褐色	石英	6号住居跡 炉	搬入土器
鉢	8/21	器高 4.9 口径 9.0 底径 2.0	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部内彎気味に立ちあがる。 端部突り気味におさめる。 内面細かいハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面右上がりのタタキ。 体部内面タテヘラケズリの痕跡。 わずかに突出する平底。 外面、体部との境ユビオサエ。 外底面ナデ。 	淡褐色	結晶片岩片 石英	6号住居跡	
甃	9/21	口径 15.9 体部最大径24.4	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外反。 端部わずかに上下に拡張。 口縁端部2条の擬凹線。 内外面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部中位よりややに最大径。 体部外面9条/1.1cm幅単位のタテハケ。 体部内面上位ユビオサエ。 内面中位から下半にかけてタテヘラケズリ。 	淡褐色	結晶片岩	9号住居跡	
甃	10/21	器高 16.6 口径 11.2 体部最大径15.5 底径	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外反。 口縁端部方形形状におさめる。 端部1条の擬凹線。 内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 球形の体部。 体部中位に最大径。 体部外面7条/1.3cm幅単位の粗い板ナデ状のタテハケ。 体部内面上位ユビオサエ。 体部内面上位ナデ。 内面中位より下位にかけてタテヘラケズリ。 九底。 	明褐色	石英片岩 長石 赤色斑粒	1号住居跡	

鉢	11/21	器高 口径 底径	6.4 22.0	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部方形状におさめ、平坦面を形成、凹線状にくぼむ。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内彎気味に立ちあがる。 体部外面上位ヨコヘラケズリにより、稜を形成する。 外面中位より下位にかけてナナメヘラケズリ。 体部内面4mm幅単位の入念なタテハラミガキ。 やや丸みをおびた平底。 	淡赤褐色	結晶片岩 石英	1号住居跡 Aブロック	煤付着
広口壺	1/23	口径15.8(復元)		<ul style="list-style-type: none"> 頸部から口縁部にかけてゆるやかに外反。 口縁端部わずかに、つまみ上げ気味におさめる。 口縁部外面ヨコヘラミガキ。 口縁部内面8条/1.8cm幅単位のヨコハケ。 口縁端部内面7条/cmのヨコハケ。 頸部外面タテハケのうち2.5mm幅単位のナナメハラミガキ。 頸部内面ユビオサエ。 頸部に粘土紐痕。 		淡赤褐色	結晶片岩 石英 長石 赤色斑粒	土坑 8	
広口壺	2/23	口径18.3(復元)		<ul style="list-style-type: none"> 頸部直立気味に立ち上がり、口縁部外反。 口縁端部上端をつまみ上げる。 口縁端部二条の擬凹線をほどこす。 口縁下端部わずかに拡張。 口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面10条/cmのタテハケ。 頸部内外面ハケのちナデ。 		淡茶褐色	結晶片岩 石英 黑色鉱物	土坑 8	

器種	番号/押図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
二重口縁壺	3/23	口径 19.5	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部わずかに外反して立ちあがる。 ・口縁部屈曲して、わずかに外反しながらほぼ垂直に立ちあがる。 ・口縁端部丸くおさめる。 ・屈曲部外面突起気味におさめる。 ・口縁部外面6条の凹線。 ・口縁部内面ナテ。 ・頸部外面6条/cmのナナメハケ、のちヨコナテ。 ・頸部内面5条/0.6cm幅単位のヨコハケのちヨコナテ。 		淡褐色	結晶片岩 石英 黒色斑粒 赤色斑粒 微量の黒雲母 赤色鉱物	土坑 8	
二重口縁壺	4/23	口径 25.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部屈曲してゆるやかに外反。 ・口縁端部、方形状におさめる。 ・屈曲部外面突起気味におさめる。 ・口縁部内外面ヨコナテ。 ・口縁端部ヨコナテ。 		内面 淡茶褐色 外面 明茶褐色	結晶片岩 石英 微量の黒雲母	土坑 8	
二重口縁壺	5/23	口径 16.1 体部最径 20.4	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部垂直に立ち上がる。 ・口縁部屈曲してゆるやかに外反。 ・口縁端部丸くおさめる。 ・屈曲部外面やや突起気味におさめる。 ・口縁部内外面ヨコナテ。 ・頸部・口縁部との境外面3mm幅単位のタタキ。 ・頸部内外面ヨコナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球形の体部。 ・体部中位よりやや上に最大径。 ・体部外面細いタタキののち10条/cmのタタキを消す。 ・細かいタテハケ。 ・体部外面上位3mm幅のタテハラミガキ。 ・体部内面ユビオサエ。 ・粘土紐痕。 	明褐色	結晶片岩 石英 黒色斑粒 ごく微量の黒雲母	土坑 8	

表	6/23	口径 17.1 体部最大径26.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部丸くおさめる。 ・口縁部外面ナデ。 ・口縁部内面ナデのち細かいヨコヘラミガキ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部中位からやや上に最大径。 ・体部外面上位5mm幅の細かいタキののち2~3mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・体部中位から下位にかけて4~5mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・体部内面1.3cm幅単位のナナメヘラケズリ。 ・粘土紐痕。 	明灰白色	微砂粒多量	土坑 8	
二重口縁壺	7/23	口径 11.0	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部わずかに外反して立ち上がる。 ・口縁部屈曲して、外上方にひらく。 ・口縁端部丸くおさめる。 ・口縁端部内外面ヨコナデ。 ・頸部から口縁部にかけて外面、タテハケののちミガキの痕跡。 ・頸部から口縁部にかけて内面8条/0.7mmのヨココハケ。 		明灰褐色	緻密 微砂粒	土坑 8	搬入土器
器台	8/23	口径 9.2	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部突起気味におさめる。 ・受部外端面ヨコナデ。 ・受部外面下位6mm幅単位のヘラケズリ。 ・受部内面入念な放射線状のミガキ。 ・粘土紐痕。 		明赤褐色	石英 黒色鉱物	土坑 8	搬入土器

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口 頸 部	体 底 部	色 調	胎 土	出土遺構	備 考
鉢	9/23	器 高 5.6 口径11.2(復元) 底 径 3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部方形状におさめる。 ・口縁端部外面一条の沈線。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面3条/cmの水平タタキ。 ・体部内面5条/cmの粗い放射状のタテハケ。 	内面 明灰褐色 外面 灰褐色		土坑8	
甕	10/23	器 高 11.9 口 径 9.8 体部最大径11.5	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部ゆるやかに外反。 ・口縁端部。 ・口縁部外面ヨコナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丸みをおびた体部。 ・体部中位よりやや上に体部最大径。 ・体部外面3条/cmの右上りのタタキのち5条/cmの粗いタテハケ。 ・体部内面上半5条/cmの粗いナメハケ。 ・体部内面下半板ナテ。 ・丸底。 ・粘土紐痕。 	内面 淡茶褐色 外面 淡褐灰色	石英 黒色斑粒	土坑8	搬入土器 黒斑
甕	11/23	器 高 17.3 口 径 12.2 体部最大径14.4	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外上方に立ちあがる。 ・口縁端部方形状におさめる。 ・口縁部外面タタキ。 ・口縁部内面へラオサエでナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卵形の体部。 ・体部中位に最大径。 ・体部外面2条/cmの右上がりのタタキのちタテ方向の粗いミガキ。 ・体部内面へラオサエでナテ。 ・丸底。 ・外底面タテ方向のタタキ。 	赤 褐 色	赤色鉱物 黒色斑粒 石英	土坑8	煤の付着
鉢	12/23	器 高 5.6 口 径 18.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部わずかに肥厚し、上部に平坦面を形成。凹線状にくぼむ。 ・口縁部外面ヨコナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面1cm幅単位のタテへラケズリ。 ・体部内面、上位から底面にかけて1.5mm幅単位の入念なタテへラミガキ。 	内面 明赤褐色 外面 淡赤褐色	結晶片岩 石英 黒色斑粒 ごく微量の 金雲母	土坑8	

鉢	13/23	器高 8.7 口径 19.0	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部わずかに外反気味に立ち上がる。 口縁端部方形形状におさめる。 口縁部外面，体部との境にユビオサエ。 口縁部内面，ナデによりくぼむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 丸底。 体部内彎気味に立ち上がる。 体部外面中位7～9mm幅単位のヨコヘラケズリ。 体部外面下位から底面にかけて7～9mm幅単位のタテヘラケズリ。 体部内面7～9mm幅単位のタテヘラケズリ。 	明褐色	赤色鉱物 金雲母	土坑 8	搬入土器
鉢	14/23	器高 7.1 口径 22.9	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部わずかに肥厚して，左右に拡張。 上部に平坦面を形成し，一条の擬凹線をほどこす。 口縁部内外面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内彎気味に立ち上がる。 体部外面上半部分的に2～3mm幅単位のタテヘラミガキをほどこす。 体部外面下半から底面にかけて8mm幅単位のケズリ。 体部内面2～3mm幅単位のタテヘラミガキ。 丸底。 	明赤褐色	結晶片岩 石英 赤色斑粒 長石	土坑 8	
高杯	15/23	器高 12.3 口径 18.6 脚径 15.0	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部屈曲して外上方に立ち上がり，端部わずかに外反。 口縁端部突起気味におさめる。 口縁端部内外面ヨコナデ。 口縁部外面8条/0.8cm幅単位のタテハケ。 口縁部内面8条/0.8cm幅単位のヨコハケのちタテヘラミガキをほどこす。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面ナデ。 体部内面ヘラミガキ。 体部口縁部との境に段を形成する。 脚柱部外面タテハケの痕跡。 脚柱部内面タテヘラケズリ。 脚裾部外面タテハケのうち2.3mm幅単位のヘラミガキ。 脚裾部内面ハケのちヨコヘラケズリ。 脚端部丸くおさめる。 脚端部内面ヨコナデ。 	淡褐色	結晶片岩 石英 黒色斑粒	土坑 8	

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口 頸 部	体 底 部	色 調	胎 土	出土遺構	備 考
甕	1/26	底 径 2.2		<ul style="list-style-type: none"> ・四孔。 ・脚部挿入付加法 ・体部から底部にかけて3条/cmの右上りのタタキ。 ・体部内面8条/cmのハケ。 ・底部内面0.9mm幅単位のヘラケズリ。 ・突り気味の小さな平底。 	内面 明黄褐色 外面 黒灰色	石英 黒色鉱物	土 坑 2	底部黒斑 搬入土器
甕	2/26	体部最大径18.4 底 径 2.4		<ul style="list-style-type: none"> ・やや球形の体部。 ・体部中位に最大径。 ・体部外面3条/cmの右上がりのタタキのち7条/cm幅単位のタテハケ。 ・体部外面下半3条/cmのタタキのうち、2~4mm幅のタテヘラミガキ。 ・体部内面1.3cm幅単位のタテヘラケズリ。 ・丸底に近い平底。 ・粘土紐痕。 	淡 褐 色	微砂粒を多 量に含む。 赤色斑粒	土 坑 2	体部外面下半 黒斑 搬入土器
鉢	3/26	器 高 8.0 口 径 21.7	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部方形状におさめらる。 ・口縁端部上部に平坦面を形成。 ・口縁端部内外面ヨコナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面2条/cmの右上がりのタタキ。 ・体部内面2~3mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・丸底。 ・外面へラケズリ。 ・粘土紐痕。 	明赤褐色	微砂粒	土 坑 2	搬入土器

広口壺	1 / 28	口径 23.0	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部直立し、口縁部屈曲して大きく外方向へ開く。 ・口縁端部上下に拡張する。 ・口縁端部3条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・頸部外面上半6条/cmのタテハケ。 ・外面下半横方向のケズリ。 ・頸部内面にユビオサエ。 	淡灰褐色	結晶片岩 石英	土坑 1	
小型丸底鉢	2 / 28	口径 16.0	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部直立。 ・口縁部ゆるやかに外反。 ・口縁端部わずかにつまみ上げて突り気味におさめる。 ・口縁端部外面2条の擬凹線をほどこす。 ・口縁部内外面ナデ。 ・頸部外面12条 / 1 cm幅単位のタテハケのちヨコナデ。 ・頸部内面ヨコナデ。 	赤褐色	砂粒多量 赤色鉱物 黒色鉱物	土坑 1	搬入土器
広口壺	3 / 28	口径 16.0	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部直立。 ・口縁部ゆるやかに外反。 ・口縁端部わずかにつまみ上げて突り気味におさめる。 ・口縁端部外面2条の擬凹線をほどこす。 ・口縁部内外面ナデ。 ・頸部外面12条 / 1 cm幅単位のタテハケのちヨコナデ。 ・頸部内面ヨコナデ。 	淡黄褐色	石英 結晶片岩 黒色斑粒	土坑 5	
甕	4 / 28	器高 18.5 口径 13.2 体部最大径 13.3 底径 3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部突り気味におさめる。 ・口縁部外面ヨコナデ。 ・口縁部内面ユビオサエ。 	明褐色	微砂粒多量 石英 黒色斑粒	土坑 5	

器種	番号/通図	法量 (cm)	口	頸部	底部	体	底	部	色調	胎土	出土遺構	備考
甕	5/28	口径 14.3 体部最大径21.6	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部方形状におさめる。 ・口縁端部外面一条の弱い擬凹線。 ・口縁部内外面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部上位に体部最大径。 ・体部外面上位9条/cmのタテハケ。 ・体部外面中位9条/cmのタテハケ。 ・体部内面上位ユビオサエ。 ・体部内面中位ヨコヘラケズリ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内面6mm幅単位のタテヘラケズリ。 ・突出しない平底。 ・外底面ナデ。 	明褐色	石英 黒雲母 長石	土坑 5	搬入土器 (讃岐系)			
鉢	6/28	器高 7.4 口径 13.6 底径 3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部突起気味におさめる。 ・口縁端部外面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内面彎気味に立ち上がる。 ・体部外面2条/cmのタタキ。 ・体部内面8条/0.5cm幅単位の細かいタテハケのうち2mm幅単位の細かいタテヘラミガキ。 ・わずかに突出した平底。 ・底面外面2条/cmのタタキ。 ・外底面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内面彎気味に立ち上がる。 ・体部外面2条/cmのタタキ。 ・体部内面8条/0.5cm幅単位の細かいタテハケのうち2mm幅単位の細かいタテヘラミガキ。 ・わずかに突出した平底。 ・底面外面2条/cmのタタキ。 ・外底面ナデ。 	内面 淡灰褐色 外面 淡赤褐色	石英 黒色斑粒 微砂粒多量	土坑 5	搬入土器 黒斑			
小型丸底鉢	7/28	器高 7.5 口径 8.5 体部最大 6.0	<ul style="list-style-type: none"> ・丸味をおび内彎気味に立ち上がる。 ・口縁端部突起気味におさめる。 ・口縁端部内外面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内彎気味に立ち上がる。 ・体部ゆるやかに屈曲して張るが、稜を形成しない。 ・体部外面0.8cm幅単位のタテヘラケズリ。 ・体部内面ナデ。 ・丸底。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内彎気味に立ち上がる。 ・体部ゆるやかに屈曲して張るが、稜を形成しない。 ・体部外面0.8cm幅単位のタテヘラケズリ。 ・体部内面ナデ。 ・丸底。 	淡橙色	赤色斑粒 長石	土坑 3				
甕	8/28	口径 12.2	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部くの字状に外反し、口縁端部屈曲し、外上方に立ち上がる。 			淡褐灰色	石英 長石の細粒 黒色鉱物	土坑 10	搬入土器 (吉備系)			

鉢	9/28	器 高 5.7 口 14.2 底 2.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部突起気味におさめる。 ・口縁部外面5条の擬凹線をほどこす。 ・口縁部内面ヨコナデ。 ・体部との境内面ヨコヘラケズリの痕跡。 ・口縁部わずかに外反し、方形状におさめる。 ・口縁部外面一条の擬凹線。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面3条/cmの右上がりのタタキ。 ・体部内面11条/1.5cm幅単位のナメハケ。 ・突出しない平底。 ・外底面木葉圧痕。 	明赤褐色	微砂粒 石英 黑色斑粒 長石	土坑 7	搬入土器 (淡路系) 体部上半黒斑
器台	10/28	器 高 7.8 口 9.8 脚 10.5	<ul style="list-style-type: none"> ・受部横方向に開き、口縁部上方に立ち上る。 ・口縁部突起気味におさめる。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・脚部外下方に開く。 ・脚部突起気味におさめる。 ・脚部外面8条/1.1cm幅単位のタテハケ。 ・脚部内面ナデ。 ・脚部挿入付加法。 	淡褐灰色	砂粒 ごく微量の 石英 黑色斑粒 黑色鉱物	土坑 7	
高杯	11/28	器 高 12.3 口 18.8 脚 14.7	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部屈曲して外反する。 ・口縁部丸くおさめる。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・口縁部外面タタキのち10条/cmのタテハケ。 ・口縁部内面12条/cmのヨコハケのうち、1~2mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・脚柱部、わずかに内彎気味に立ち上がる。 ・脚柱部外面ヨコナデ。 ・脚柱部内面ヨコヘラケズリ。 ・脚部屈曲して外下方にひろがる。 ・脚部外面10条/cmのタテハケ。 ・脚部内面ヨコナデ。 ・脚部内面ヨコハケのちヨコヘラケズリ。 ・3孔をほどこす。 ・脚部挿入付加法。 	淡褐灰色	結晶片岩 石英 赤色斑粒	土坑 7	

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口	頸部	底部	色調	胎土	出土遺構	備考
甕	12/28	口径 12.5	口縁部外反。 口縁端部上端をわずかにつまみ上げる。 口縁端部一条の擬凹線。 口縁部内外面ナテ。		<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面13条/0.7cm幅単位の細かいタテハケ。 ・体部内面 0.8cm幅単位のタテハケズリ。 ・体部内面ユビオサエ。 	淡茶褐色	石英 赤色鉱物	土坑 7	搬入土器 (淡路系)
甕	13/28	口径 11.0 体部最大径16.3	口縁部外反。 口縁端部わずかに肥厚。 口縁端部上方に、わずかにつまみ上げる。 口縁端部一条の擬凹線。 口縁部内外面ヨココナテ。		<ul style="list-style-type: none"> ・体部中位よりやや上方に最大径 ・体部外面上位9条/0.7cm幅単位の細かいナメハケ。 ・体部外面中位9条/0.7cm幅単位の細かいタテハケ。 ・体部内面 0.8cm幅単位のタテハケズリ。 ・体部内面ユビオサエ。 	赤褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 長石	土坑 7	
広口長頸壺	1/32	口径 29.5	口縁部わずかに外方に立ち上がる。 口縁部大きく外反。 口縁端部肥厚し、上下に拡張。 口縁端部上端・下端に刻み目。 口縁端部6条/1.2cmの波状文をめぐらせる。 口縁端部内面5条/1.2cmの波状文。 口縁部から口縁部にかけて外面6条/1.4cm幅単位のタテハケ。 口縁部から口縁部にかけて内面6条/1.8cm幅単位のナメハケ。		<ul style="list-style-type: none"> ・頸部との境に貼り付け突帯、刻目をほどこす。 ・頸部との境外面ヨココナテ。 ・頸部との境内面ユビオサエ。 ・頸部との境粘土紐痕。 	明赤褐色	結晶片岩 6mm大の石英 黒色鉱物	土坑 6	
広口壺	1/37	口径 23.0	口縁部外反。 口縁端部わずかに上下に拡張する。			淡赤褐色	結晶片の大粒含む。 石英	溝 2	

黒色斑粒 長石							
黒色斑粒 長石	溝2						
結晶片岩 石英 黒色鉱物	明赤褐色						
結晶片岩 黒色斑粒 石英	溝2						
微量の黒雲母 大粒の結晶 片岩	溝2						
淡赤褐色							
明赤褐色							
淡赤褐色							
・口縁端部外面二条の擬凹線をほぼとこす。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・頸部外面タテハケのちヨコナデ。 ・頸部内面8条/1.2cm幅単位のヨコハケ。 ・頸部わずかに外反しながら立ち上がる。 ・口縁部肥厚し、大きく外反。 ・口縁端部上方につまみ上げる。 ・口縁端部外面2条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・頸部外面ナナメハケのちヨコナデ。 ・頸部内面7条/cmのヨコハケ。 ・口縁部、頸部との境に粘土紐痕。 ・頸部直立。 ・口縁部外反。 ・口縁端部肥厚して上方につまみ上げる。 ・口縁端部外面2条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・頸部外面ナナメハケのちヨコナデ。 ・頸部内面7条/cmのヨコハケ。 ・口縁部、頸部との境に粘土紐痕。 ・頸部内彎気味に立ち上がる。 ・口縁部肥厚して大きく外反。 ・口縁端部上方につまみ上げる。							
・頸部直立。 ・口縁部外反。 ・口縁端部肥厚して上方につまみ上げる。 ・口縁端部外面2条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・頸部外面ナナメハケのちヨコナデ。 ・頸部内面7条/cmのヨコハケ。 ・口縁部、頸部との境に粘土紐痕。 ・頸部内彎気味に立ち上がる。 ・口縁部肥厚して大きく外反。 ・口縁端部上方につまみ上げる。	20.8	口 径	20.8	2 / 37	広 口 壺		
・頸部直立。 ・口縁部外反。 ・口縁端部肥厚して上方につまみ上げる。 ・口縁端部外面2条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・頸部外面ナナメハケのちヨコナデ。 ・頸部内面7条/cmのヨコハケ。 ・口縁部、頸部との境に粘土紐痕。 ・頸部内彎気味に立ち上がる。 ・口縁部肥厚して大きく外反。 ・口縁端部上方につまみ上げる。	20.5	口 径	20.5	3 / 37	広 口 壺		
・頸部直立。 ・口縁部外反。 ・口縁端部肥厚して上方につまみ上げる。 ・口縁端部外面2条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・頸部外面ナナメハケのちヨコナデ。 ・頸部内面7条/cmのヨコハケ。 ・口縁部、頸部との境に粘土紐痕。 ・頸部内彎気味に立ち上がる。 ・口縁部肥厚して大きく外反。 ・口縁端部上方につまみ上げる。	13.0	口 径	13.0	4 / 37	広 口 壺		

器種	番号/扉図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
広口壺	5/37	口径 19.4	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部2条の擬凹線。 口縁部内外面ヨコナデ。 頸部内外面ヨコナデか？ 頸部直立。 口縁部大きく外反。 口縁端部上方につまみ上げる。 口縁端部2条の擬凹線。 口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケのちヨコナデ。 		淡黄褐色	結晶片岩 石英 黒色鉱物	溝2	
壺	6/37	器高(残存) 6.9 口径 8.3 体部最大径10.5	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部わずかに外上方に立ち上がる。 口縁端部突起気味におさめる。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 球形の体部。 体部上位に最大径。 体部外面ナナメハケ。 体部内面 0.7cm幅単位のヨコナデ。 	淡褐色	石英 長石	溝2	体部外面下半 煤の付着
鉢	7/37	器高 9.3 口径 10.4 体部最大径11.1	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部ゆるやかに外反する。 口縁端部突起気味におさめる。 口縁端部外面ナデ。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 球形の体部。 体部上位に最大径。 体部外面上位ナナメハケズリ。 体部外面中位から下位にかけて9条/0.8cm幅単位のナナメハケ。 体部内面ナナメハケズリ。 丸底。 外底面9条/0.8cm幅単位のハケ。 	明赤褐色	微量の黒雲母 長石 結晶片岩	溝2	外底面煤の付着
細頸壺	8/37	口径	<ul style="list-style-type: none"> 口頸部ゆるやかに上方にひろがる。 口縁端部突起気味におさめる。 口縁端部外面1条の擬凹線。 口縁部内外面ヨコナデ。 		淡茶褐色	結晶片岩 長石 石英 黒色鉱物	溝2	頸部中位から口 縁にかけて黒斑

藁	9/37	口径 12.8	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部外面タテハケののち2mm幅単位のタテハケ。 ・頸部内面下半ヨコヘラケズリ。 ・頸部に粘土紐痕。 ・口縁部外反。 ・口縁下端はやや丸みをもち上端は、わずかに上方に上りまみ上げる。 ・口縁部一条の弱い擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面11条/cmのタテハケ。 ・体部内面ユビオサエののちナデ。 	淡赤褐色	ごく微量の黒雲母結晶片岩石英赤色鉱物	溝2	
藁	10/37	口径 9.7 体部最大径13.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁部わずかに上方につまみ上げる。 ・口縁部一条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球形に近い体部。 ・体部中位に最大径。 ・体部外面10条/cmのタテハケ。 ・体部内面0.9cm幅単位のヨコヘラケズリ。 ・体部に粘土紐痕。 	赤褐色	結晶片岩黒色斑粒石英	溝2	
藁	11/37	口径 13.5	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部鋭く屈曲外反。 ・口縁部はつまみ上げる。 ・口縁部一条の擬凹線をほどくす。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面5条/cmのクシ目のような整美な右上がりの細かいタタキ。 ・体部内面ヨコヘラケズリ。 	淡灰褐色	角閃石黒雲母石英赤色斑粒	溝2	庄内藁
藁	12/37	口径 14.7	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部鋭く屈曲外反。 ・口縁部はつまみ上げる。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面5条/cmの細かいタタキ。 ・体部内面ヨコヘラケズリ。 	淡灰褐色	角閃石黒雲母石英	流路(大溝)	庄内藁
ミニチュア土器(鉢)	13/37	高さ 5.5 口径 7.1 底径 3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部ゆるやかに上方にひろがる。 ・口縁部突起気味におさめる。 ・口縁部内外面ナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面ナデ。 ・体部内面タテヘラケズリ。 ・突出しない平底。 ・底部外面ユビオサエ。 ・外底面ナデ。 	淡赤褐色	緻密石英	溝2	搬入土器(?) 体部外面黒斑

器種	番号/細図	法量 (cm)	口 頸 部	体 底 部	色 調	胎 土	出土遺構	備 考
鉢	14/37	器高 5.7 口径 9.3	・口縁端部突起形状におさめる。 ・口縁部外内面ナデ。	・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面下半タテヘラケズリ。 ・わずかに突出する丸底。	淡褐色	結晶片岩 砂粒	溝2	
鉢	15/37	器高 7.5 口径 11.2 底径 0.8	・口縁端部方形形状におさめる。 ・口縁端部わずかに拡張する。 ・口縁部内外面ヨコナデ。	・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面上位ヘラミガキの痕跡 ・体部外面中位から底部にかけて タタキのちハケのち板ナデ。 ・体部内面板ナデ。 ・平底。	外面 暗灰褐色 内面 黒灰色	石英 微砂粒を多 量に含む。	溝2	体部下半黒斑
鉢	16/37	器高 5.6 口径 15.7	・口縁端部突起形状におさめる。 ・口縁部内外面ナデ。	・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面0.6~0.8cm幅のナナメ ヘラケズリ。 ・体部内面13条/cmの細かいハケ ののち2mm幅単位のナナメヘラ ミガキ。 ・丸底。 ・外底面ヘラケズリ。	明赤褐色	結晶片岩 石英 長石 黒色鉱物	溝2	
鉢	17/37	器高 6.5 口径 18.3	・口縁端部方形形状におさめる。 ・口縁部内外面ナデ。	・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面ヘラケズリ。 ・体部内面ヘラミガキか？ ・体部内面ていねいなナデ。 ・丸底。	赤褐色	結晶片岩 黒色斑粒 石英	溝2	
鉢	18/37	器高 6.6 口径 20.2	・口縁端部方形形状におさめ、わず かにつまみ上げる。 ・口縁端部外面一条の弱い擬凹線。 ・口縁部内外面ナデ。	・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面上半タタキの痕跡。 ・体部外面下半ヨコヘラケズリ。 ・体部内面2mm幅単位のタテヘラ ミガキ。 ・丸底。	明赤褐色	結晶片岩 黒色斑粒 石英	溝2	

鉢	19/37	器高 7.2 口径 26.0	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部、わずかに肥厚して突起気味におさめる。 口縁端部内外面ヨコナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面11条/cmの細かいハケ。 ・体部内面上半ユビオサエ。 ・丸底。 	赤褐色	結晶片岩 石英	溝2	
壺	1/45	口径 16.4	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部大きく外反。 口縁端部下方に拡張する。 口縁端部一条の弱い擬凹線をめぐらし、円形浮文をほどこす。 口縁部外面2mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 口縁部内面2mm幅単位のタテヘラミガキ。 		茶褐色	石英 長石 結晶片岩	土坑1	口縁部内面黒斑
壺	2/45		<ul style="list-style-type: none"> 口縁部わずかに内傾して立ち上がる。 頸部外面2mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 頸部内面1cm幅単位のヨコヘラケズリののちタテヘラケズリ。 頸部内面ヘラケズリののちナテ。 粘土紐痕。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面2mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・体部内面ヘラケズリののちナテ。 ・体部内面ユビオサエ。 	淡褐色	石英 長石 黒色斑粒 赤色斑粒	土坑1	
甕	3/45	器高(復元)17.2 口径(復元)10.8 体部最大径(復元)12.1 底径(復元)3.3	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外反。 口縁端部突起気味におさめる。 口縁部内外面ヨコナテ。 体部との境外面2mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 体部との境内面ユビオサエ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・胴長の体部。 ・体部中位よりやや上に体部最大径。 ・体部外面上位4条/cmの右上下ののちナテ。 ・体部外面中位2条/cmの水平タテヘラミガキ。 ・体部外面下位2条/cmの右上下ののちナテ。 	外面 明黄褐色 内面 淡灰褐色	結晶片岩 石英 赤色斑粒 黒色鈺物	土坑1	

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口 頸 部	体 底 部	色 調	胎 土	出土遺構	備 考
甕	4/45	口 径 14.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部方形状におさめ、下端をわずかにつまみ出す。 ・口縁端部外面ナデ。 ・口縁部外面ナデ。 ・口縁部内面9条/1cm幅単位のヨコハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内面上半8mm幅単位のヨコヘラケズリ。 ・体部内面下半8mm幅単位のタテヘラケズリ。 ・あげ底。 ・外底面ナデ。 	赤褐色	黒雲母 石英 黑色鉱物	土坑1	口縁部外面、煤 付着
甕	5/45	口 径 13.4	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部わずかに肥厚して方形状におさめる。 ・口縁端部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面10条/1.7cm幅単位のタテハケ。 ・体部内面タテヘラケズリ。 	明赤褐色	石英 結晶片岩 黑色鉱物	土坑1	体部外面、煤付 着
鉢	6/45	口 径 12.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部突起気味におさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内脚気味に立ち上がる。 	明黄褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 黒雲母	土坑1	体部外面黒斑
甕 底部	7/45	底径(復元) 5.8		<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面細かい水平方向のタタキのち、14条/cmの細かいタテハケ。 ・体部内面タテヘラケズリ。 ・平底。 ・外底面ナデ。 	暗赤褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 黒雲母	土坑1	体部外面煤付着

甕	8/45	口径	19.5	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部方形形状におさめ、下方につまみ出す。 ・口縁端部一条の縦凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面3条/cm幅単位のタタキのち8条/cmのタタテハケ。 ・体部・口縁部境ヨコヘラケズリ。 ・体部ナナメヘラケズリ。 	淡茶褐色	石英 黒色斑粒 赤色斑粒 微量の黒雲母	土坑2	口縁部外面煤付着
甕	9/45	口径	17.6	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部方形形状におさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面ハケの痕跡。 	赤褐色	石英 結晶片岩 黒色斑粒	1号住居跡	
壺底部	10/45	底径	4.6		<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面3mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・体部内面タテヘラケズリ。 ・平底。 ・外底面ナデ。 	淡褐色	石英 結晶片岩 黒色斑粒	土坑3	外底面黒斑
広口壺	11/45	口径	15.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外方向に開く。 ・口縁端部方形形状におさめ上端をわずかにつまみあげる。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 		明黄褐色	石英 結晶片岩 黒色斑粒 赤色斑粒 微量の黒雲母	土坑3	
壺底部	12/45	底径	3.0		<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面2mm幅単位のタテヘラミガキ。 ・体部内面クモの巣状の細かいハケ。 ・わずかに突出する平底。 ・体部・底部との境ハケの痕跡。 ・外底面ナデ。 	外面 赤褐色 内面 灰黒色	石英 長石 赤色斑粒 ごく微量の黒雲母	土坑3	
甕	13/45	口径	13.3	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反し、口縁端部屈曲して上方に開き、受口状を呈する。 		淡灰橙色	石英粒を多量に含む。 黒色斑粒	溝2	

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
			<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部形状におさめる。 口縁端部ヨコナデ。 屈曲部外面わずかにくぼむ。 口縁部内外面ヨコナデ。 			砂粒を多量に含む		
甕	14/45	口径 13.6	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外反。 口縁端部上下に大きく拡張する。 口縁端部二条の縦凹線。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面4条/cmの水平方向のタタキ。 体部内面ヨコヘラケズリ。 	淡赤褐色	石英結晶片岩 微量の黒雲母	溝2	
甕	15/45	口径 15.2	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外反。 口縁端部形状におさめ、下端を拡張する。 口縁端部外面ヨコナデ。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面3条/cmの水平タタキのうち、右上がりのタタキ。 体部外面タタキののち12条/cmのナナメハケののちタテハケ。 体部内面ヨコヘラケズリ。 粘土紐痕。 	暗茶褐色	石英結晶片岩	溝2	
甕	16/45	口径 17.6	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外反。 口縁端部丸くおさめる。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面20条/1.4cm幅単位の細かいタテハケ。 体部内面ヨコヘラケズリ。 粘土紐痕。 	明茶褐色	石英結晶片岩 微量の黒雲母	溝2	
高杯	17/45	口径 24.6	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部屈曲して外方向にひらく。 口縁端部丸くおさめる。 口縁部外面1mm幅の暗文状のヘラミガキ。 口縁部内面2mm幅のタテヘラミガキ。 屈曲部内面ヨコヘラミガキ。 		淡灰褐色	石英結晶片岩 赤色斑粒 ごく微量の黒雲母	溝2	
壺底部	18/45	底径 5.4		<ul style="list-style-type: none"> 平底。 外底部ナデ。 	外面赤褐色 内面暗灰色	石英結晶片岩 黒色斑粒	溝2	

壺底部	19/45	底径 6.6		<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面15条/cmの細かいタテハケ。 ・体部内面ケズリの痕跡。 ・わずかに突出する平底。 	外面 褐色 内面 明褐色	1 cm大の砂 岩 石英 赤色斑粒	溝2	
壺底部	20/45	底径 5.0		<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面8条/cmのタテハケ。 ・体部内面タテヘラケズリ ・平底。 	明褐色	石英 結晶片岩 長石 ごく微量の 黒雲母	溝2	
高杯	21/45			<ul style="list-style-type: none"> ・脚柱部内傾し、受け部は外反する。 ・脚柱部外面ヘラミガキの痕跡。 ・脚柱部内面ヘラケズリの痕跡。 ・受部内面ヘラミガキか？ ・脚部挿入付加法。 		石英 結晶片岩 長石 ごく微量の 黒雲母	溝2	
壺	1/48	口径 16.2	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部直立し、口縁部、水平に外反。 ・口縁端部下方に肥厚して丸くおさめる。 ・口縁端部外面ヘラ状丘痕をめぐらす。 ・口縁部内外面ヨコナテ。 ・頸部外面タテハケ。 ・頸部内面ナテ。 	淡赤褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 ごく微量の 黒雲母	溝1 掘り方上面		
壺	2/48	口径 15.4	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部方形形状におさめ、わずかに上下に拡張する。 ・口縁端部外面一条の弱い擬凹線。 ・口縁部外面2mm幅単位の入念な 	淡褐色	5 mm大の砂 岩 石英 黒色斑粒 ごく微量の	溝1		

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
壺	3/48	口径 14.0	<ul style="list-style-type: none"> 口テヘラミガキ。 口縁部内面ヨコナテ。 口縁部外反。 口縁端部方形状におさめ、下端をわずかにつまみ出す。 口縁端部外面一条の弱い擬凹線。 口縁部内外面ナテ。 		淡茶褐色	黒雲母 石英 結晶片岩 長石	溝1	
壺	4/48	口径 15.1	<ul style="list-style-type: none"> 口頸部ゆるやかに外反。 口縁端部方形状におさめ、わずかに上下に拡張する。 口縁端部外面一条の擬凹線。 口縁部内外面ヨコナテ。 口縁部から頸部にかけて外面テヘラミガキ。 口縁部・頸部の境ユビオサエ。 粘土紐痕。 		淡赤褐色	石英 長石 結晶片岩 ごく微量の黒	溝1	
壺	5/48	口径 11.8	<ul style="list-style-type: none"> 頸部直立気味に立ち上がり、口縁部ゆるやかに外反する。 口縁端部わずかに上下に拡張する。 口縁端部外面一条の擬凹線。 口縁部内外面ヨコナテ。 頸部内外面ナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面ヨコナテ。 体部内面テヘラケズリ。 頸部との境に粘土紐痕。 	暗灰褐色	石英 結晶片岩 黑色鈷物	溝1	
壺	6/48	口径 10.0	<ul style="list-style-type: none"> 頸部ゆるやかに外反。 口縁部大きく外反。 口縁端部上端は大きく拡張し、下端はわずかに拡張する。 口縁端部外面一条の擬凹線。 		明褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 黑色鈷物	溝1	

壺	7/48	口径 12.2	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・口縁部・頸部との境外面ユビオサエ。 ・頸部外面5条/cmのタテハケ。 ・頸部内面6条/cmのヨコハケ。 ・口縁部外反。 ・口縁部突り気味におさめる。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球形の体部。 ・体部外面3条/cmの右上がりのタタキのち7条/cmのタテハケ。 ・体部内面ナデ。 ・口縁部との境に粘土紐痕。 	淡褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒	溝1	
甗	8/48	口径 14.4	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁部方形状におさめる。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・体部との境4条/cmの右上がりのタタキ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内面タテヘラケズリ。 	淡茶褐色	石英 長石 黒雲母	溝1	
甗	9/48	口径 15.6	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁部を肥厚する。 ・口縁部下端をわずかに拡張する。 ・口縁部外面一条の擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面タテハケ。 ・体部内面ナメヘラケズリ。 	赤褐色	石英 結晶片岩 長石 黒色鉱物 赤色斑粒	溝1 下層	口縁部外面煤付 着
甗	10/48	口径 15.6	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁部丸くおさめる。 ・口縁部外面ヨコハケ。 ・口縁部内面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面ヨコナデ。 ・体部内面タテヘラケズリのちヨコヘラケズリ。 	褐色	石英 結晶片岩 ごく微量の 黒雲母	溝1	
甗	11/48	口径 16.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁部上端をわずかにつまみ上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面ハケの痕跡。 ・口縁部との境内面ユビオサエ。 	淡茶褐色	石英 ごく微量の 黒雲母	溝1	

器種	番号/種図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
甕	12/48	口径 18.2	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部ヨコナデ。 口縁部内外面ヨコナデ。 口縁部外反。 口縁端部方形状におさめ、上下にわずかに拡張する。 口縁端部一条の弱い擬凹線。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面やや右上がりタテハケのち7条/cmのタテハケ。 口縁部との境内面ユビオサエ。 体部内面1 cm幅単位のタテヘラケズリ。 	赤褐色	石英 黒色鈹物 ごく微量の 黒雲母	溝1	体部外面、煤付着
壺底部	13/48	口径 4.2		<ul style="list-style-type: none"> 体部内彎気味に立ち上がる。 体部外面細かいタテハケのち細かいタテヘラミミガキ。 突出する平底。 底部内面くぼむ。 底部内面放射状にへラ圧痕をとどめる。 外底面ナデ。 	淡赤褐色	石英 長石 ごく微量の 黒雲母	溝1	
壺底部	14/48	口径 4.6		<ul style="list-style-type: none"> 体部わずかに内彎気味に立ち上がる。 体部外面6条/cmのタテハケ。 体部内面2 mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 突出する平底。 底部ドーナツ状。 	赤褐色	石英 結晶片岩 長石 微量の黒雲母	溝1	体部外面黒斑
壺底部	15/48	口径 4.5		<ul style="list-style-type: none"> 体部わずかに内傾して立ち上がる。 体部外面2 mm幅単位のタテヘラミミガキ。 体部内面タテヘラケズリのちナデ。 	赤褐色	石英 結晶片岩 ごく微量の 黒雲母	溝1	

甕 底部	16/48	底 径	4.3		<ul style="list-style-type: none"> ・突出する丸底。 ・体部わずかに内彎気味に立ち上る。 ・体部外面3条/cmのタタキのちタテハケ。 ・体部内面タテヘラケズリ。 ・平底。 ・底部外面ユビオサエ。 ・外底面ナデ。 	褐色	緻密 石英 長石	溝1	体部外面黒斑 煤付着
壺 底部	17/48	底 径	5.0		<ul style="list-style-type: none"> ・体部わずかに内彎気味に立ち上る。 ・体部外面8条/cmのタテハケ。 ・体部内面入念な不定方向のヘラケズリ。 ・わずかに突出する平底。 ・底部外面タタキの痕跡。 ・底部外面、外底面ナデ。 	淡灰褐色	石英 ごく微量の 黒雲母	溝1	体部外面黒斑
鉢	18/48	高 器 口 底 径	5.8 9.4 3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部突起気味におさめる。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上る。 ・体部外面3条/cmの右上がりのタタキ。 ・体部内面ナデ。 ・底部ドーナツ状 ・底部外面ユビオサエ。 ・底部粘土紐痕。 	明褐色	石英 長石 赤色斑粒 結晶片岩	溝1 掘り方上面	体部外面底部に かけて黒斑
鉢	19/48	高 器 口 底 径	5.3 7.6 3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部突起気味におさめる。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎して立ち上る。 ・体部内外面ナデ。 ・平底。 	明黄褐色	石英 黒色鉱物 ごく微量の 黒雲母	溝1	

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
鉢	20/48	高 器口底 径径	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外反する。 口縁端部方形状におさめらる。 口縁部内外面ヨコナデ。 体部との境粘土紐痕 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内彎気味に立ち上がる。 体部外面ナデ。 体部内面上位2mm幅単位の入念なナナメヘラミミガキ。 体部内面中位2mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 	淡赤褐色	緻密 石英 長石 結晶片岩 ごく微量の 黒雲母	溝1 掘り方上面	
鉢	21/48	口径	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部ゆるやかに外反。 口縁端部突り気味におさめらる。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内彎気味に立ち上がる。 体部外面ナデ。 体部内面上位2mm幅単位の入念なナナメヘラミミガキ。 体部内面中位2mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 	明褐色	石英 結晶片岩 ごく微量の 黒雲母	溝1	
鉢	22/48	口径	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部ゆるやかに外反。 口縁端部方形状におさめらる。 口縁端部外面一条の弱い擬凹線。 口縁部外面ヨコナデ。 口縁部内面8条/cmのヨコハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内彎気味に立ち上がる。 体部外面タテヘラミミガキののちナデ。 体部内面2~3mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 	淡褐色	石英 結晶片岩 黒色鉱物 ごく微量の 黒雲母	溝1	口縁部内面黒斑
高杯	23/48	口径	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部屈曲して外上方にひらく。 口縁端部方形状におさめらる。 口縁部外面2mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 口縁部内面3mm幅単位の入念なヨコヘラミミガキ。 		明褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 ごく微量の 黒雲母	溝1	
高杯脚部	24/48			<ul style="list-style-type: none"> 脚柱部直線気味にのびる。 脚柱部外面タテヘラミミガキ。 脚柱部内面ヨコヘラミミガキ。 脚部ゆるやかに屈曲し、外下方にひろがる。 	淡茶褐色	石英 結晶片岩 黒色鉱物 赤色斑粒 ごく微量の 黒雲母	溝1	

高杯脚部	25/48		<ul style="list-style-type: none"> 脚部外面10条/cmのタテハケ。 脚部内面8条/cmのヨコハケ。 脚部挿入付加法。 	赤褐色	石英 長石 赤色斑粒 ごく微量の 黒雲母	溝1		
高杯脚部	26/48	脚 径 16.9	<ul style="list-style-type: none"> 脚部ゆるやかに外下方にひろがる。 脚部外面タテヘラミガキ。 脚部内面上位タテヘラケズリ。 脚部内面下半ヨコヘラケズリ。 四孔をほどこす。 	明黄褐色	石英 赤色斑粒 ごく微量の 黒雲母	溝1		
高杯脚部	27/48		<ul style="list-style-type: none"> 脚柱部わずかに内傾して立ち上る。 脚部ゆるやかに外下方にひろがる。 脚部外面タテハケ。 脚部内面ヘラケズリか？ 脚部挿入付加法。 	淡茶褐色	石英 結晶片岩 ごく微量の 黒雲母	溝1 下層		
細頸壺	1/50	器 高 26.4 口 径 5.5 体部最大径17.4 底 径 4.0	<ul style="list-style-type: none"> 頸部直立。 口縁部ゆるやかにひろがる。 口縁端部とがり気味におさめる。 口縁部内外面ヨコナテ。 頸部外面タテハケのち2mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 頸部内面ヨコヘラケズリ。 頸部粘土紐痕。 	淡赤褐色	石英 結晶片岩 微量の黒雲 母 黒色斑粒	包含層	体部外面中位黒斑	

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
壺底部	2/50	底径 4.2		<p>のタテハケ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体部内面下位6条/0.5cm幅単位のナナメハケ。 ・突出する平底。 ・底部内外面ハケ。 ・外底面へラミガキ。 <p>・体部内彎気味に立ち上がる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体部外面2~3mm幅単位の入念なタテへラミガキ。 ・体部内面2mm幅単位の入念なタテへラミガキ。 ・わずかに突出するあげ底。 ・外底面ナデ。 	明褐色	石英 結晶片岩 赤色珪粒 長石 ごく微量の 黒雲母	包含層	
甕	3/50	器高 15.7 口径 12.4 体部最大径11.4 底径 2.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外反。 ・口縁端部方形状におさめる。 ・口縁部外面ヨコナデ。 ・口縁部内面10条/cmのヨコハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長胴形の体部。 ・体部中位よりやや上に体部最大径。 ・体部外面上位10条/cmのヨコハケ。 ・体部外面中位10条/cmのナナメハケ。 ・体部外面下位10条/cmのタテハケ。 ・体部内面ナデ。 ・あげ底。 ・外底面ナデ。 	赤褐色	石英 結晶片岩 長石 ごく微量の 黒雲母	包含層	体部中位黒斑
甕	4/50	口径 15.2	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部肥厚して直立気味に立ち上がり、端部外方にひらく。 ・口縁端部方形状におさめ、上下をわずかに拡張する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面12条/1cm幅単位のタテハケ。 ・体部内面ヨコへラケズリ。 	外面 黒灰色 内面 茶褐色	石英 ごく微量の 黒雲母	包含層	体部外面煤付着

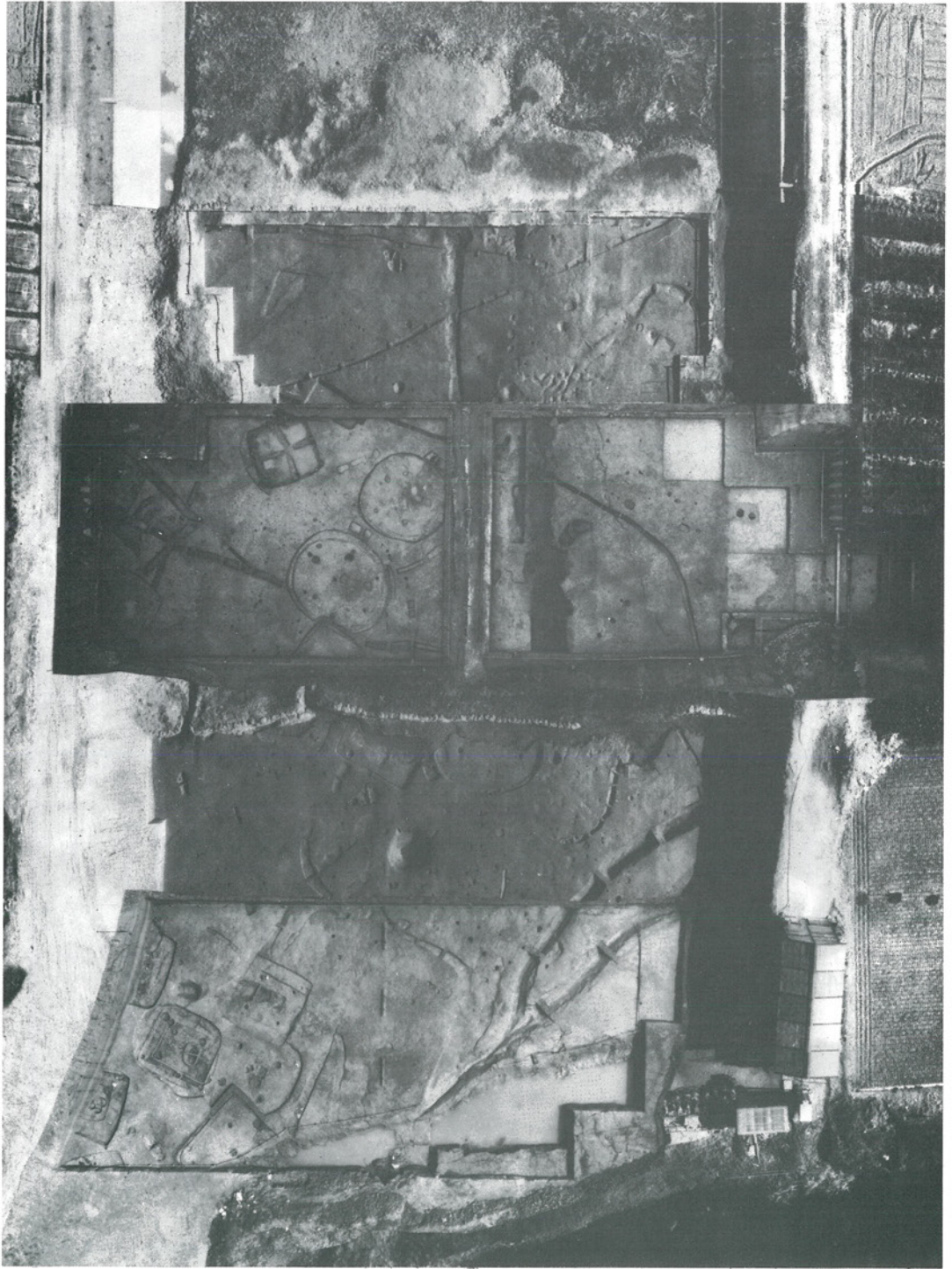
甕	5/50	口径 18.1	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部一条の弱い擬凹線。 ・口縁部内外面ヨコナデ。 ・口縁部肥厚して外方向にひらく。 ・口縁端部下端をわずかに拡張する。 ・口縁端部一条の弱い擬凹線。 ・口縁部外面ヨコナデ。 ・口縁部内面5条/cmのヨコハケ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外面タタキのち5条/cmのタテハケ。 ・口縁部との境付近ヨコヘラケズリ。 ・体部タテヘラケズリ。 	明茶褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 長石 ごく微量の 黒雲母	包含層	
鉢	6/50	器高 6.5 口径 10.6 底径 3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部突出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面5条/0.6cm幅単位のタテハケ。 ・突出する平底。 ・底部外面ハケ。 	明茶褐色	石英 結晶片岩 長石	包含層	
鉢	7/50	器高 5.6 口径 12.6 底径 5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部突起気味におさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部わずかに内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面剥離のため調整不明。 ・体部内面上位13条/cmのヨコハケ。 ・体部内面下半剥離のため調整不明。 ・突出する平底。 	明茶褐色	石英 長石 結晶片岩 微量の黒雲母	包含層	
鉢	8/50	器高 5.5 口径 8.6 底径 2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部形状におさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面ナデ。 ・体部内面中位から口縁部にかけて10条/0.8cm幅単位のヨコハケ。 ・体部内面下位ナデ。 ・わずかに突出する平底。 ・底部外面ユビオサエ。 ・外底面ナデ。 	淡黄褐色	石英 結晶片岩 ごく微量の 黒雲母	包含層	体部外面黒斑

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
鉢	9/50	口径 9.9	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部わずかに外反する。 口縁端部突らせる。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎 ・体部外面 2 mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・体部内面ヘラケズリののちナデ。 ・体部内面下位から底部にかけて入念なヘラミガキ。 	淡茶褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 黒色鉱物 ごく微量の 黒雲母	包含層	
鉢	10/50	器高 10.6 口径 16.9 底径 4.8	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部わずかに外反する。 口縁端部突らせる。 口縁部内外面ヨコナデ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面上位 9 条/cmのヨコハケ。 ・体部外面中位やや右上がりのタキののち 9 条/cmのナナメハケ。 ・体部外面下位やや右上がりのタキののち 9 条/cmのタテハケ。 ・体部内面ヨコハケののち 2 mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・突出する平底。 ・底部外面タキののちハケ。 ・底部内面ナデ。 ・外面ヘラミガキ。 ・体部上位に粘土紐痕。 	淡茶褐色	石英 結晶片岩 赤色斑粒 黒色斑粒	包含層	
鉢	11/50	口径 28.5	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部わずかに肥厚し、方形状におさめる。 口縁端部外面平坦面を形成。 口縁部内外面。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面ハケの痕跡。 ・体部内面ナナメハケののち 4 mm幅単位のタテヘラミガキ。 	淡茶褐色	石英 長石 結晶片岩 微量の黒雲母	包含層	

高杯受部	12/50	口径 15.8	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁端部突起気味におさめ。 ・口縁部内外面ヨコナテ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内彎気味に立ち上がる。 ・体部外面 2 mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 ・体部内面 2 mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 	明茶褐色	石英 長石 結晶片岩 黒色斑粒 微量の黒雲母	包含層	口縁部外面黒斑
高杯受部	13/50	口径 25.2	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部屈曲して外反する。 ・口縁端部丸くおさめ。 ・口縁部外面ヨコナテ。 ・口縁部内面 2 mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 ・体部との境に稜を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部外上方に立ち上がる。 ・体部外面口縁部との境ヨコヘラケズリ。 ・体部外面タテヘラケズリ。 ・体部内面 2 mm幅単位の入念なタテヘラミミガキ。 	淡茶褐色	石英 結晶片岩 長石 赤色斑粒 微量の黒雲母	包含層	
高杯脚部	14/50	脚径 12.2		<ul style="list-style-type: none"> ・脚柱部わずかに内傾して立ち上がる。 ・脚柱部外面細かなタテヘラミミガキ。 ・脚柱部内面ナテ。 ・脚柱部ゆるやかに外下方にひろがる。 ・脚端部方形状におさめ。 ・脚端部外面一条の弱い擬凹線。 ・脚柱部外面細かなタテヘラミミガキ。 ・脚柱部内面ヨコナテ。 ・四孔をほどこす。 	淡赤褐色	石英 長石 結晶片岩 黒色鉱物 赤色斑粒 微量の黒雲母	包含層	
高杯脚部	15/50	脚径 10.0		<ul style="list-style-type: none"> ・体部内面ヘラミミガキ。 ・脚柱部わずかに内傾して立ち上がる。 	茶褐色	石英 長石 結晶片岩	包含層	

器種	番号/挿図	法量 (cm)	口頸部	体底部	色調	胎土	出土遺構	備考
				<ul style="list-style-type: none"> ・脚柱部外面 2mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・脚柱部内面タテヘラケズリ。 ・脚裾部ゆるやかに外下方にひろがる。 ・脚端部方形状におさめる。 ・脚端部外面一条の弱い擬凹線をほどこす。 ・脚裾部外面 2mm幅単位の入念なタテヘラミガキ。 ・脚裾部内面ヨコヘラケズリ。 ・脚端部内面ナテ。 ・脚部円板充填法。 		<p>黒色鈹物 赤色斑粒</p>		

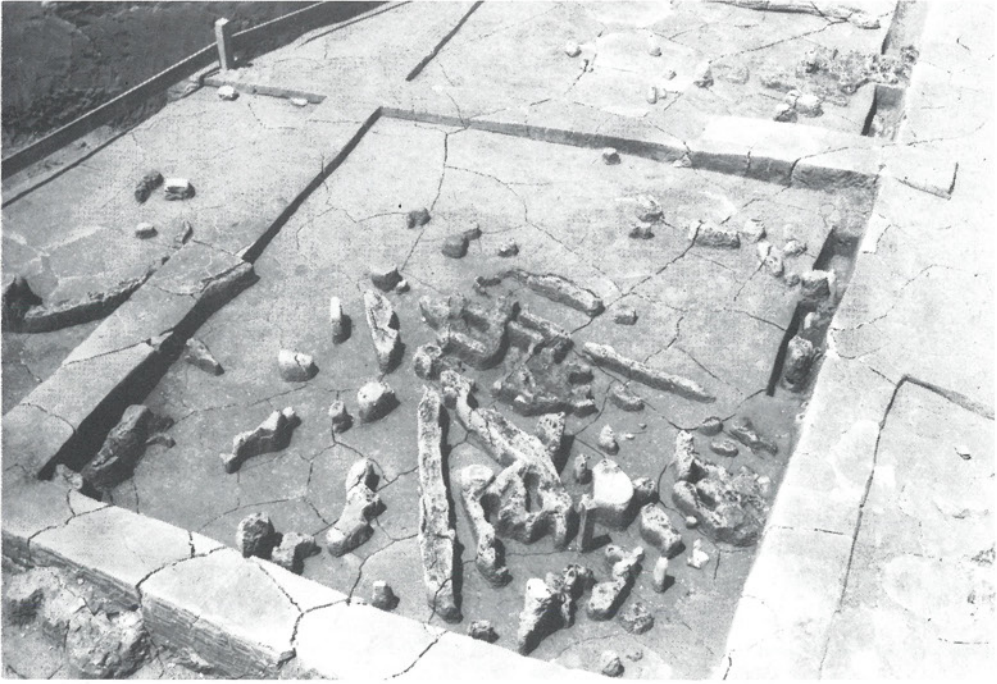
圖 版



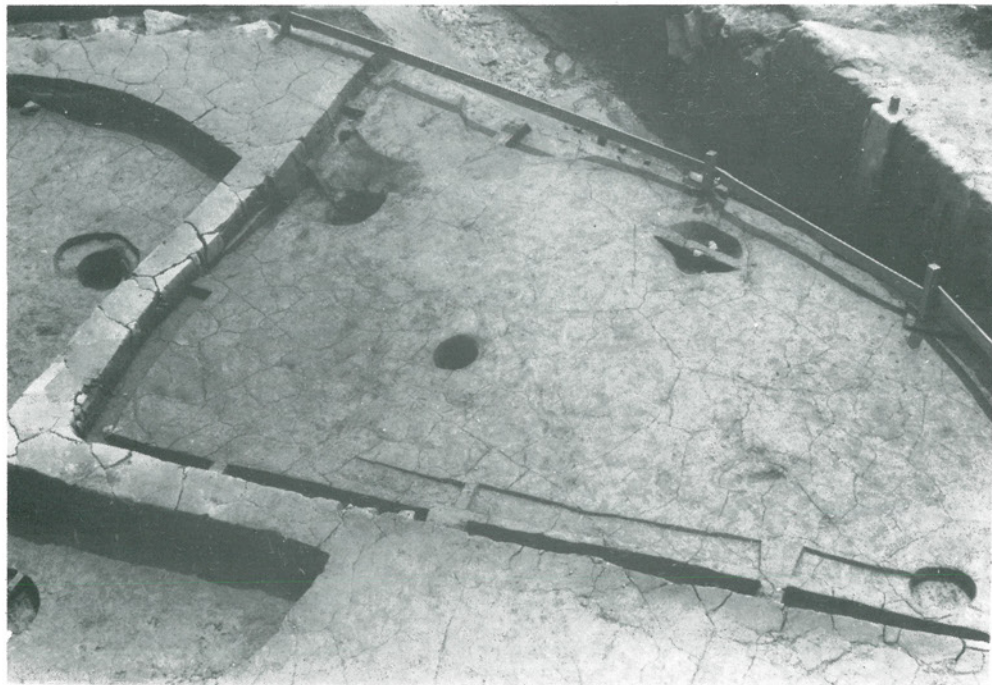
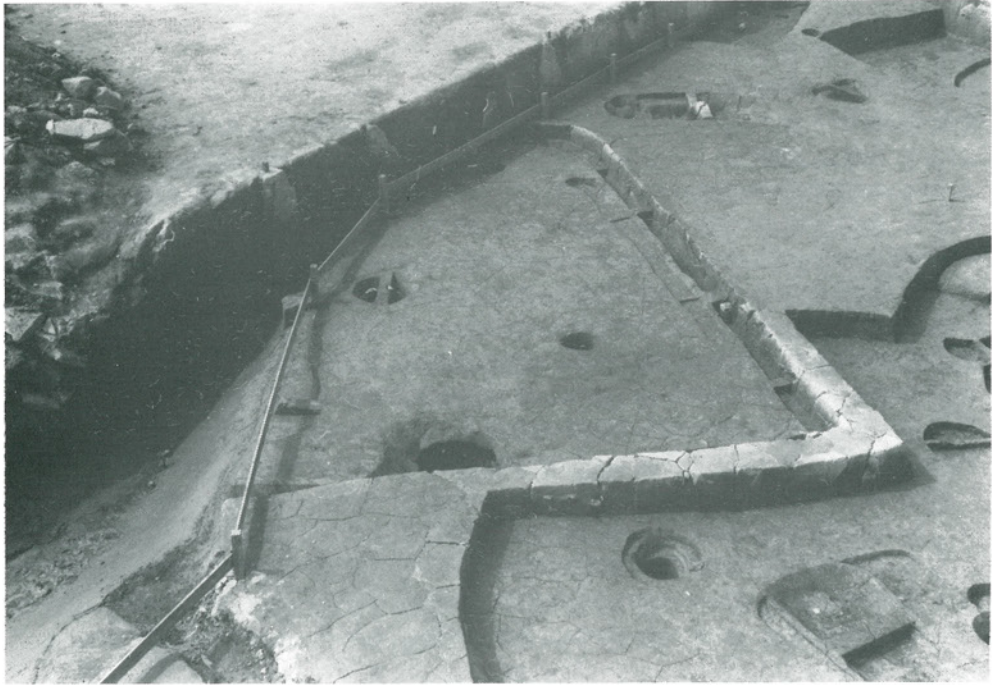
第I～III次調査区航空写真（モザイク）



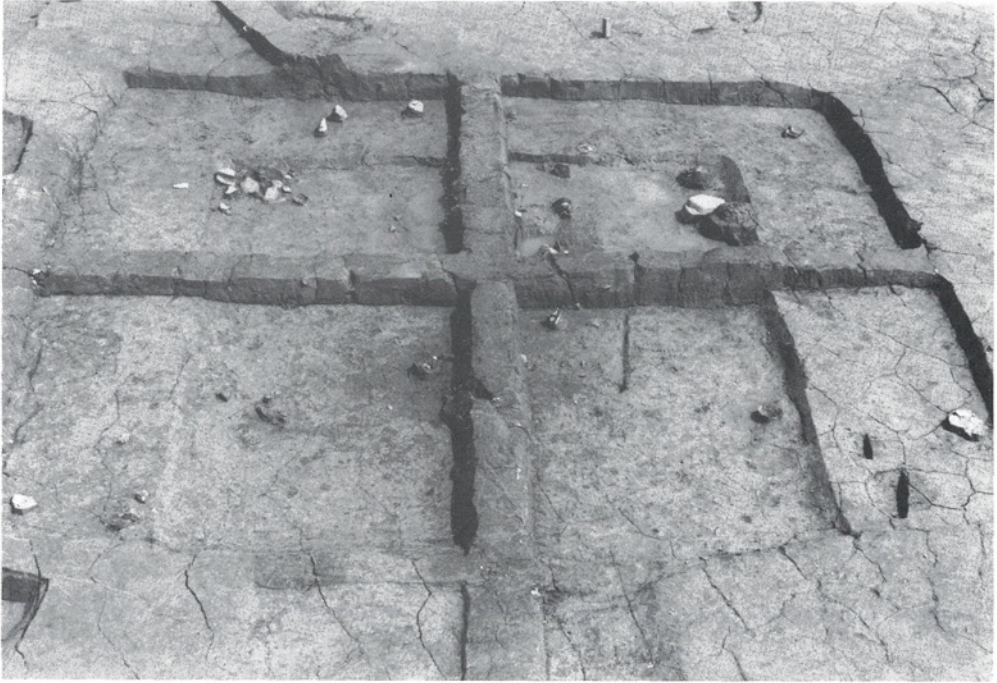
第Ⅲ次調査区航空写真



住居跡 S B301 炭化材検出状況 (上：南より・下：東より)



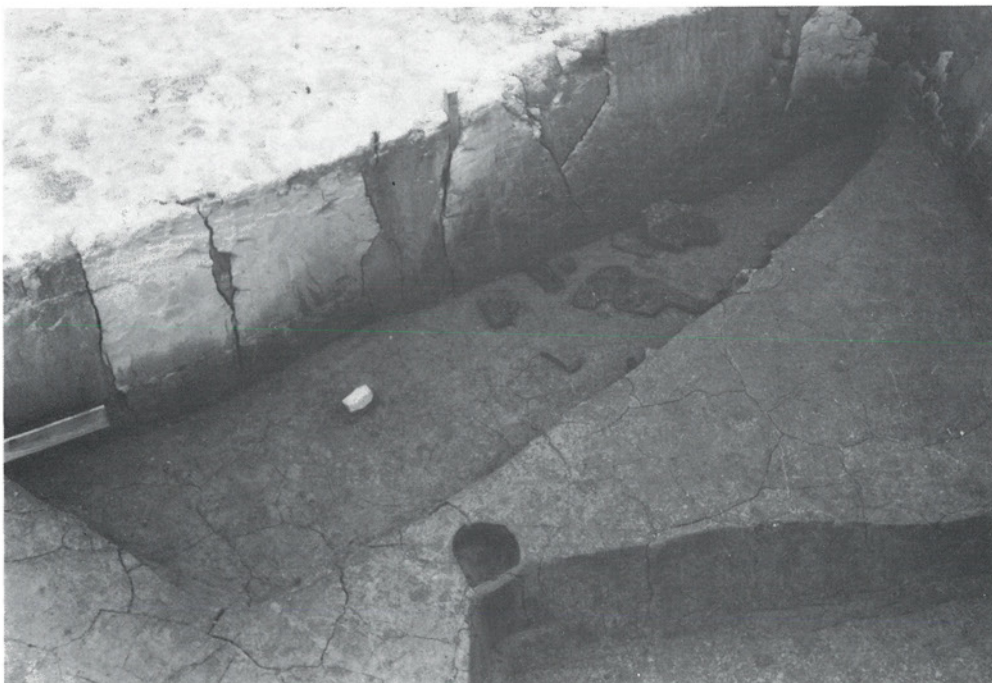
住居跡 S B301 完掘状況 (上：南より・下：東より)



住居跡 S B 302全景 (南より)

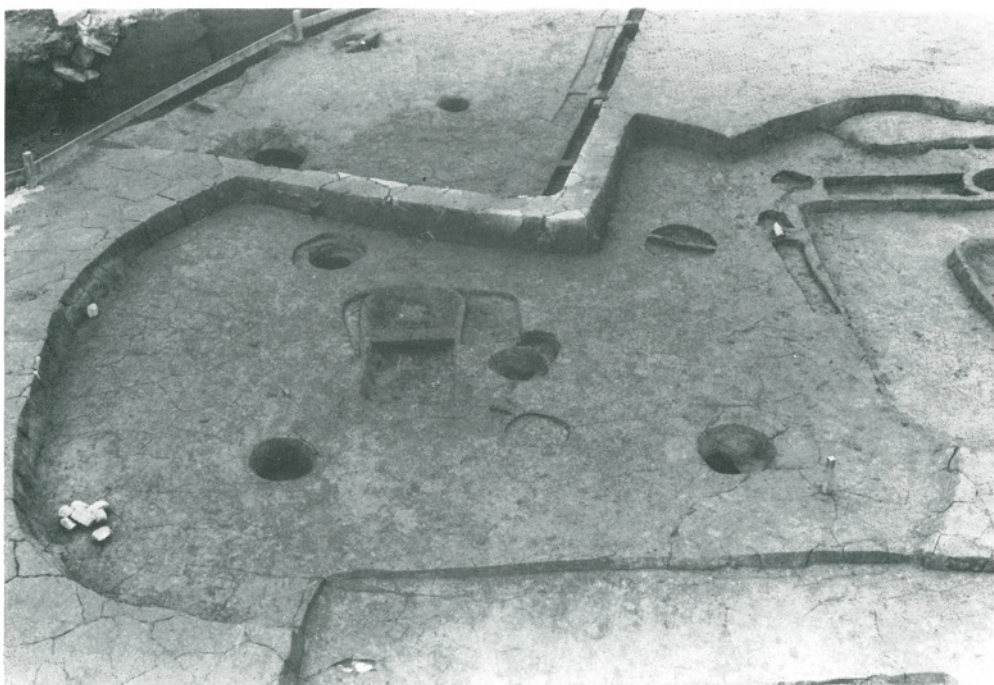


住居跡 S B 302床面遺物出土状況

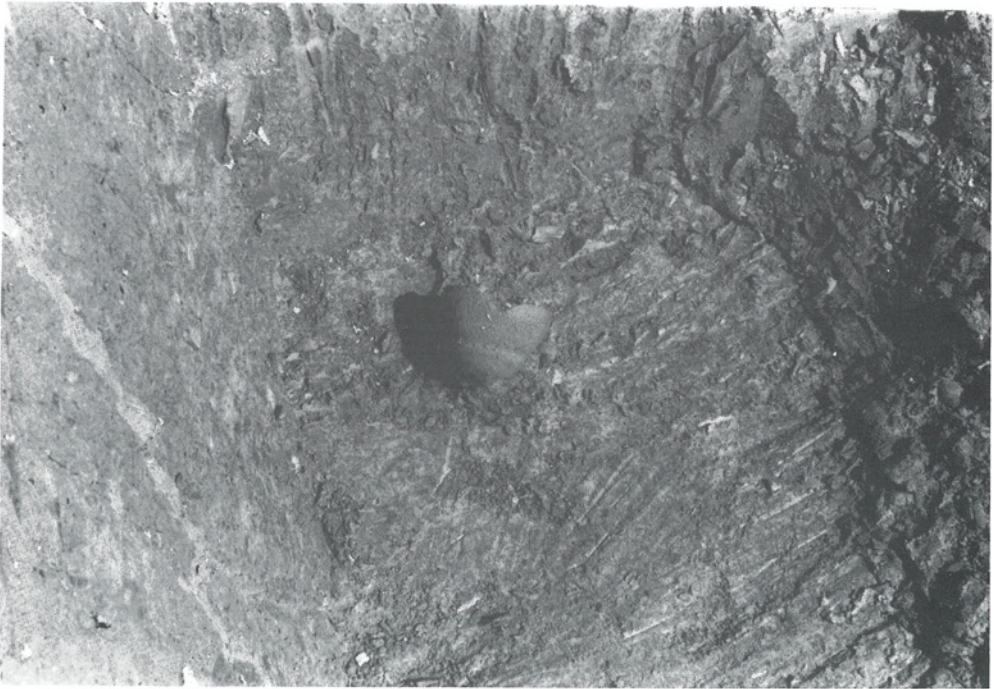


住居跡 S B 303完掘状況 (上)

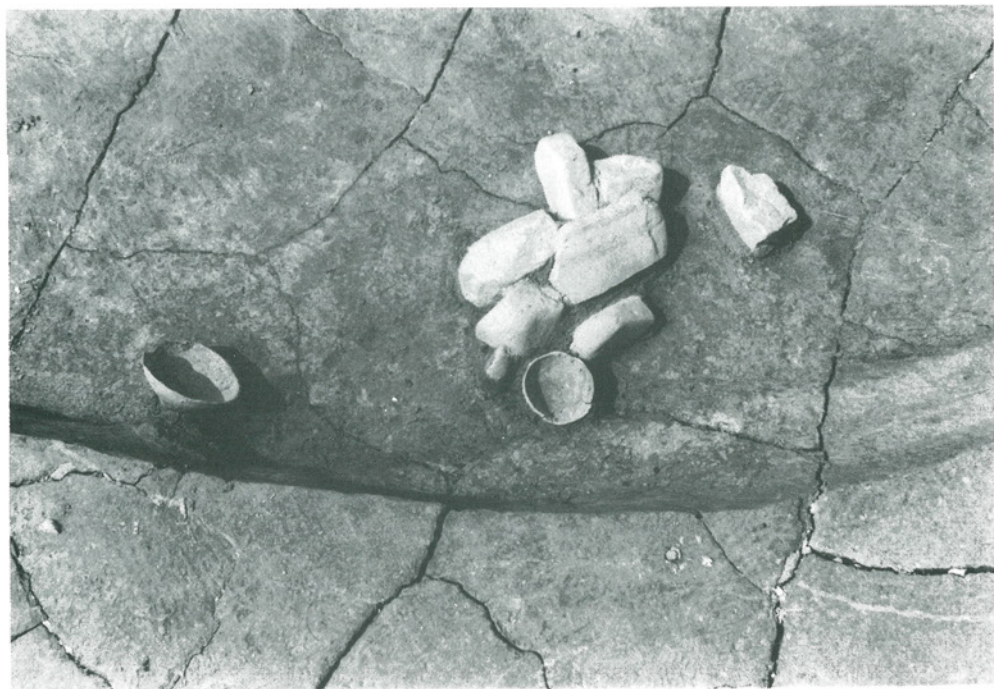
土坑 S K 305遺物出土状況 (下)



住居跡 SB304全景（上：東より・下：西より）



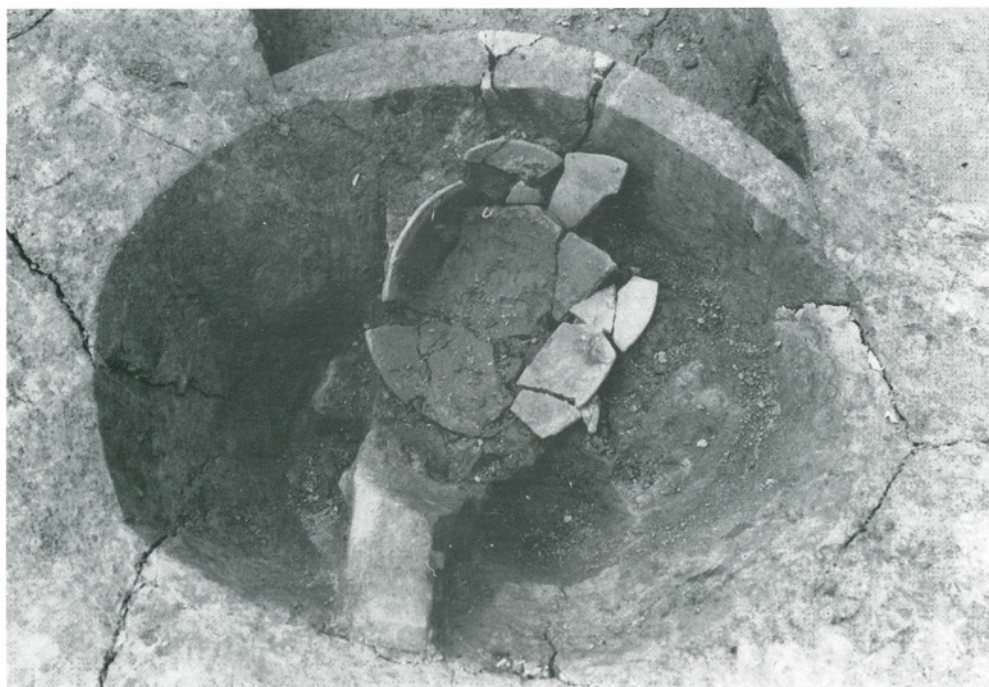
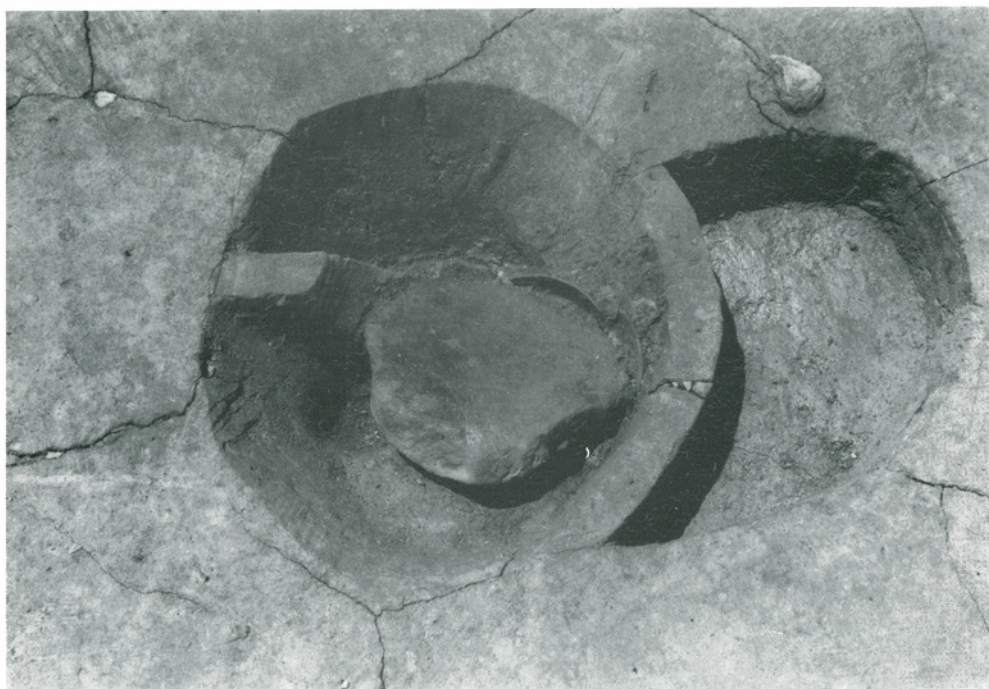
住居跡 S B 304遺物出土状況



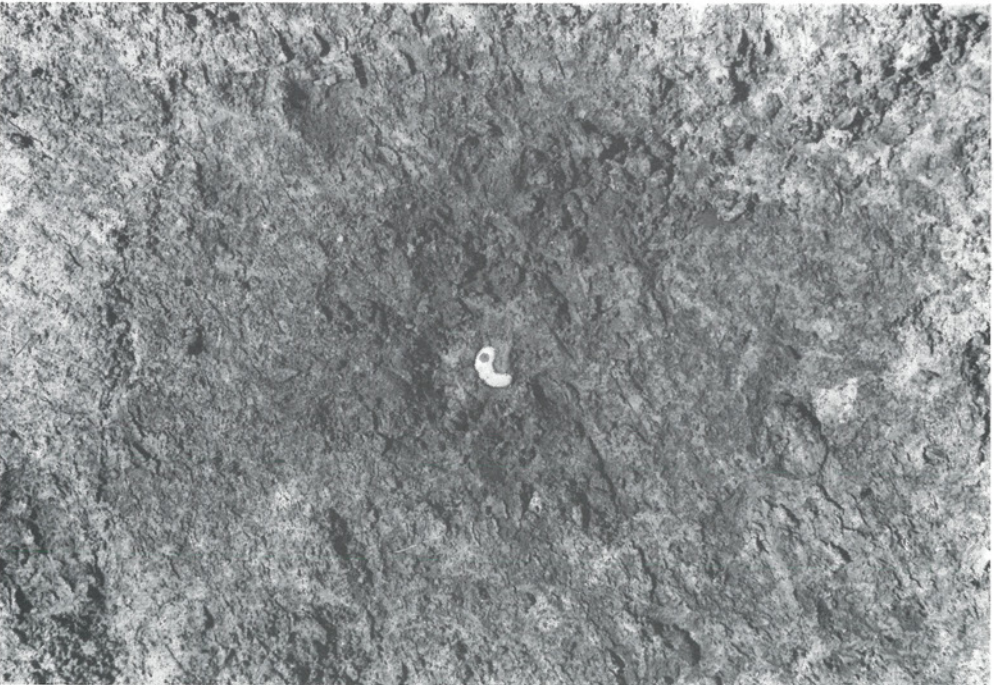
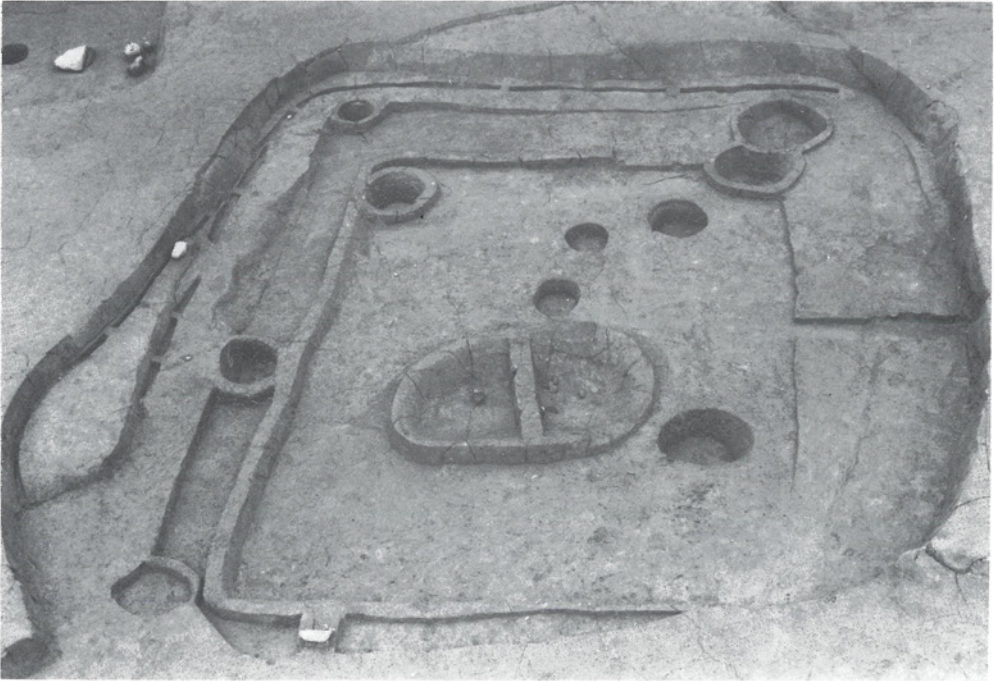
住居跡 S B304遺物出土状況



住居跡 S B304遺物出土状況

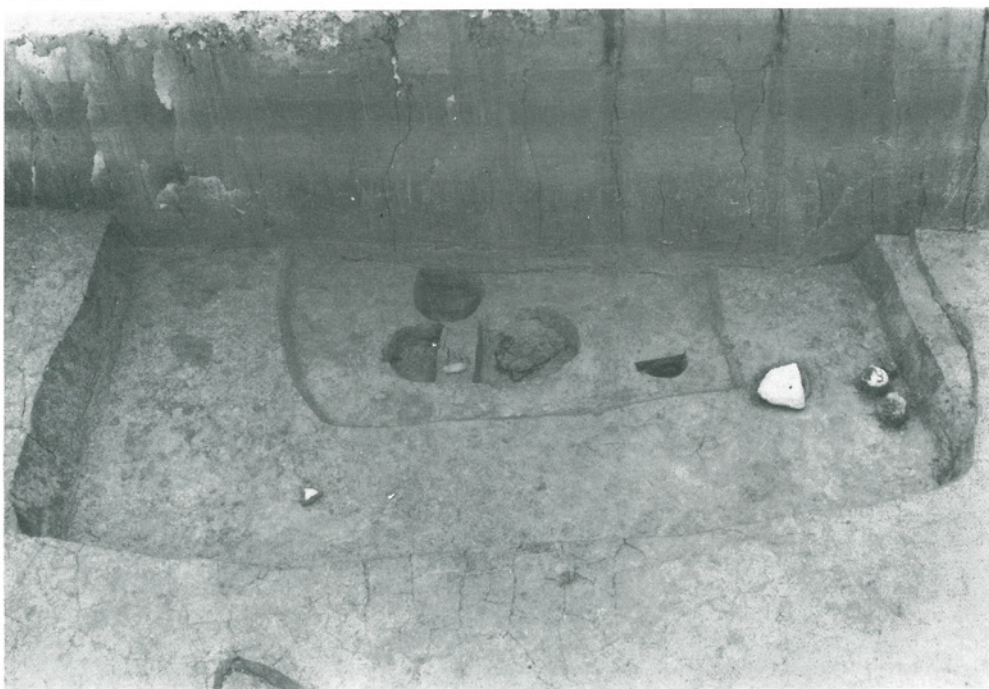


住居跡 S B304中心柱穴内遺物出土狀況（上：石臼檢出段階・下：石臼除去後）

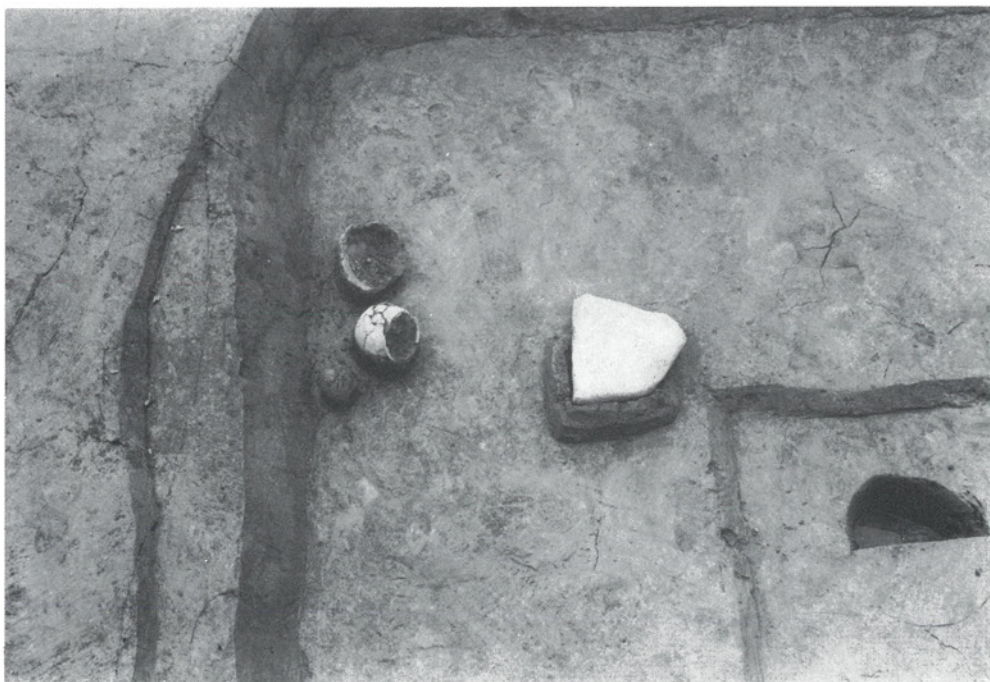


住居跡 S B 305, 308, 309, 310全景 (上)

住居跡 S B 305内勾玉出土状況 (下)



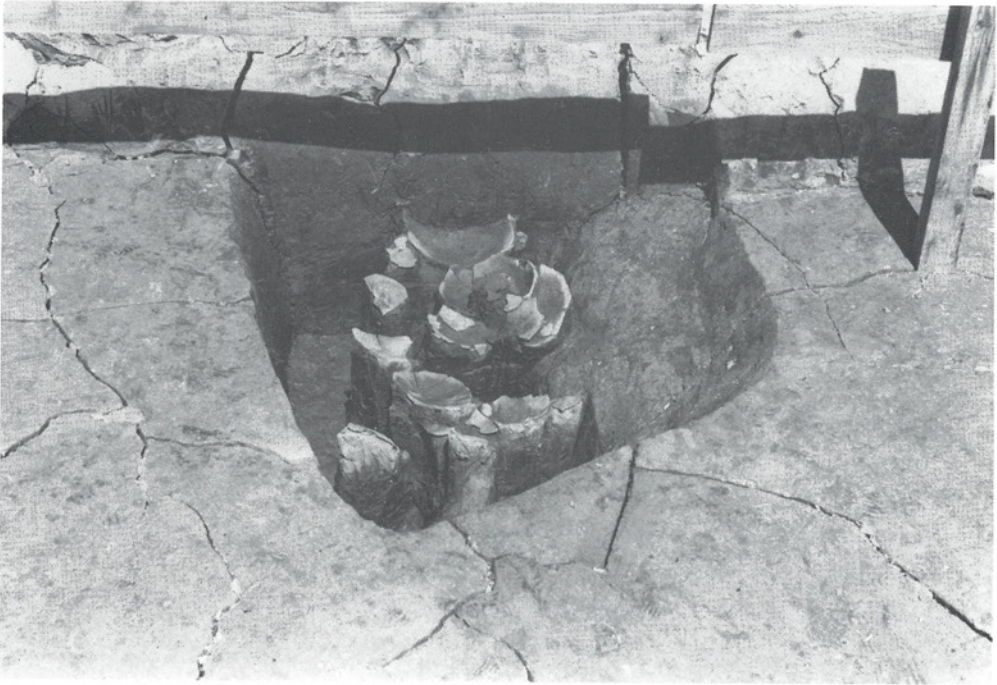
住居跡 S B 306全景 (上: 南より)
住居跡 S B 306内石臼出土状況 (下)



住居跡 S B 306内遺物出土状況（上：北より・下：南より）



住居跡 S B306内土坑全景（上：北より・下：南より）

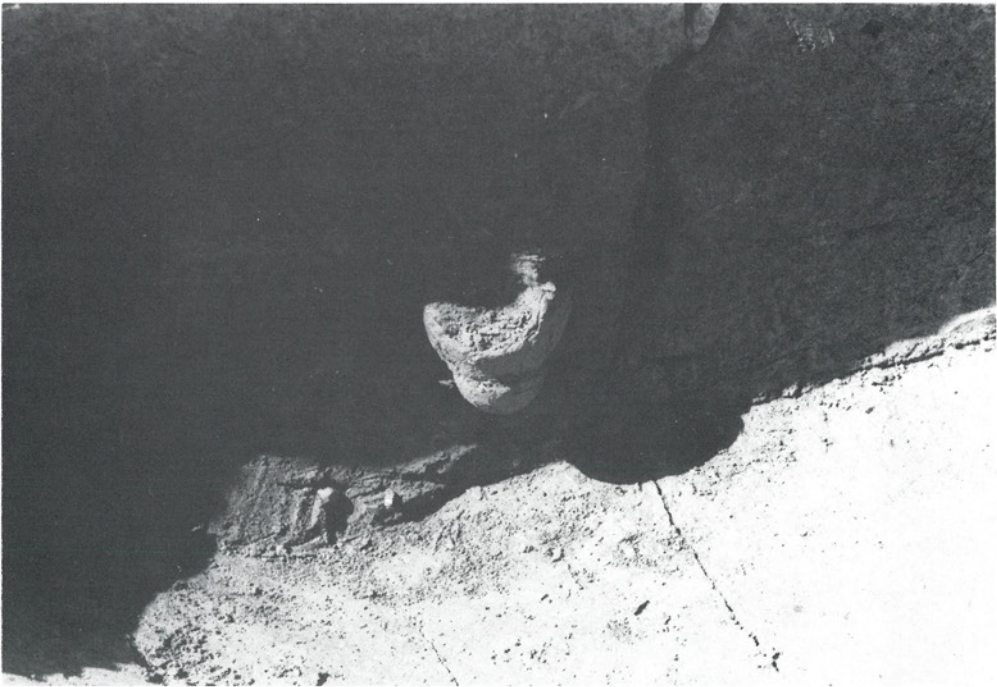


土坑 S K 302全景 (上: 西より・下: 北より)

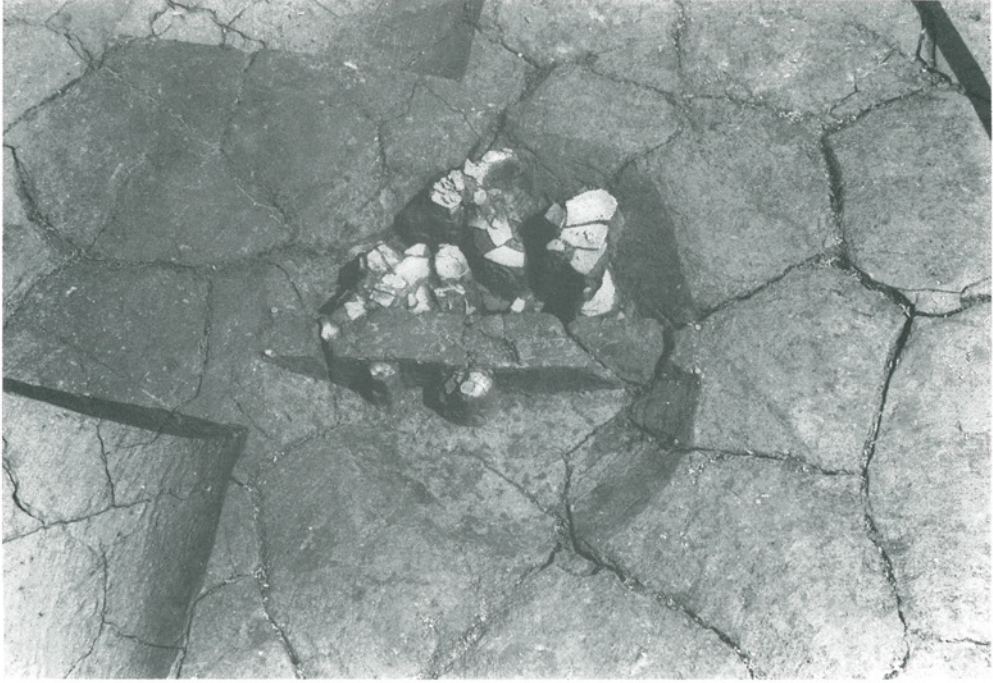


土坑 S K303全景 (上)

土坑 S K303遺物出土狀況 (下)



土坑 S K 303遺物出土狀況



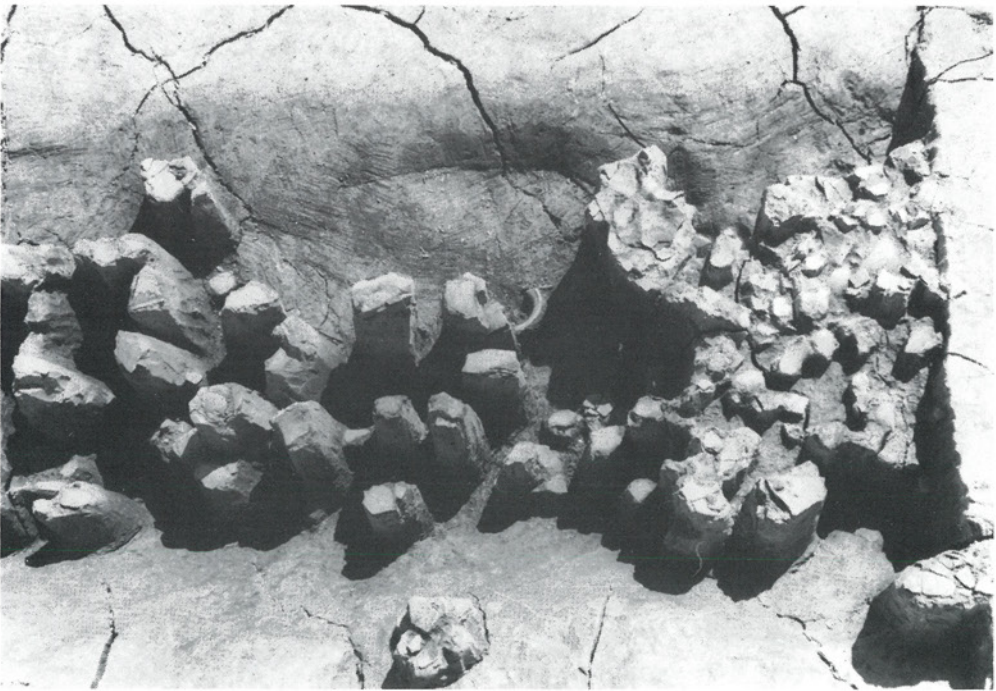
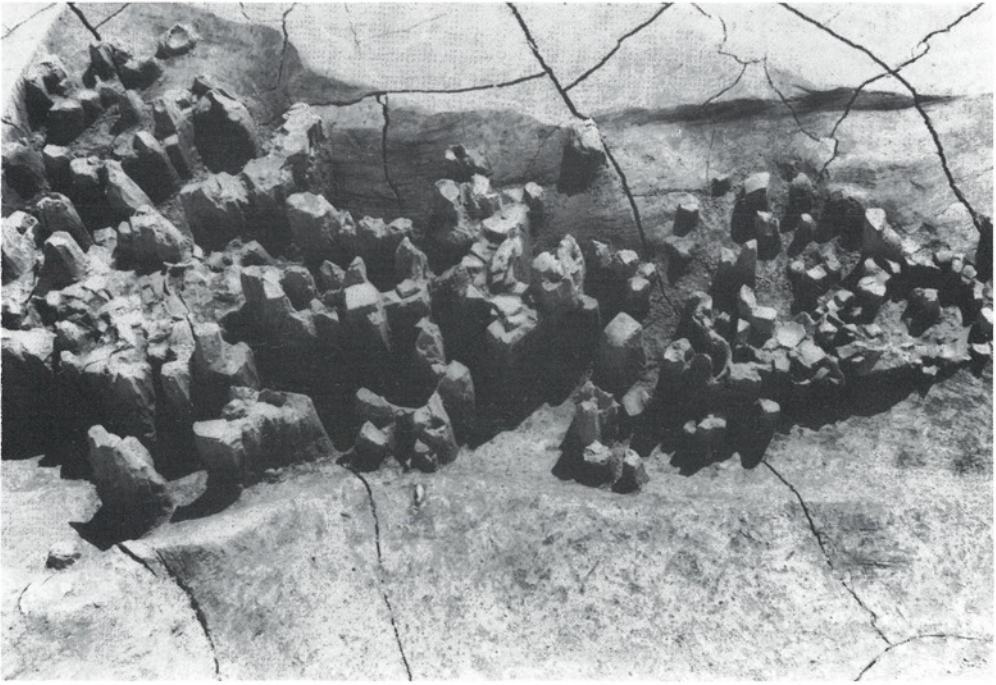
土坑 S K 304全景 (上)
土坑 S K 308全景 (下)



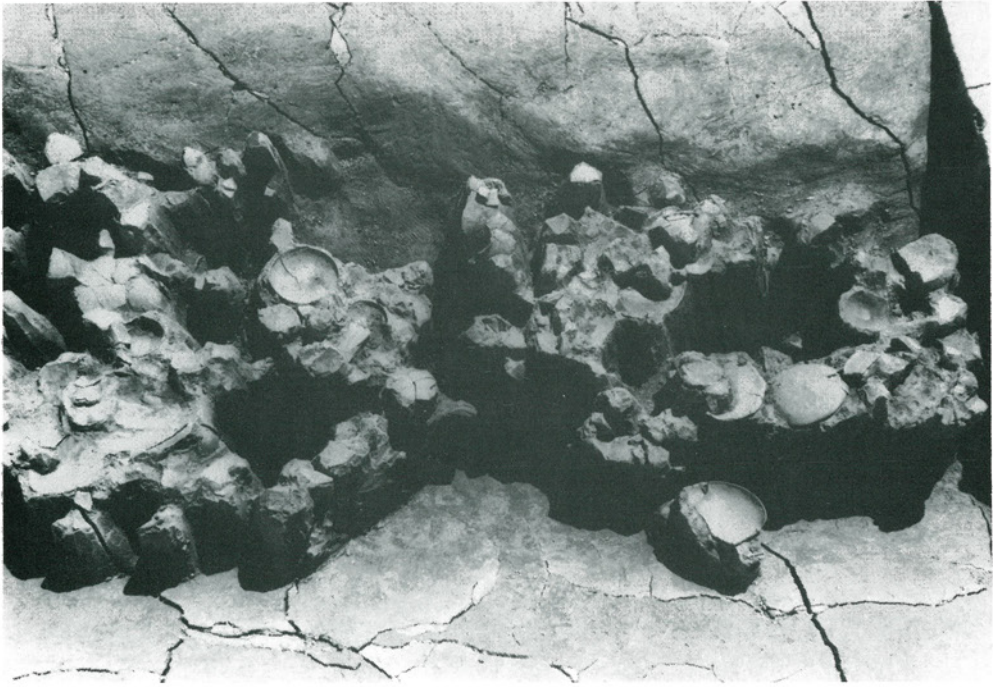
溝 S D 301, 302検出状況 (西より)



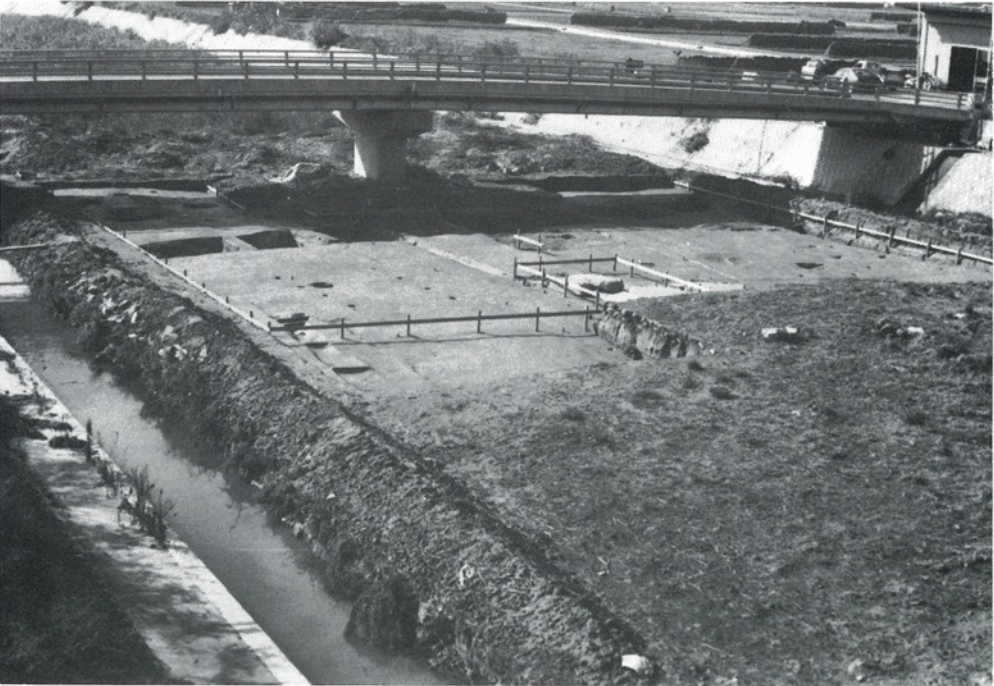
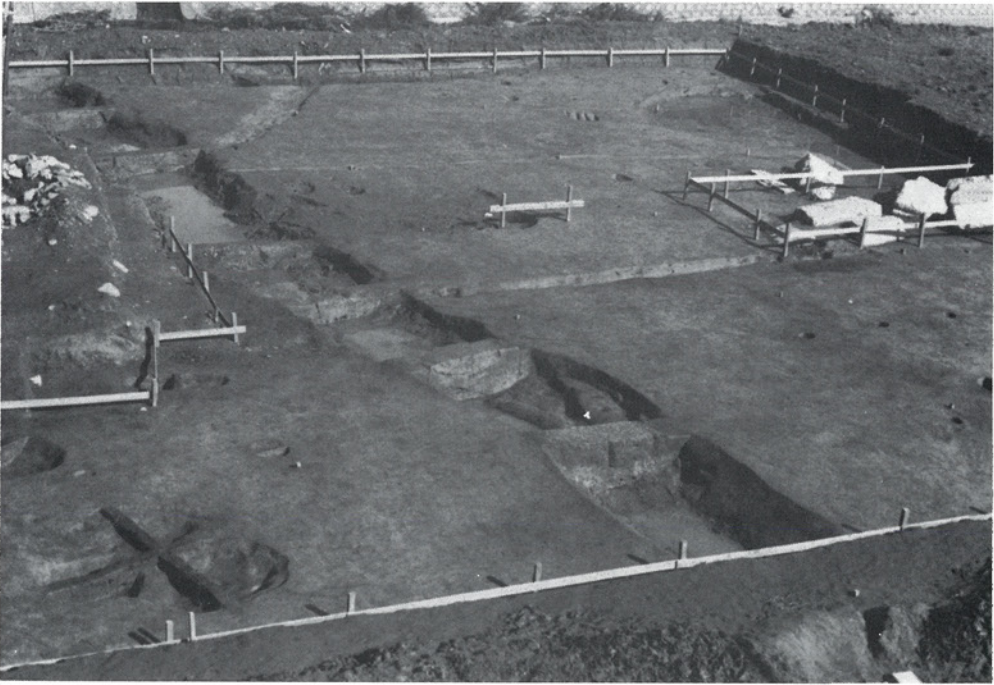
溝 S D 301,302完掘状況 (西より)



溝 S D 302遺物出土状況



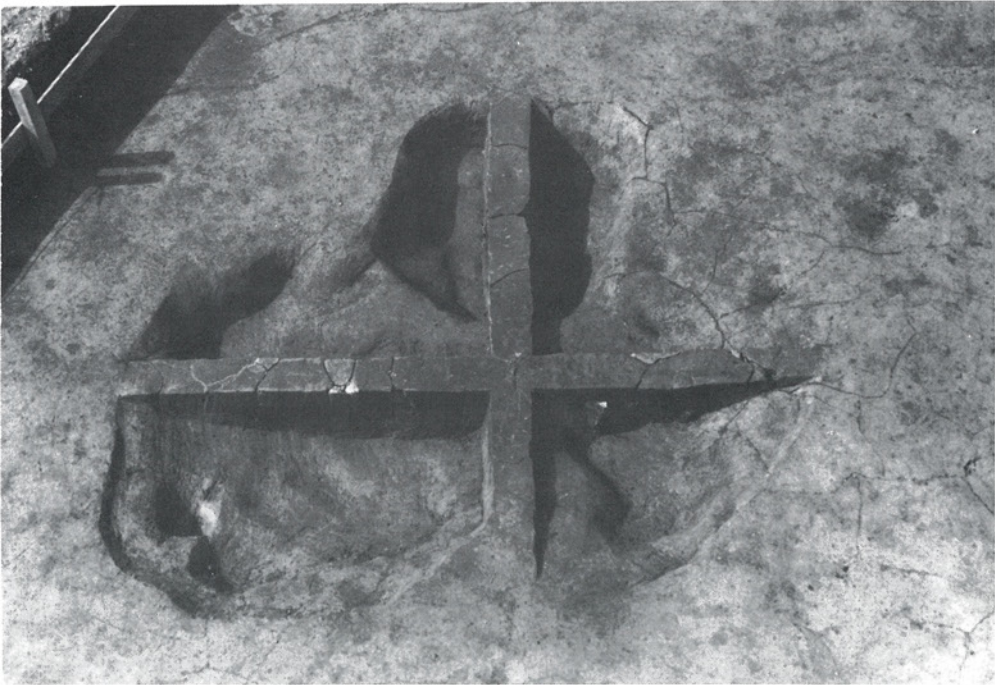
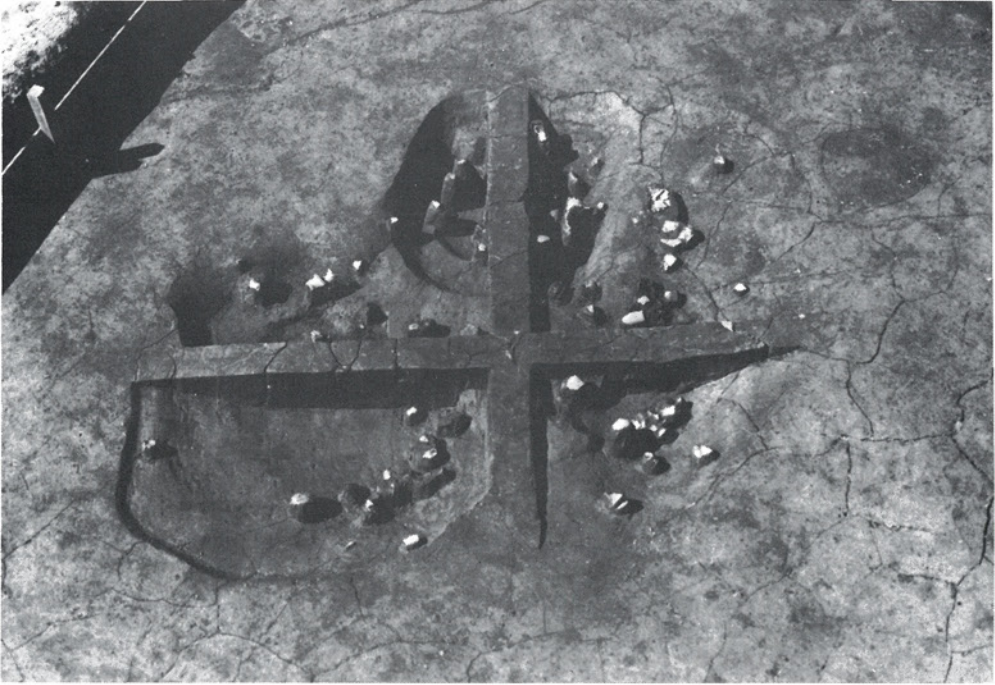
溝 SD302遺物出土狀況(上)
土坑 SK306全景(下)



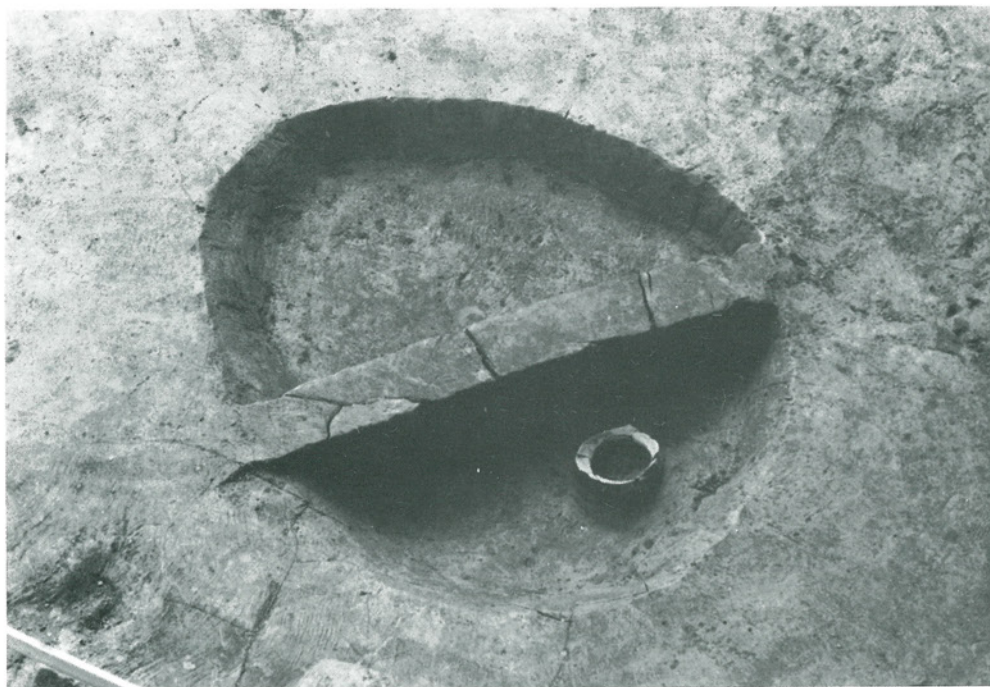
第IV次調査区全景（上：南より・下：東より）



住居跡 S B401全景（南より）



土坑 S K 401 全景 (南より)



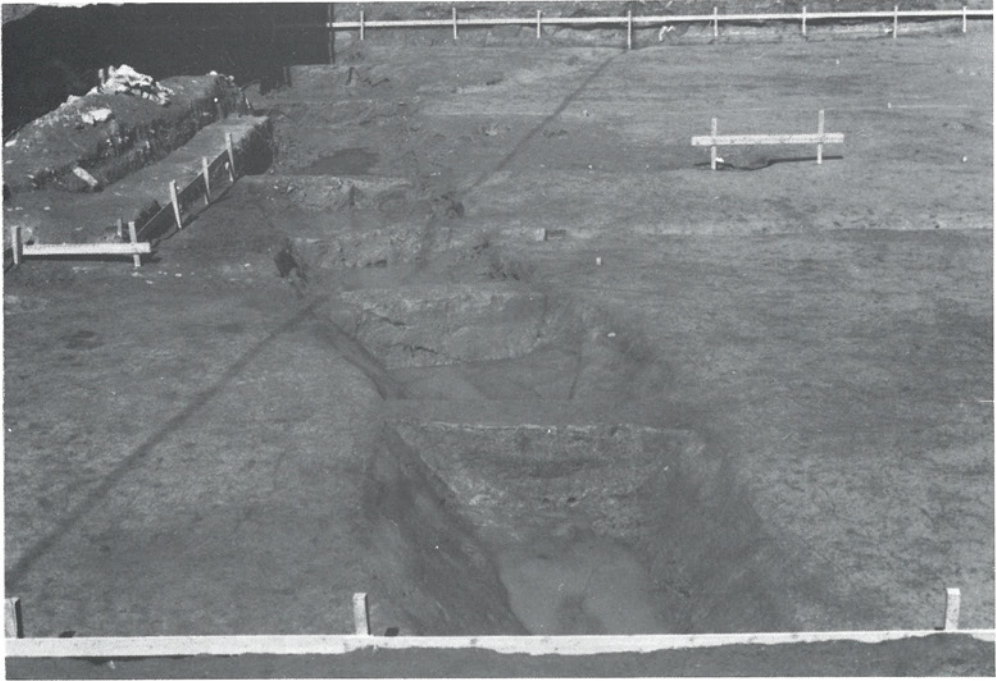
土坑 S K 402, S K 403全景



土坑 S K 403全景 (東より)



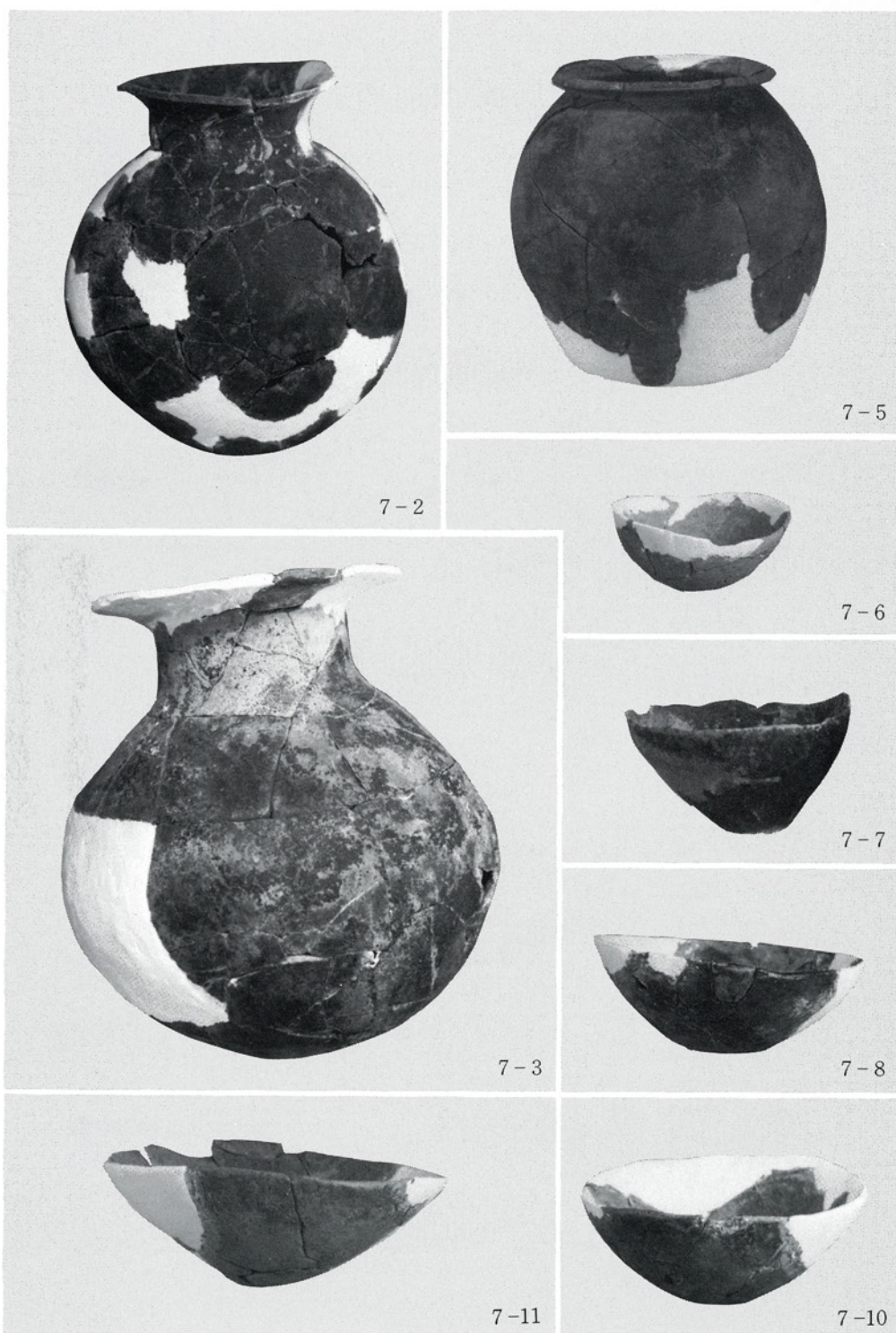
建物跡 S A401全景（西より）



溝 S D401全景 (南より)



溝 S D402全景 (西より)



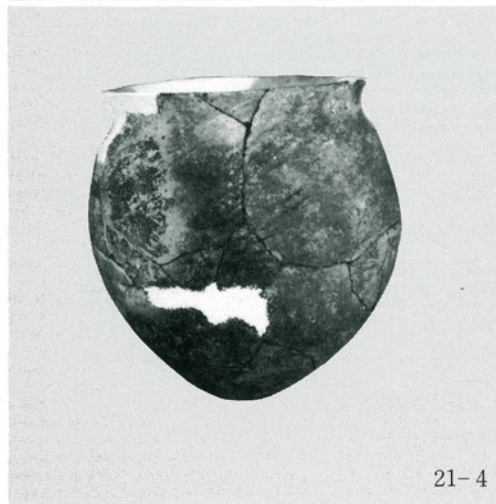
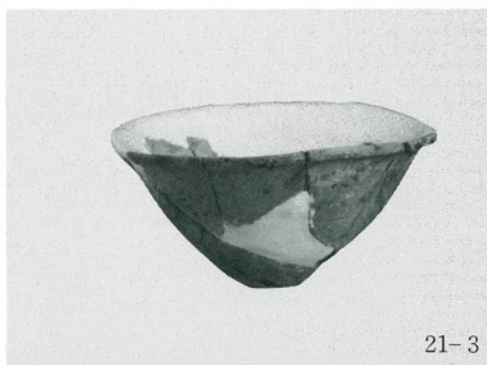
住居跡 S B302出土土器



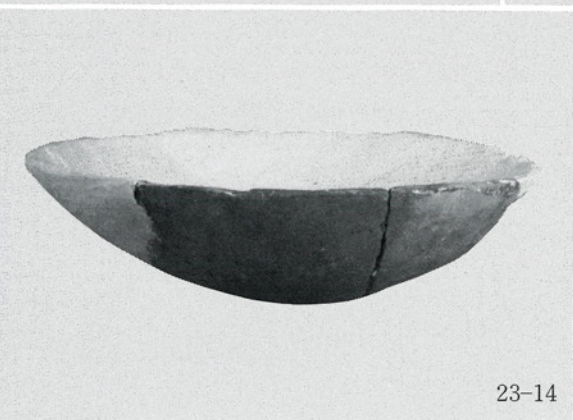
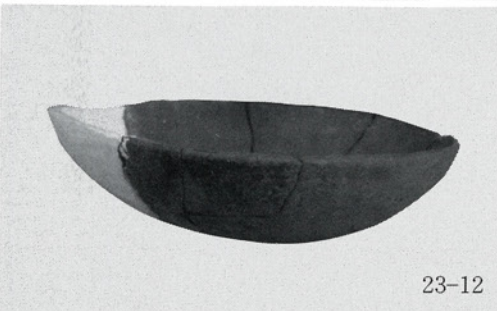
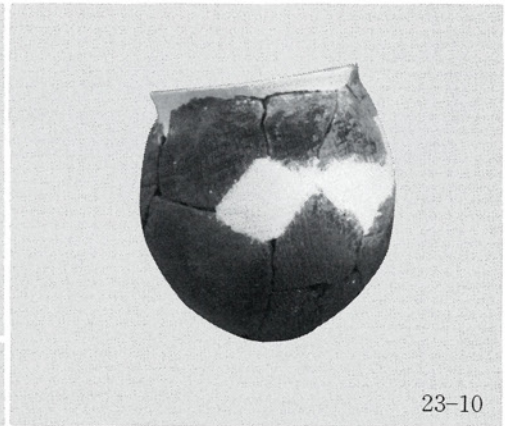
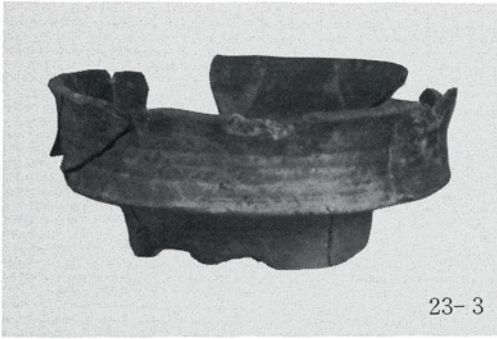
住居跡 S B304出土土器



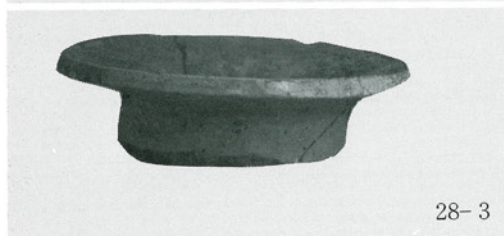
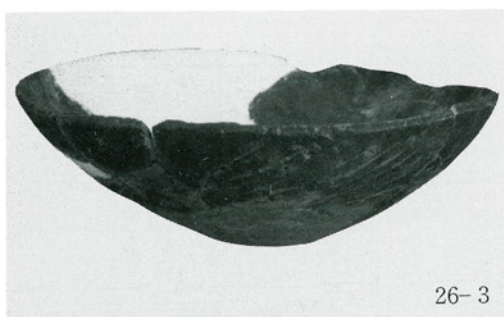
住居跡 S B 304出土土器



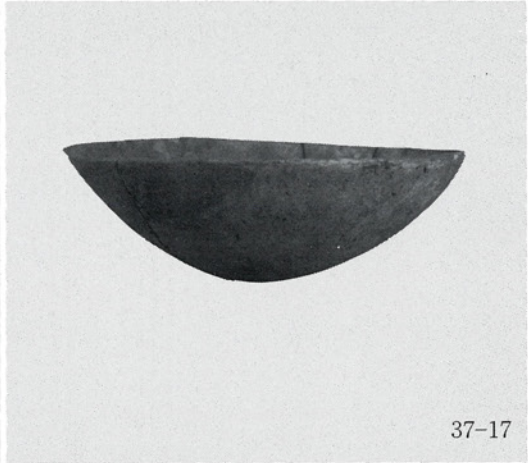
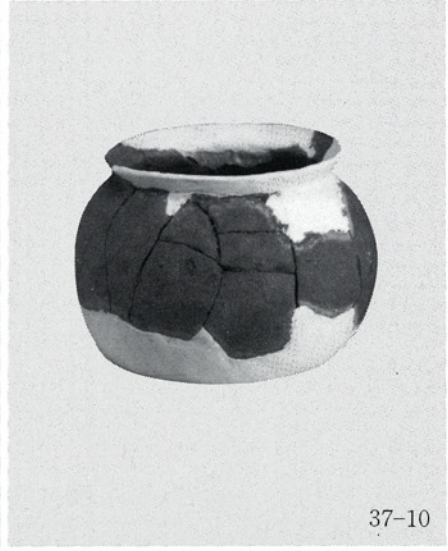
各住居跡出土土器



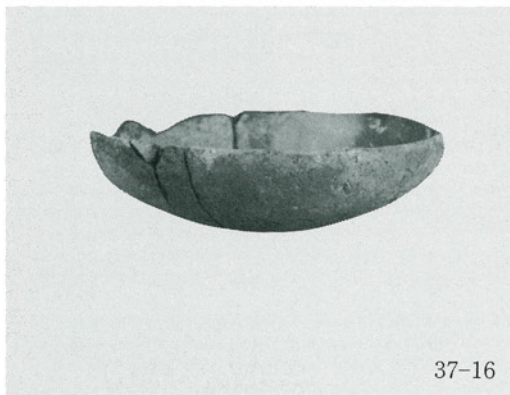
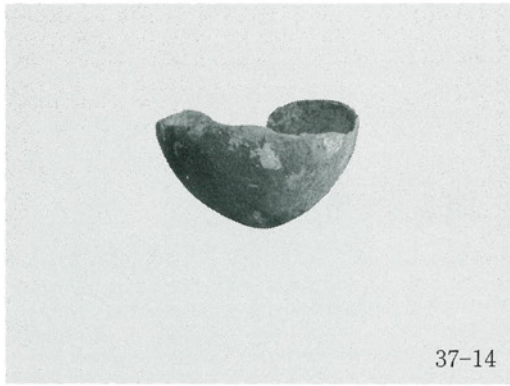
土坑 S K 308出土土器



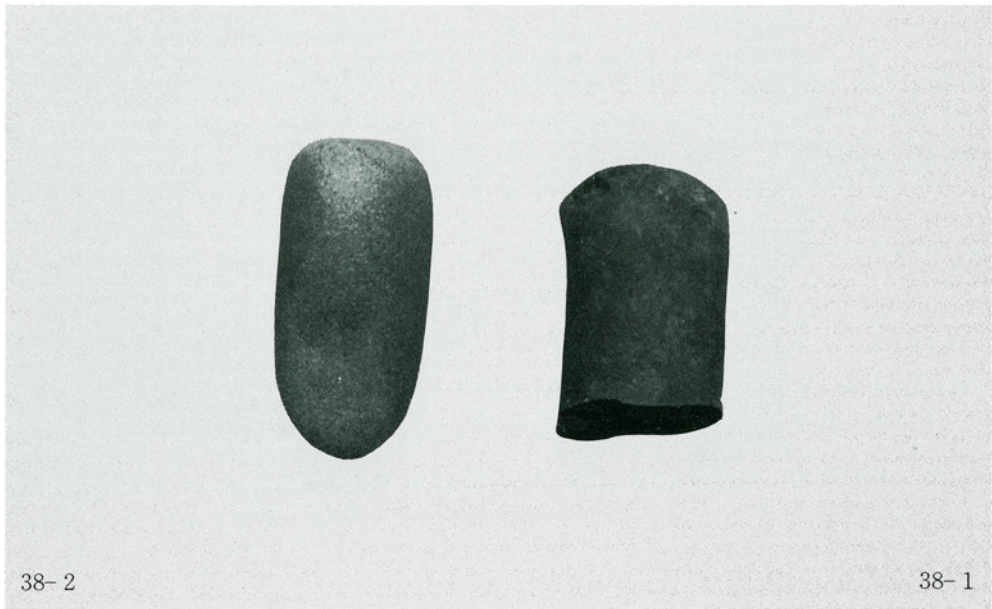
各土坑出土土器



土坑 S K 306・溝 S D 302出土土器



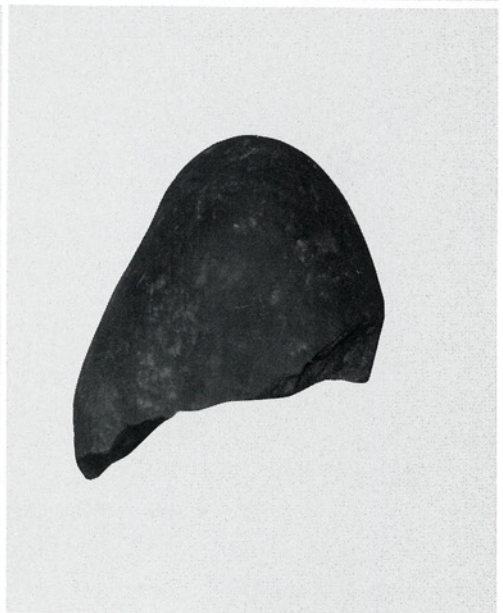
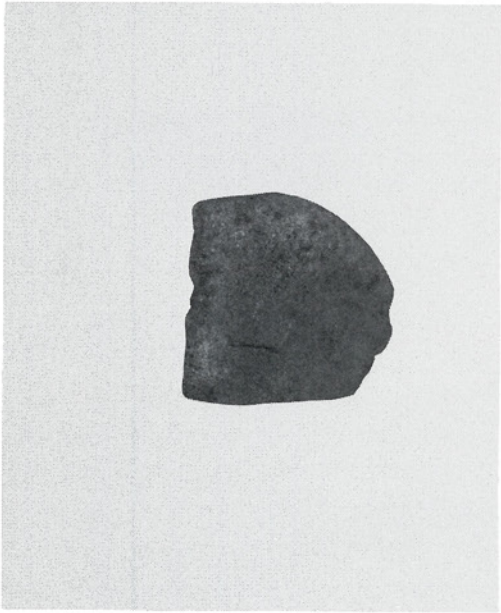
溝 S D 302出土土器



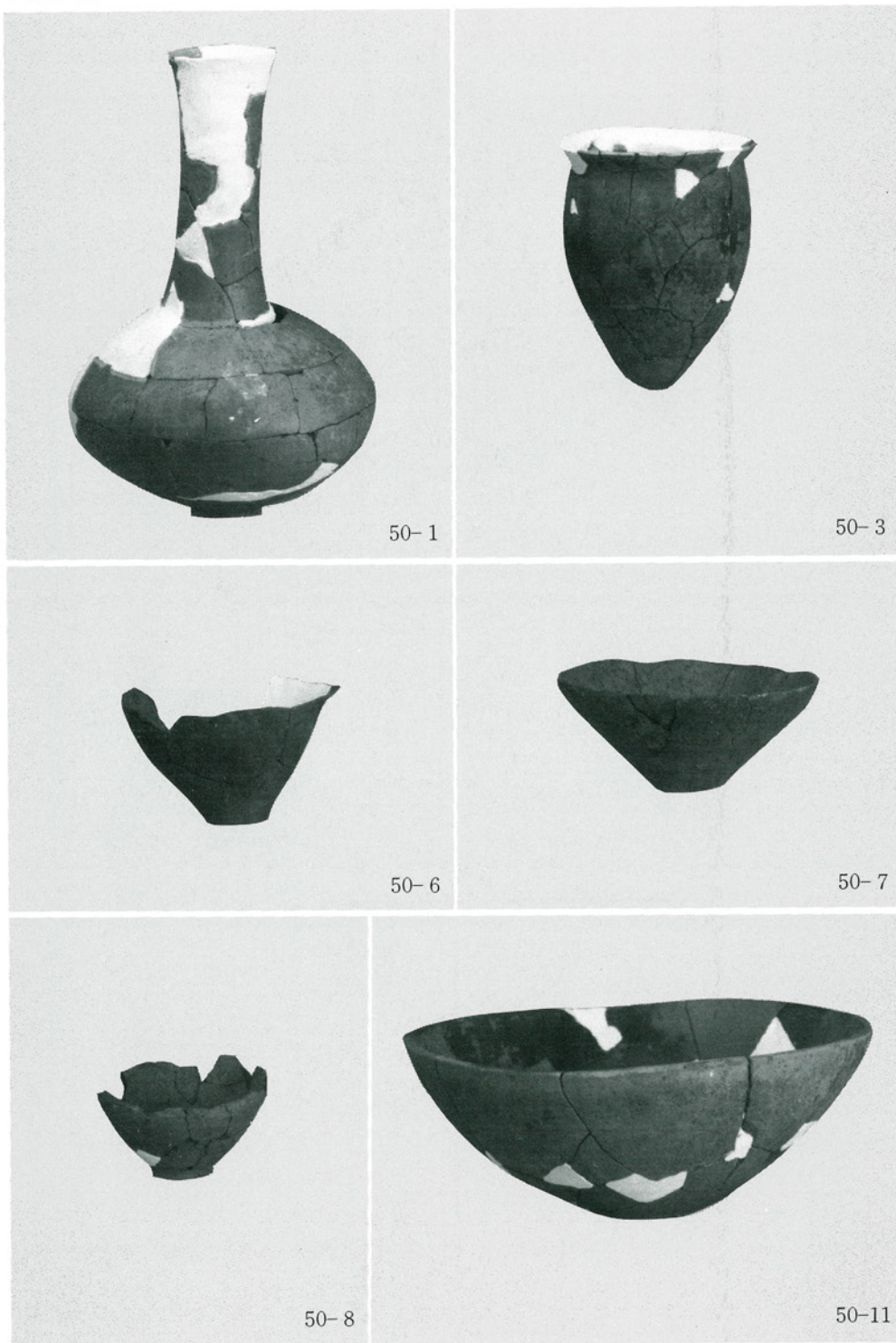
石 杵



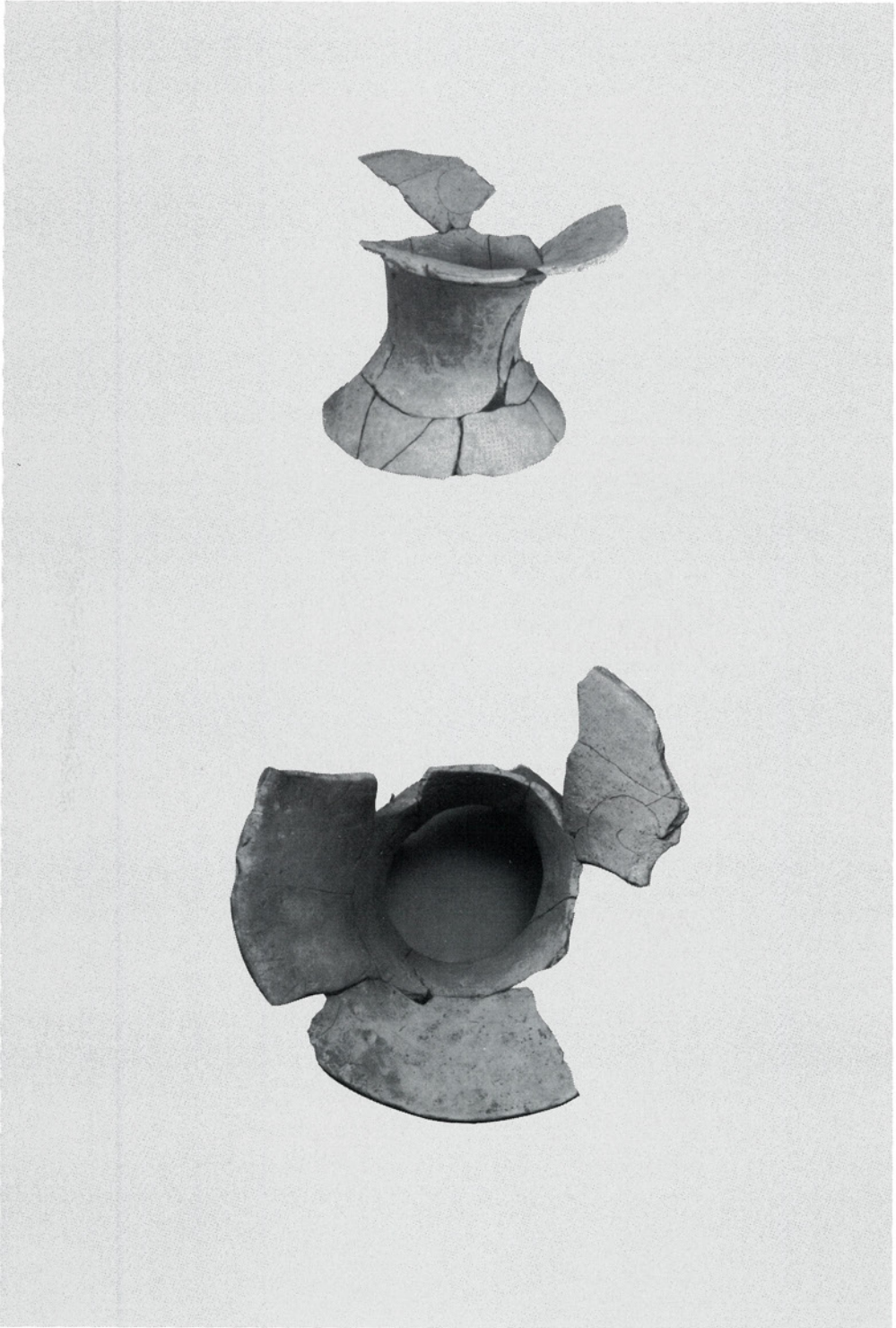
39-2



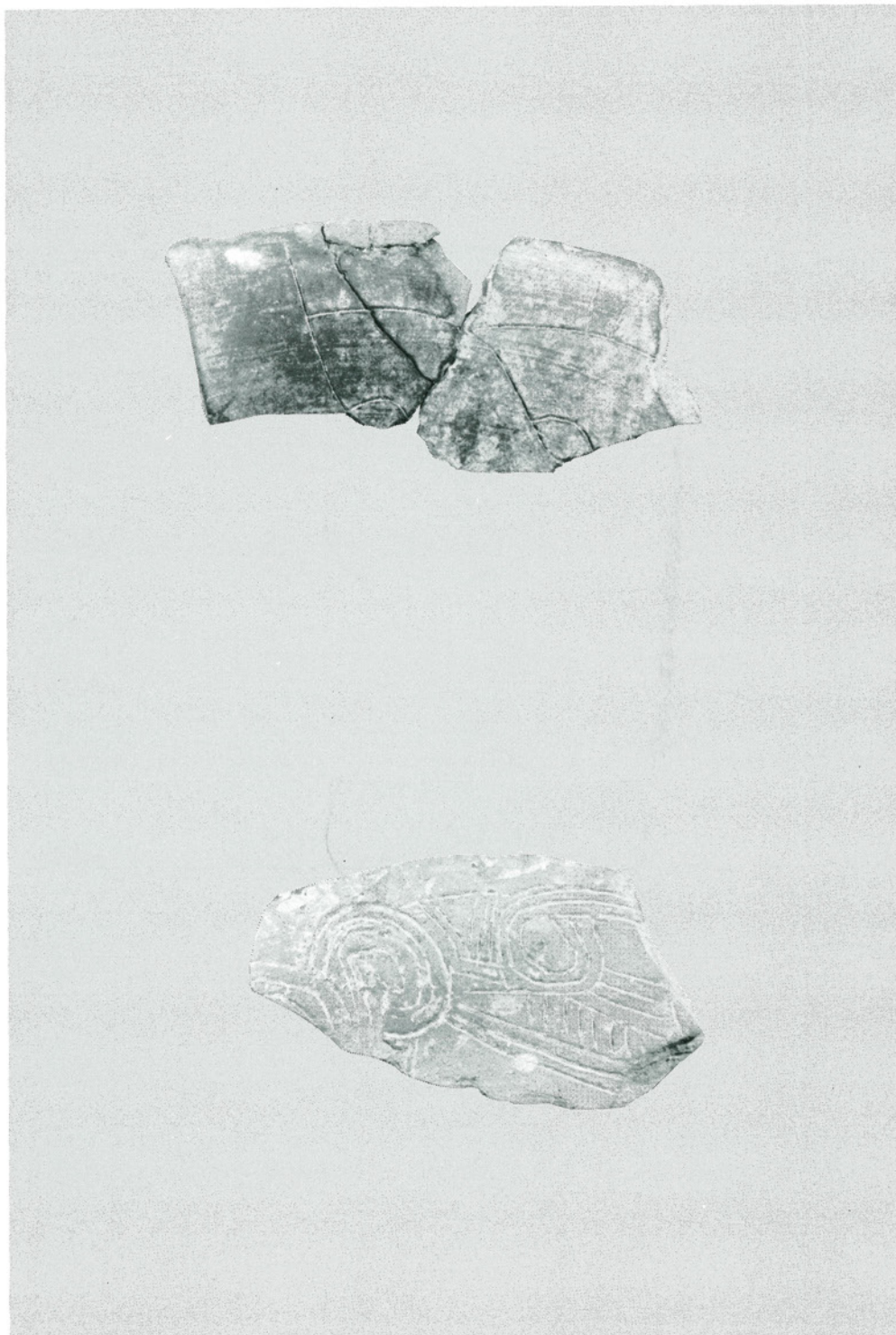
石 白



遺物包含層出土土器



第三次調査出土弧帯文関連文様



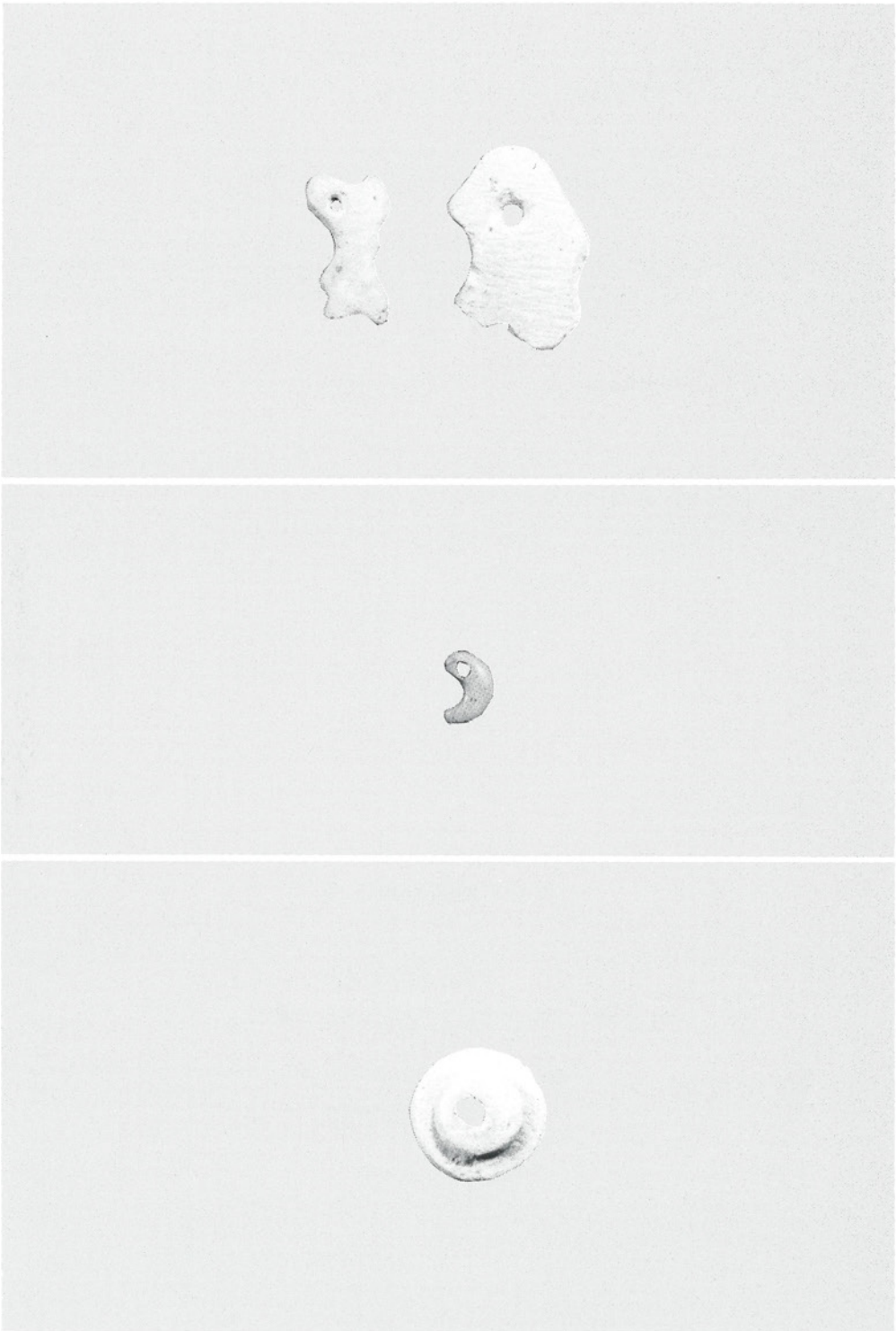
第Ⅲ次調査出土弧帯文関連文様



第Ⅲ・Ⅳ次調査出土弧帯文関連文様



第IV次調査出土舟形土製品



第Ⅲ・Ⅳ次調査出土勾玉・土製品

黒谷川郡頭遺跡Ⅲ・Ⅳ

発行 徳島県教育委員会
徳島市万代町1丁目1番地

印刷 (協)徳島印刷センター
徳島市問屋町

平成元年3月28日